

石川県立看護大学

年報

第22巻

令和3年度

巻頭言

今なお新型コロナウイルス感染症対応にご尽力されている保健医療福祉の従事者の皆さまに心より敬意を表します。

石川県立看護大学は令和3年(2021年)度、開学から22年目を迎え、今年度は学部卒業生83名、大学院修了生11名(博士前期課程10名、博士後期課程1名)を巣立たせることができました。新型コロナウイルス感染拡大の中、2年間を過ごし、さまざまな制約がありつつも、オンライン授業も日常の光景となり、学部生と教員は工夫をしながら看護学実習に取り組んだ時期でありました。また、大学院生は研究のために臨地に出ることに限界も生じましたが、粘り強く取り組み、限界がある中でも、それぞれの研究テーマを深めることができました。これは教職員一同の教育研究上の新しい試みや大きな支えがあったからこそ成し遂げられたことであると思うと深い感動を覚えます。このような感染拡大の時節であるからこそ未来の看護職者、研究職者を育てるために教育や研究を止めてはならないとさらに気持ちを深めた年でありました。

令和3年度は、本学の魅力を高校生や中学生の方々にも伝わるよう高大接続やオープンキャンパスなどコロナ禍にありながら、広報活動に力を入れました。それはコロナを経験した未来の看護職のイメージは大きく変わっていくことであろうと予想したからです。

地域ケア総合センター事業では、人材育成や地域連携事業では、各分野の事例検討会や研修会が再開されてきました。令和2年度から開始された「わたしと地域の未来を変革するSDGs」は、持続可能な未来社会を構築していく上で貴重な学びを提供してくれる取り組みであったと思います。また、国際貢献事業では海外に出かけることやお迎えすることは難しいけれど15年余り継続してきたJICA日系研修がオンラインで開催され、地球の反対側の人々とICTでつながることができました。

看護キャリア支援センター事業では、この時代に求められる「感染管理認定看護師」の教育課程を継続することができ、44名の修了生を輩出することができました。県内外の感染対策に大いに活躍をされていくものと思います。また、多様なヘルスケアニーズをもつ個人、家族、地域住民及び社会に対して、質の高い組織的看護サービスを提供するために必要な知識・技術・態度の習得を目的とした「認定看護管理者(サードレベル)」教育課程では28名の修了生を送り出すことができました。石川県立看護大学の教育課程で学ばれた看護管理者ネットワークが本学の教育・研究の充実に寄与して下さることを願ってやみません。

このような本学が取り組む教育・研究・社会貢献のすべての事業は、国連が提唱するSDGsに位置づけられ、一人ひとりが真の豊かさを実感でき、生涯にわたり生きがいと活力をもって暮らすことができるように、引き続き社会に求められる教育機関として本学のさらなる発展を追究してまいりましょう。

皆さまからの本学に対する忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いに存じます。

石川県立看護大学 学長 真田弘美



第 22 回入学式（令和 3 年 4 月 6 日）



石垣和子学長 最終講義「文化看護学への歩み」



令和 3 年度日系社会研修 開講式



「インターナショナルカフェ」(令和4年3月2日)



石川県看護教員現任研修
(令和3年10月16日)



感染管理認定看護師教育課程 開講式
(令和3年7月1日)



第18回卒業式・学位授与式(令和4年3月19日)

目 次

巻頭言

1. 学事	1
1.1 2021 年度学事暦	1
1.2 大学組織図	2
1.2.1 大学組織図	2
1.2.2 常設委員会構成	3
1.3 懇話会	5
2. 教員・職員	6
2.1 教員紹介	6
2.2 特任教員等紹介	10
2.3 教員組織構成	11
2.3.1 所属領域・講座と職位構成	11
2.3.2 職位別年齢構成	11
2.3.3 大学院看護学研究科の研究指導教員・研究指導補助教員	11
2.3.4 博士前期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成	12
2.3.5 博士後期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成	12
2.4 職員紹介	13
3. 中期計画	14
4. 看護学部看護学科	19
4.1 理念・目標	19
4.1.1 教育理念	19
4.1.2 教育目標	19
4.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）	19
4.1.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）	20
4.1.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）	20
4.2 学部学生の入学・在学・卒業の状況	21
4.3 教育・履修体制	24
4.4 委員会活動	25
4.4.1 常設委員会	25
4.4.1.1 教務委員会	25
4.4.1.2 学生委員会	26
4.4.1.2.1 学生相談専門部会	27
4.4.1.2.2 進路支援専門部会	28
4.4.1.3 研究推進委員会	29
4.4.1.3.1 学内研究助成専門部会	31
4.4.1.4 石川看護雑誌編集委員会	31
4.4.1.5 情報システム委員会（含む情報セキュリティ）	31

4.4.1.6	広報委員会	32
4.4.1.7	入学試験委員会	34
4.4.1.7.1	入学試験実施専門部会	35
4.4.1.7.2	入学試験評価部会	35
4.4.1.8	自己点検・評価委員会	35
4.4.1.8.1	教員評価部会	37
4.4.1.9	FD委員会	38
4.4.1.10	ハラスメント委員会	39
4.4.1.11	コンプライアンス委員会	39
4.4.1.12	倫理委員会	40
4.4.1.13	衛生委員会	42
4.4.2	特設委員会	43
4.4.2.1	カリキュラム改革委員会	43
4.4.2.2	基礎科学教育拡充ワーキング	46
4.5	令和3年度 卒業研究論文題目一覧	48
5.	大学院・看護学研究科	52
5.1	理念・目標	52
5.1.1	博士前期課程（修士）	52
5.1.1.1	教育理念	52
5.1.1.2	教育目標	52
5.1.1.3	アドミッション・ポリシー（求める人材）	53
5.1.1.4	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）	53
5.1.1.5	ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）	53
5.1.2	博士後期課程（博士）	54
5.1.2.1	教育理念	54
5.1.2.2	教育目標	54
5.1.2.3	アドミッション・ポリシー（求める人材）	54
5.1.2.4	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）	55
5.1.2.5	ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）	55
5.2	大学院生の入学・在学・修了の状況	56
5.3	大学院教務学生委員会	58
5.4	令和3年度 修士論文題目一覧	60
5.5	令和3年度 博士論文題目一覧	60
6.	教員の業績	61
6.1	書籍	61
6.1.1	書籍（著書）	61
6.2	学術論文	61
6.2.1	査読有	61
6.2.2	査読無	65
6.3	その他の原稿	65

6.4	学会発表	67
6.5	社会活動・地域貢献	73
6.6	その他（受賞等）	83
6.7	研究助成金	84
6.7.1	科学研究費助成事業（日本学術振興会）	84
6.7.1.1	科学研究費補助金	84
6.7.1.2	学術研究助成基金助成金	85
6.7.2	学内研究助成費	87
6.7.3	その他助成金等	87
7.	国際交流	89
7.1	国際交流委員会	89
7.2	アメリカ看護研修	90
8.	地域創生	91
8.1	地域創生委員会	91
9.	附属図書館	93
9.1	図書館運営委員会	93
9.2	今年度の主な活動概況	93
9.2.1	図書館事業の実施	93
9.3	資料整備状況	94
9.3.1	分野別蔵書構成（令和4年3月31日現在）	94
9.3.2	医学分類蔵書構成（令和4年3月31日現在）	94
9.3.3	看護系資料分類別構成（令和4年3月31日現在）	94
9.4	利用統計	95
9.4.1	開館日数・入館者数	95
9.4.2	館外利用者数及び冊数	95
9.4.3	他大学・国立国会図書館・公共図書館への文献複写依頼件数	95
9.4.4	他大学・公共図書館・個人からの文献複写受付件数	95
9.4.5	館内設置コピー機による複写件数・枚数	96
9.4.6	相互貸借貸出冊数	96
9.4.7	相互貸借借受冊数	96
9.4.8	データベース利用状況	96
9.5	利用統計サービス	97
9.5.1	学内向図書館サービス	97
9.5.2	学外向図書館サービス	97
9.5.3	学内で利用できるデータベース	98
9.6	職員研修	98
9.6.1	附属図書館職員の研修	98
10.	附属地域ケア総合センター	99

10.1	地域ケア総合センター運営委員会	99
10.1.1	人材育成部会	100
10.1.2	地域活動部会	100
10.1.3	国際貢献部会	100
11.	附属看護キャリア支援センター	102
11.1	看護キャリア支援センター運営委員会	102
11.2	感染管理認定看護師教育課程	102
11.2.1	感染管理認定看護師教育課程入試委員会	103
11.2.2	感染管理認定看護師教育課程教員会	103
11.3	認定看護管理者教育課程サードレベル	103
11.4	認定看護師教育課程フォローアップ研修	103
11.5	石川県委託事業の開催	104
11.5.1	石川県看護教員現任研修事業	104
11.5.2	専門的看護実践力研修「看護管理者経営研修」	105
11.5.3	専門的看護実践力研修「分野別実践看護師養成研修：皮膚・排泄ケア研修」	106
11.5.4	看護実践力向上研修「感染管理看護実践力向上研修」	109
11.6	地域貢献	111
12.	大学として取り組んでいる連携事業	112
12.1	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成	112
12.1.1	がんプロ企画委員会	112
13.	大学施設の開放	116
	編集後記	117

1. 学事

1.1 2021年度学事暦

令和3年

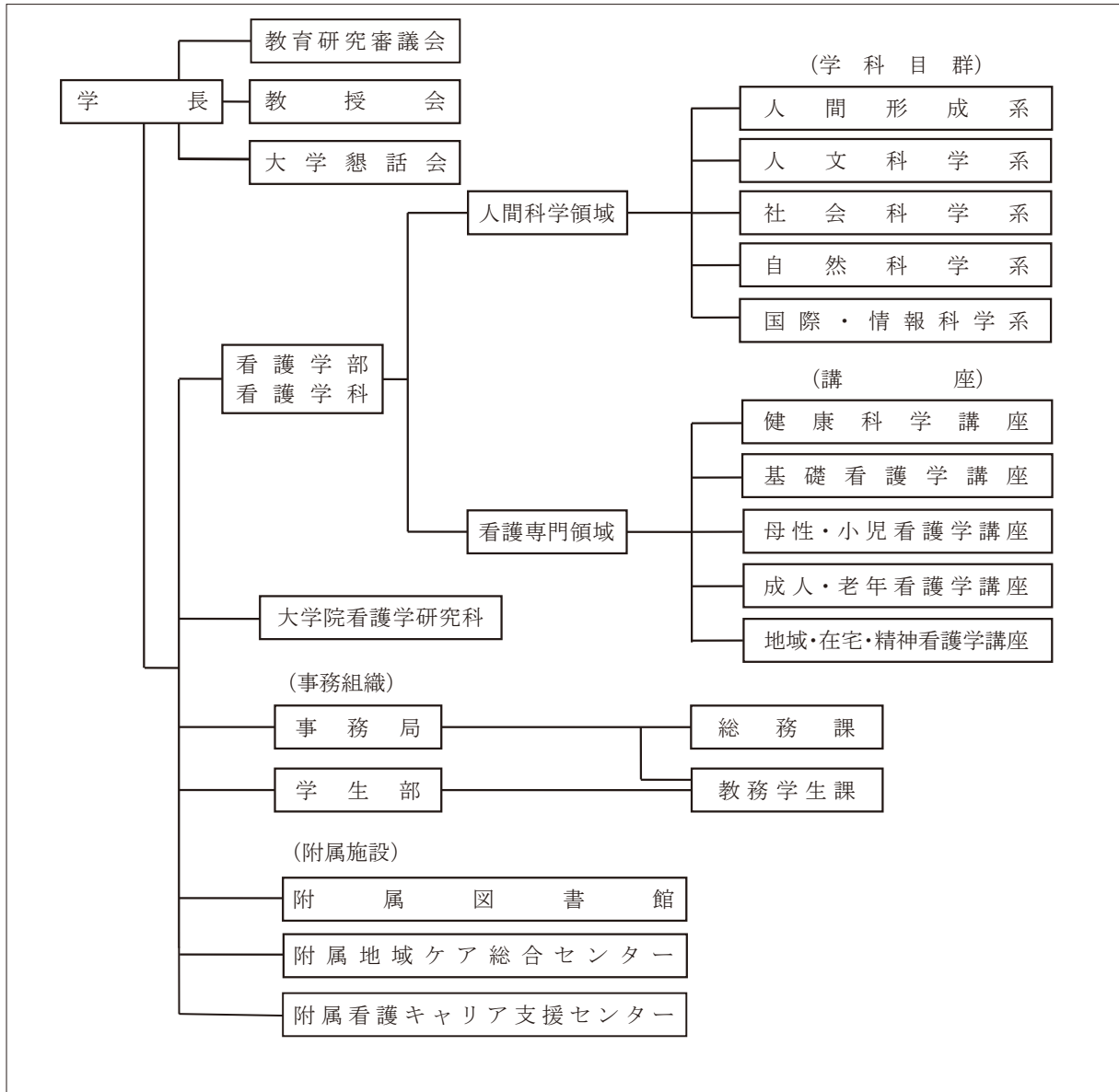
4月 6日 (火)	入学式
4月 5日 (月)、4月 7日 (水)	ガイダンス 学生健康診断
4月 8日 (木)	授業開始
4月 5日 (月) ~ 4月14日 (水)	前期履修登録受付
5月29日 (土)	開学記念日
7月10日 (土) ~ 8月 1日 (日)	夏のオープンキャンパス (オンライン)
7月30日 (金) ~ 8月 6日 (金)	前期補講・試験
8月10日 (火) ~ 9月30日 (木)	夏季休業
9月25日 (土)	入学試験 (大学院博士前期課程・後期課程)
10月1日 (金)	後期授業開始
9月22日 (水) ~ 10月 5日 (火)	後期履修登録受付
10月 9日 (土) ~ 11月20日 (土)	秋のオープンキャンパス (オンライン)
11月20日 (土)	入学試験 (学校推薦型選抜・社会人選抜)
12月20日 (月) ~ 1月 3日 (月)	冬季休業

令和4年

1月15日 (土) ~ 1月16日 (日)	大学入学共通テスト
2月14日 (月) ~ 2月22日 (火)	後期補講・試験
1月29日 (土)	入学試験 (大学院博士前期課程・後期課程)
2月25日 (金)	入学試験 (一般選抜前期日程)
3月12日 (土)	入学試験 (一般選抜後期日程)
3月19日 (土)	卒業式・学位授与式
3月 1日 (火) ~ 3月31日 (木)	春季休業

1.2 大学組織図

1.2.1 大学組織図



1.2.2 常設委員会構成

委員会・部会名	委員長	教員構成	掲載ページ
教務委員会*	学長の指名	小講座から各1名（助教以上） ただし、基礎からは2名	25
学生委員会*	学生部長	大講座から各1名以上（助教以上） +各学年担任から1名	26
学生相談専門部会	学生部長の指名	4名（助教以上）+学生部長	27
進路支援専門部会	学生部長の指名	看護の小講座から1名（講師以上）	28
図書館運営委員会	附属図書館長	大講座から各1名（講師以上）	93
石川看護雑誌編集委員会*	図書館長の指名	5名	31
研究推進委員会*	学長の指名	5名以内（講師以上）	29
学内研究助成専門部会	研究推進委員長が推薦	5名（教授のみ）	31
情報システム委員会	学長の指名	5名	31
地域ケア総合センター運営委員会*	附属地域ケア総合センター長	小講座から1名（講師以上）	99
国際貢献部会		3名	100
地域活動部会		3名	100
人材育成部会		3名	100
看護キャリア支援センター運営委員会*	附属看護キャリア支援センター長	センターの教員3名 その他学長が指名する者5名	102
感染管理教員会		センターの教員3名 学長が指名する本学の教員1名、公益社団法人石川県看護協会の役員1名、その他学長が指名する者2名、医療機関の看護管理者1名	103
感染管理入試委員会		センターの教員3名 学長が指名する本学の教員1名、教育経験を有する感染管理認定看護師3名、その他学長が指名する者1名	103

*委員会運営を助ける助手・助教1～2名が学長指名で追加される。

委員会・部会名	委員長	教員構成	掲載 ページ
国際交流委員会	学長の指名	大講座から各1名（講師以上） +委員長指名3名	89
広報委員会*	学長の指名	役職者+HPへの文章掲載の 役割を担う者	32
入学試験委員会	学長	大講座から各1名（准教授以上）	34
入学試験実施専門部会	入試委員長の指名	大講座から各1名以上（助手以上）	35
入学試験評価部会	入試委員長の指名	3名（講師以上）	35
入学試験選抜専門部会	学長の指名	3名	
自己点検・評価委員会*	学長	役職者、学長指名4名	35
教員評価部会	学長の指名	3名	37
IR推進部会	学長の指名	3名	
FD委員会*	学長の指名	大講座から各1名（講師以上）	38
ハラスメント委員会	学長	5名	39
コンプライアンス委員会	研究科長	1名	39
大学院教務学生委員会	研究科長	5名	58
倫理委員会	研究科長	学内7名+学外2名	40
がんプロ企画委員会	学長の指名	学長指名	112
衛生委員会	委員の合意により 決定	理事長指名+過半数代表者 推薦	42

*委員会運営を助ける助手・助教1～2名が学長指名で追加される。

1.3 懇話会

石川県立看護大学懇話会

県内の看護関係の団体、県民の代表者等から意見を聴取し、地域に密着した大学としての運営に資するため、石川県立看護大学に懇話会を設置する。

- 開催日時： 令和4年3月1日（火）16時30分～
- 開催形式： オンライン会議（Zoom）
- 学外出席者： 石川県医師会長 安田 健二
(10名) 石川県看護協会会長 小藤 幹恵
石川県立中央病院長 岡田 俊英
石川県立中央病院看護部長 江藤 真由美
金沢医科大学病院副院長兼看護部長 中村 真寿美
金沢医療センター看護部長 成瀬 美恵
金沢大学医薬保健学域保健学系教授 加藤 真由美
会議通訳、翻訳者 早川 芳子
石川県高等学校校長協会会長金沢泉丘高等学校長
中村 義治
かほく市長 油野 和一郎
- 学内出席者： 学長、研究科長、学生部長、図書館長、看護キャリア支援センター長、
地域ケア総合センター長、学長補佐（2名）、事務局長、総務課長、
教務学生課長
- 主な内容：
 - 看護大学の現況について
 - 組織、教職員数、入学定員、入試の状況等について
 - 学生の進路状況について
 - 学部の状況、大学院の状況について
 - 学部教育・大学院教育・生涯教育について
 - 大学院修士・博士課程の研究、キャリア支援センター概要等について
 - 地域貢献及び国際貢献について
 - 地域ケア総合センターの事業等について
 - 意見交換
 - 能登北部地区の看護師不足対策について
 - 感染管理認定看護師の養成について
 - コロナ禍での新人看護師教育について など

2 教員・職員

2.1 教員紹介

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	教授	垣花 渉
	社会科学系群	哲学・生命倫理学	講師	高井 ゆと里
	人文科学系群	心理学	准教授	松田 幸久
	自然科学系群	人間工学	教授	小林 宏光
	国際・情報科学系群	情報科学	教授	松原 勇
		英語	講師	工藤 義信
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学	教授	今井 美和
			教授	平居 貴生
			准教授	市丸 徹
		保健・治療学	教授	岩佐 和夫
			教授	今井 秀樹
	基礎看護学講座	基礎看護学	教授	中田 弘子
			准教授	石川 倫子
			准教授	木森 佳子
			講師	寺井 梨恵子
			講師	田村 幸恵
			助教	三輪 早苗
			助教	瀬戸 清華
	母性・小児看護学講座	母性看護学	助教	中嶋 知世
			教授	濱 耕子
			教授	亀田 幸枝
			教授	米田 昌代

研 究 課 題
身体活動を促進する行動科学および社会的支援アプローチの効果、初年次教育の実践的研究
トランスジェンダー対象の医療兼研究に係わる倫理的課題の析出と検討
ヒトの視覚と記憶を中心とした認知機能の解明と応用研究、精神疾患の脳機能・形態的特徴の研究、社会の大量・多変量データを活用した統計学的研究
心拍変動 (Heart rate variability) および唾液バイオマーカーの分布特性その応用研究、体幹加速度による歩行対称性の研究
在宅ケア（特に脳卒中既往者）の疫学統計、THP（トータル・ヘルス・プロモーション）の疫学統計、情報処理教育方法の改善研究
15世紀イギリス教訓文学作家ピーター・イドリー作『息子への教え』現存写本にみる教訓詩の受容の実態
若年女性の子宮頸がん予防に関する研究
生活習慣病予防に関する時間生物学的研究、骨代謝と栄養に関する研究
生殖機能の調節に関する研究、発達障害者飼育による家畜へのストレス影響に関する研究
重症筋無力症の新規病態:免疫チェックポイント分子と補体制御因子および治療への発展、ヒト筋芽細胞における免疫制御因子発現の解明
わが国の疾病構造に関する疫学的研究、ヒト集団を対象とした人類生態学的研究
看護技術に関する研究、補完代替療法に関する研究、看護用具のデザイン・開発に関する研究
看護教育学に関する研究、看護師のキャリア形成に関する研究、在宅療養移行支援に関する研究、Nurse Practitionerに関する研究
静脈可視化技術・フィジカルアセスメントに関する研究、心不全患者とポケットエコーに関する研究、高齢者の嚥下食に関する研究
看護師の視覚情報に関連した観察についての研究、転倒予防に関する研究、看護師の臨床判断に関する研究
基礎看護教育に関する研究、心不全患者への看護に関する研究
運動イメージ形成に関する研究、看護技術に関する研究
ALS患者の意思疎通に関する研究、在宅療養者と家族介護者に関する研究
外国人住民における健康課題の研究、多文化共生のための保健医療サービスの研究、退院調整に関する研究
周産期の健康とQOL評価、女性向け補整下着の開発評価に関わる研究、夫婦の親役割適応に関する研究
出産前教育の効果や測定用具に関する研究、助産師教育に関する研究、周産期のケアに関する研究、子育て支援に関する研究
グリーフケア（主に流産・死産・新生児死亡で子どもを亡くした家族へのケア）に関する研究、周産期のケアに関する研究、子育て支援に関する研究

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名		
看護専門領域	母性・小児看護学講座	母性看護学	講師	曾山小織		
			助教	桶作 梢		
			助教	河合美佳		
			助教	野沢 ゆり乃		
		小児看護学	准教授	金谷雅代		
			助教	千原裕香		
	助教		後藤 亜希			
	成人・老年看護学講座	成人看護学	教授	牧野 智恵		
			教授	紺家 千津子		
			准教授	松本 勝		
			講師	松本 智里		
			助教	今方 裕子		
			助教	大西 陽子		
			助教	瀧澤 理穂		
			助教	大橋 史弥		
		老年看護学	教授	川島 和代		
			准教授	中道 淳子		
			助教	渡辺 達也		
			助教	額 奈々		
			地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学	教授	石垣 和子
					教授	塚田 久恵
	准教授	金子 紀子				
	助教	室野 奈緒子				
	助教	黒川 恵子				
在宅看護学	教授	林 一美				
	准教授	桜井 志保美				
	助手	牛村 春奈				
精神看護学	講師	川村 みどり				
	講師	大江 真吾				

研 究 課 題
周産期の看護に関する研究、子育て支援に関する研究、生殖補助医療の看護に関する研究、妊娠前ケアに関する研究
母乳育児支援に関する研究、AYA世代がんサバイバーの性と生殖に関する研究
女性の尿失禁に関する研究
産後の育児不安に関する研究
育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究、子どもへのレスエデュケーション・グリーフケアに関する研究
子どもの虐待予防に関する研究、次世代育成教育に関する研究、育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究
子どもの虐待予防に関する研究、育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究
がん患者の「生きる意味」への支援、がん治療中および終末期がん患者への支援方法に関する研究、ゲノム治療を受ける患者の看護
創傷・スキン・排泄ケアに関する研究、ICTを活用した遠隔看護支援に関する研究、セルフエコーに関する研究
超音波検査（エコー）を用いたフィジカルアセスメントに関する研究、XR技術を用いた看護師の業務支援・学習支援に関する研究、ICTを利用した訪問看護の遠隔支援に関する研究
股関節疾患患者の歩容に関する研究、アピアランスケアに関する研究
がん化学療法による下肢浮腫、スキンケアに関する研究
クリティカルケア領域における人工呼吸器装着患者への看護に関する研究
子どもをもつがん患者への支援に関する研究、がんサバイバーシップに関する研究
創傷看護学、看護理工学、周術期看護学に関する研究
高齢者施設等の看護と介護の連携に関する研究、高齢者の機能低下を支援するケアの開発に関する研究
認知症高齢者ケアに関する研究、介護予防に関する研究、高齢者の意思決定支援に関する研究
視聴覚機能に関する研究、介護予防に関する研究
介護保険施設の看取りや感染管理に関する研究、高齢者の急変に関する研究
保健師活動に関する研究、僻地における看護に関する研究、家族看護に関する研究、異文化看護に関する研究
保健事業の評価に関する研究、保健師の現任教育に関する研究、韓国におけるヘルスケアシステムに関する研究
地域特性を踏まえた子育て支援に関する研究、保健活動に関する研究
産業看護職の活動に関する研究、労働者の就労継続に関する研究
学校保健に関する研究
慢性疾患をもつ療養者と家族の看護に関する研究、要介護者と家族介護者の在宅ケアに関する研究
家族介護者の健康支援に関する研究、医療的ケア児の養育者に対する育児支援
高齢者の口腔と栄養に関する研究
地域で生活する精神障害を有する人に関する研究
自閉症スペクトラム障害患者・患児への支援に関する研究

2.2 特任教員等紹介

職 位	氏 名	担 当	任 期
特任教授	浅 見 洋	アカデミックアドバイザー	令和3年 4月 1日～ 令和4年 3月31日
特任教授	丸 岡 直 子	大学院	令和3年 4月 1日～ 令和4年 3月31日
特任教授	西 村 真実子	大学院	令和3年 4月 1日～ 令和4年 3月31日
特任教授	武 山 雅 志	大学院	令和3年 4月 1日～ 令和4年 3月31日
特任教授	藤 田 三 恵	成人看護学	令和3年 4月 1日～ 令和3年12月31日
特任准教授	池 田 富三香	附属看護キャリア支援センター	令和3年 4月 1日～ 令和4年 3月31日
特任講師	江 波 麻 貴	附属看護キャリア支援センター	令和3年 4月 1日～ 令和4年 2月 4日
特任講師	北 川 洋 子	附属看護キャリア支援センター	令和3年 4月 1日～ 令和4年 3月31日
特任講師	藤 本 淑 子	附属看護キャリア支援センター	令和3年10月 1日～ 令和3年12月31日
特任講師	竹 田 昌 代	附属地域ケア総合センター	令和3年 4月 1日～ 令和4年 3月31日
臨時助教	坂 本 洋 子	小児看護学	令和3年 5月 1日～ 令和3年 7月31日
臨時助教	田 中 理 恵	精神看護学	令和3年10月 1日～ 令和4年 3月31日
—	山 本 登紀男	アドミッションアドバイザー	令和3年 4月 1日～ 令和3年 4月19日
—	上 杉 直 人	アドミッションアドバイザー	令和3年 4月 1日～ 令和4年 3月31日

2.3 教員組織構成（2022年3月現在）

2.3.1 所属領域・講座と職位構成

単位（人）

学部・センター	講座	計	教員	職位構成				
				教授	准教授	講師	助教	助手
人間科学領域		6(0)	6(0)	3(0)	1(0)	2(0)	-	-
看護専門領域	健康科学	5(1)	5(1)	4(1)	1(0)	-	-	-
	基礎看護学	8(8)	8(8)	1(1)	2(2)	2(2)	3(3)	-
	母性・小児看護学	10(10)	10(10)	3(3)	1(1)	1(1)	5(5)	-
	成人・老年看護学	12(9)	12(9)	3(3)	2(1)	1(1)	6(4)	-
	地域・在宅・精神看護学	10(9)	9(8)	3(3)	2(2)	1(0)	2(2)	1(1)
附属看護キャリア支援センター		2(2)	2(2)	-	1(1)	1(1)	-	-
計		53(39)	52(38)	17(11)	10(7)	8(5)	16(14)	1(1)

() の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

2.3.2 職位別年齢構成

単位（人）

職位	計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
教授	17(11)	-		1	8	7	1
准教授	10(7)	-	1	4	4	1	-
講師	8(5)	-	4	2	1	1	-
助教	16(14)	1	9	6	-	-	-
教員	51(37)	1	14	13	13	9	1
助手	1(1)	-	-	1	-	-	-
計	52(38)	1	14	14	13	9	1

() の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

2.3.3 大学院看護学研究科の研究指導教員・研究指導補助教員

単位（人）

課程	計	研究指導教員	研究指導補助教員
博士前期課程	23(19)	18(18)	5(1)
博士後期課程	14(12)	13(11)	1(1)

() の数字は内数であり教授の数を示す

2.3.4 博士前期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

職位	計	単位 (人)			
		40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
研究指導教員	18(12)	1	9	8	-
研究指導補助教員	5(4)	1	3	1	-
計	23(16)	2	12	9	-

() の数字は内数であり女性の数を示す

2.3.5 博士後期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

職位	計	単位 (人)			
		40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
研究指導教員	13(11)	-	6	7	-
研究指導補助教員	1(1)	-	1	-	-
計	14(12)	-	7	7	-

() の数字は内数であり女性の数を示す

2.4 職員紹介 (2022年3月現在)

事務局 長	西 田 義 明
-------	---------

<総務課>

総務課 長	上 村 正 人
主幹兼係長	中 村 雄 次
主 幹	森 孝 弘
専 門 員	宮 川 泰 生
主任主事	谷 口 仁 美
主任主事	平 村 孝 祐
非常勤嘱託	中 嶋 晴 樹
非常勤嘱託	安 達 幸
事 務 員	田 上 弘 子

<教務学生課>

教務学生課長	河 端 茂 久
専 門 員	砂 山 美 和
専 門 員	林 信 隆
主 事	北 村 堯 之
非常勤嘱託	野 川 ゆ み
事 務 員	崎 田 千 草

<附属地域ケア総合センター>

センター長	(兼)牧野 智恵
事務員(がんプロ)	岡 山 のぞみ

<附属図書館>

館 長	(兼)小林 宏光
専門員(司書)	藤 田 一 彦
非常勤嘱託(司書)	浅 井 千鶴代
非常勤嘱託(司書)	明 翫 賢 吾

<附属看護キャリア支援センター>

センター長	(兼)林 一 美
非常勤嘱託	岸 恭 子
事 務 員	藤 森 広 美

3. 中期計画

3.1 第2期中期計画（2017年度～2022年度）における2021年度計画と実績

3.1.1 2021年度計画の概略（石川県公立大学法人 2021年度計画 概要版より）

計画策定の基本的考え方

■第2期中期計画（6年間）の5年目にあたる令和3年度は、中期計画の3つの柱「大学教育機能の強化」「地域連携・地域貢献機能の強化」「ガバナンス機能の強化」に基づき、教育研究機能の改善を図るとともに、新型コロナウイルス感染症の継続的な影響への対策やグローバル化の推進に関する事業を強化する。

中期計画の3つの柱に関する取組み

項目	看護大学	
	内容	
I 大学教育機能の強化 - 社会ニーズに応じた教育の提供 - 学生の学びの質向上	①教育の充実、質の確保	○教育内容とディプロマポリシーの整合性に関する検証 →内部質保証を推進するため、データの利用・分析 ○看護基礎教育のカリキュラム改訂作業を完了 ○遠隔・対面授業を運用する際の課題について検証、改善
	②学修相談体制、学生同士のサポート支援	○学生支援体制の強化 →相談体制の充実、学生同士の学修相談等の支援
	③キャリア教育の充実	○キャリアプランの実現を支援 →全学年を対象とした学生セミナーの開催、卒業生等との交流会の実施
II 地域連携・地域貢献機能の強化	④産学官連携の推進 社会人教育の充実	○感染管理認定看護師教育課程の継続、定員増 →コロナ禍を背景とした看護協会の要請に対応 ○感染看護における新規研修を実施（県から受託） ○認定看護管理者教育課程（サードレベル）を開講
III ガバナンス機能の強化	⑤両大学間の連携強化、 コロナ対策方針の決定	○両大学間において、教育・研究・事務の交流を図る →両大学の共同研究の推進、合同で研究発表会及びFD・SDセミナーの実施 ○新型コロナウイルス感染症の状況に応じた機動的な対応 →新型コロナウイルス感染症対策会議にて対応、学内調整等を実施

その他の主要な取組み

項目	看護大学	
	内容	
IV 志願者確保対策	①広報活動の充実	○隣県への募集活動の拡大 →近年減少が顕著な富山県をターゲットに高校訪問等実施 ○オープンキャンパスの内容検討、改善 →対面やWEB開催の併用等を状況に応じて検討、実施
V グローバル化の推進	②海外研修の充実 情報発信力の強化 等	○アメリカ、タイへの海外看護研修の実施 ○留学生等との交流（インターナショナルカフェ）実施 ○ネイティブ講師を活用し研修前後における支援充実 ○JICA研修、草の根技術協力事業等の実施
VI 情報化の推進	③ICTの活用	○大学メールシステムについて運用のあり方を検討 →メールの学外利用による利便性向上、ランニングコスト削減 ○両大学のネットワーク環境改善 →学内のWi-Fi利用可能エリアの拡大

3.1.2 2021年度実績の概略

(石川県公立大学法人 2021年度業務実績報告書の概要より抜粋)

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育課程の充実

(1) 看護基礎教育におけるカリキュラムの改定

- ・国の指定規則の改訂に伴い学部及び大学院のカリキュラムを改正

(2) 教育内容の検証

- ・外部委員を交えた質検証委員会を設置し、教育成果について意見交換

(3) 教育内容の質向上

- ・助産学及びCNS（専門看護師）実習において、教員が研修先の全学生に対してオンラインでの個別指導等を実施

(4) グローバル化の推進

- ・オンラインによるアメリカ国際看護演習の開講
- ・タイ人留学生、大韓民国団石川地方本部青壮年会会長を招いてのインターナショナル・カフェ(国際交流の集い)を開催
- ・ネイティブ講師による英語・韓国語講座の開講

2 教育実施体制の充実

遠隔・対面授業を運用する際の課題について検証、改善

3 学生への支援

(1) 学生支援体制の強化

- ・学生からの相談を専門家によるカウンセリングへ早期につなげるための連携強化
- ・学生ピアサポーター制度（仲間同士の支え合い）を新たに構築し、学生同士が悩みや不安等を語り合う会を開催

(2) キャリアプランの実現を支援

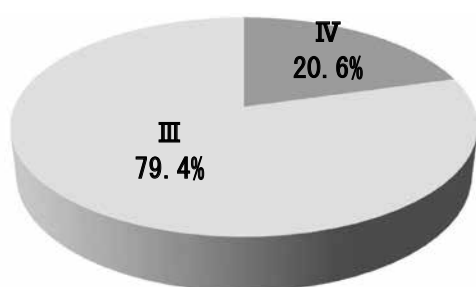
- ・開学記念シンポジウムで卒業生によるキャリア講義を実施
- ・就職活動の早期化に対応するため、3年生への進路支援を前倒しで開始

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

4 地域貢献及び国際貢献の推進

- (1) 感染管理認定看護師及び認定看護管理者の教育課程を開講 (No. 31-1)
- ・感染管理認定看護師教育課程に44名(前年比14名増)が履修し、全員修了
 - ・認定看護管理者教育課程(サードレベル)を開講し、履修者全員が修了
- (2) 感染看護における新規研修を実施 (No. 31-1)
- ・新たに「感染管理看護実践力向上研修」をオンライン開催する他、「看護教員現任研修」「看護管理者経営研修」「皮膚・排泄ケア研修」の計4事業を実施
- (3) JICA研修、草の根技術協力事業等の実施 (No. 34-1)
- ・JICA日系研修(パラグアイ)「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成」をオンラインにて開催
 - ・JICA草の根技術協力事業についてオンラインで意見交換、次年度の開催準備

項目別評価の状況



項目	IV	III	II	I	計
教育	3	21	0	0	24
研究	0	3	0	0	3
地域貢献	0	4	0	0	4
グローバル化	0	3	0	0	3
計	3	31	0	0	34

※ IV…年度計画を上回って実施している。 III…年度計画を順調に実施している。
 II…年度計画を十分には実施していない。 I…年度計画を実施していない。

業務運営の改善・効率化に関する目標

- 1 **ガバナンス機能の強化**
 - ・学長主導のもと設置した第3期中期計画に関するワーキンググループを開催
- 2 **両大学間連携の推進**
 - ・合同FDセミナー及び合同研究発表会をオンラインで開催
 - ・障害者によるヒツジ生産の支援に関する研究等、両大学で共同研究を実施
- 3 **事務組織等の整備と効率化**
 - ・音声ファイル文字起こしサービスの導入
- 4 **教員へのインセンティブを与える仕組みの導入**
 - ・複数年評価制度における研究費の配分増の検討

財務内容の改善に関する目標

- 1 **外部資金の獲得**

受託研究費及び共同研究費の獲得状況
前年度比 1,930千円/+2件 (R3 : 2,190千円/3件、R2 : 260千円/1件)
- 2 **志願者の増加に向けた取り組み**
 - ・受験生ニーズを踏まえたWEBオープンキャンパスの開催
 - ・大学ホームページに「大学の強み・特色」に関する特設ページの開設
 - ・ナーシングカフェをWEB開催し、能登地区出身の卒業生・在校生のインタビュー動画をホームページ上に掲載
 - ・入試制度に関して高校と意見交換会を開催

自己点検評価及び情報提供に関する目標

- 1 大学への評価を活用した取組み
 - ・外部委員を交えた「教育の質検証委員会」を開催し、意見交換
- 2 大学活動に関する情報発信を推進
 - ・SDGsの取り組みをホームページの特設ページや大学新聞で発信

その他業務運営に関する目標

- 1 施設設備の計画的な更新
 - ・学内Wi-Fi環境の整備
 - ・修繕計画に基づく照明制御装置の更新
- 2 全学的な安全衛生管理体制の整備
 - ・学生や教職員の安全・健康保全のため、衛生委員会が年3回学内の巡視を実施

4. 看護学部看護学科

4.1 理念・目標

4.1.1 教育理念

人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する。

4.1.2 教育目標

1. 豊かな人間性と倫理観を備えた人材の育成

人間の生命、生活を尊重し、人の痛みや苦しみを共に分かち合える温かい心、豊かな人間性と倫理観を備えた人材を育成する。

2. 看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材の育成

看護専門職として必要な知識、技術を修得し、人々の健康と生活に関わる諸問題に対して、科学的な根拠に基づく判断力と問題解決能力及び看護学研究に関する思考力と創造性を涵養し、看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材を育成する。

3. 調整・管理能力を有する人材の育成

保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協力して行われる看護実践を通して、調整・管理能力を有する人材を育成する。

4. 国際社会でも活躍できる人材の育成

国際的な視野から、健康問題や看護問題を思考、判断し、国際社会でも活躍できる人材を育成する。

5. 将来の看護リーダーの役割を担う人材の育成

社会状況の変化を踏まえ、看護が担うべき役割を展望し発展させるため、自らの研鑽を重ねながら、その資質向上に努め、看護学の発展に寄与し、将来の看護リーダーとなることができる人材を育成する。

4.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

看護とは、「様々な健康レベルの人々が、その人らしく生活できるよう援助する仕事」です。そのためには、専門的な知識・技術はもちろん、命を大切にする心や人間としての豊かさが求められます。

本学では以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を広く求めます。

1. 大学で学ぶ上で必要とされる基礎学力を身につけている。

2. 人間や生命に関心を持ち、保健・医療・福祉分野で活躍・貢献したいという目的意識を持っている。

3. 周囲の人と協力して物事を進めることができる。

4. 他者の意見に耳を傾け、自分の考えを表現できる。

5. 自己学習・自己啓発を継続する意欲がある。

4.1.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

本学では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる知識・技術などを修得できるように、人間科学領域の科目と看護専門領域の科目を体系的に編成しています。教育内容、教育方法、教育評価について以下のように定めています。

〈教育内容〉

学生が大学での学修に適応するための科目を初年次に配置する。加えて、人間科学・健康科学・看護学の科目間の連携を図り、それらを統合して学べるように科目を配置する。

看護専門領域に「健康・疾病・障害の理解」「看護の基本」「看護援助の方法」「看護の実践」「看護の発展」の科目を配置する。また、人間の成長、発達、健康の維持増進から終末に至る健康問題を科学的に評価し、生活・療養の場に応じた看護の必要性を学べるように設定する。

さらに、様々な状況に対応できる能力、多職種と連携・協働しながら看護の専門性を発揮できる能力、将来を切り開いていく能力を統合・発展させるための科目を段階的に学べるように設定する

〈教育方法〉

幅広く総合的に看護を学ぶことができるよう、積極的に人々の生活の場に出向いたり、アクティブ・ラーニング、異学年交流等を活用した講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を行う。

個々の学習深度や能力に応じた指導を行うため、個別学習やレポート課題を課し、フィードバックを行う。

学生のより積極的な学習ニーズに応えるため、外部の客観的評価試験や外部の開講科目（放送大学、シティカレッジ等）を活用する。

学年進行に沿って、学修を統合的に積み重ねることができるよう履修指導を行う。

〈教育評価〉

各科目の学習目標の達成度を評価し、その基準は授業計画に示す。加えて、本学の履修規程・学則に基づいて総合的に評価する。

4.1.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

教育理念を基に本学の教育課程に沿って研鑽に努め、指定する卒業単位を修得することで、下記の能力・資質を修得・涵養し、それらを総合的に活用できる人材を養成します。

1. 看護の基盤となる豊かな人間性や倫理観と教養を身につけている。
2. 看護職として専門分野における学問内容の知識・技術を修得している。
3. 人間の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価し、的確な判断ができる。
4. 人々の健康維持と増進、予防、また健康障害から回復過程等、全ての健康段階を連続的に捉え、生活に根ざした支援の必要性を理解できる。
5. リーダーシップを身につけ、自ら多職種と連携・協働することができる。
6. 国際化及び社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自己を高めることができる。

4.2 学部学生の入学・在学・卒業の状況

(1) 入学の状況

①入学定員・収容定員

単位 (人)	
入学定員	収容定員
80	320

②試験実施日

実施日	
学校推薦型選抜・社会人選抜	令和 3年11月20日 (土)
一般選抜前期日程試験	令和 4年 2月25日 (金)
一般選抜後期日程試験	令和 4年 3月12日 (土)

③受験状況等

単位 (人、倍)						
	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率	入学者数
学校推薦型選抜	30	46	46	30	1.5	30(30)
社会人選抜	若干名	3	3	1	3.0	1(1)
一般選抜前期	40	89	82	43	1.9	41(35)
一般選抜後期	10	132	40	13	3.1	12(12)

() の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 在学の状況 (令和4年3月1日現在)

		単位 (人)				
学 年		1年次	2年次	3年次	4年次	計
在学者数	男性	5	3	5	7	20
	女性	75	77	75	80	307
	計	80	80	80	87	327

(3) 卒業の状況

①卒業者数 第19期生

		単位 (人)	
区 分	計	入学年度別卒業者数	
		平成29年度以前 入 学 者	平成30年度 入 学 者
卒業者数	83(76)	2(1)	81(75)

() の数字は内数であり女性の数を示す

②卒業後の進路状況 第19期生 (令和4年3月31日現在)

		単位 (人)					
区 分		県 内		県 外		合 計	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
就 職	看護師	55	66.3%	12	14.4%	67	(62) 80.7%
	国公立病院 (独立 行政法人を含む)	50	60.2%	10	12.0%	60	(55) 72.3%
	上記以外の病院	5	6.0%	2	2.4%	7	(7) 8.4%
	保健師	6	7.2%	2	2.4%	8	(6) 9.6%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	(0) 0.0%
	計	61	73.5%	14	16.9%	75	(68) 90.4%
進 学	大学院博士前期課程	4	4.8%	1	1.2%	5	(5) 6.0%
	養護教諭特別別科	1	1.2%	0	0.0%	1	(1) 1.2%
	その他	0	0%	0	0.0%	0	(0) 0.0%
	計	5	6.0%	1	1.2%	6	(6) 7.2%
	未 定	2	2.4%	0	0.0%	2	(2) 0.0%
	合 計	68	81.9%	15	18.1%	83	(76) 100.0%

() の数字は内数であり女性の数を示す。割合は、総数83人を100%としたもの

③主な就職先 第19期生 (令和4年3月31日現在)

県内	県外
石川県立中央病院	富山大学附属病院
金沢大学附属病院	富山赤十字病院
公立松任石川中央病院	愛知医科大学病院
金沢赤十字病院	岐阜県総合医療センター
公立穴水総合病院	国立病院機構静岡医療センター
珠洲市総合病院	長野諏訪赤十字病院
公立宇出津総合病院	湘南鎌倉総合病院
恵寿総合病院	東京医科歯科大学病院
JCHO金沢病院	東京医科大学八王子医療センター
金沢市立病院	白報会王子病院
金沢医科大学病院	神戸市民病院機構
公立羽咋病院	福井市
能美市立病院	
輪島市立輪島病院	
石川県	
金沢市	
津幡町	
志賀町	
能登町	

4.3 教育・履修体制

本学の教育は、人間科学領域の5学科目群と看護専門領域の5講座に属する教員が担当します。

領域	学科目群又は講座	科目群	教育内容
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	自己の健康・体力づくりを生涯にわたり実践していくための理論と方法を修得させるとともに、看護の対象者の健康獲得を目指すための知識と技術について教授する。
	人文科学系群	哲学	哲学・心理学的な思考を通して、人間の本质と存在の意義について理解を深めるとともに、看護職者として悩める人を理解し援助するための知識と方法、態度について教授する。
		心理学	
	社会科学系群		人々の生活を支える社会のしくみと人間と社会環境との関わりについて理解を深めさせるとともに、社会科学的視点から保健・医療・福祉・看護が抱える諸問題について教授する。
	自然科学系群	人間工学	人々の生活と環境との関わりや人間と環境との共生について理解を深めさせるとともに、人間の日常生活行動や看護現場での諸問題について人間工学的側面から教授する。
	国際・情報科学系群		英語
情報科学			
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学	人間の生命現象や身体の構造・機能と心身の健康の保持・増進、疾病・障害の発症と回復のしくみに関する理論と知識、技術を科学的根拠に基づいて系統的に教授する。
		保健・治療学	
	基礎看護学講座	基礎看護学	「看護とはなにか」という看護の概念・本質と看護の基本となる理論と知識・技術、及び看護職者として必要な態度について教授する。
	母性・小児看護学講座	母性看護学	ライフサイクルのうち、妊娠・分娩・出産から思春期にわたる母子とその家族に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
		小児看護学	
	成人・老年看護学講座	成人看護学	ライフサイクルのうち、成人期から老年期にわたる対象に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
		老年看護学	
	地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学	地域で生活する個人・家族・特定集団・地域住民全体を対象とした地域看護の特徴を踏まえ、活動の場(学校、職場、在宅、地域全体)とその対象の特性に応じた看護援助、及びライフサイクル各期のメンタルヘルスの課題や精神的な健康問題をもつ対象への看護援助に必要な知識や理論と実践の方法を教授する。
在宅看護学			
精神看護学			

4.4 委員会活動

4.4.1 常設委員会

4.4.1.1 教務委員会

委員長：塚田 久恵 教授

委員：川島教授、岩佐教授、桜井准教授、金谷准教授、大江講師、曾山講師、高井講師、寺井講師、松本智講師

委員長補助：大橋助教、瀬戸助教、渡辺助教

事務局：河端教務学生課長、北村主事

活動内容：

教務の所掌業務に関して、以下の事項の審議を行った。

1. カリキュラム変更にとまなう新・旧カリキュラムの学生への同質の学修の機会の提供と履修指導
2. R4年度以降の統合実習の担当及び体制についての検討
3. 随時試験・定期試験の時間割と試験監督の決定
4. 時間割、教室の配置
5. 電子教科書の導入について検討及び説明会の実施
6. 非常勤講師等の任用
7. 成績判定・修得単位および卒業要件の判定
8. 石川コンソーシアムのシティカレッジの科目提供と受講科目の成績判定
9. 臨床教授等の称号付与
10. 特別講義の実施
11. 卒業研究に関する教員および学生の希望調査等
12. 次年度看護学実習計画・実習暦、ヒヤリハットへの集計・分析と防止対策、新実習ユニフォームの検討、新型コロナワクチン接種に関する実習病院への情報開示についての検討、実習中の教員用携帯電話についての検討
13. 実習に係る個人情報保護に関する研修会の開催
14. 中期計画の具体的な取り組み
 - 1) 臨床教授等との交流会の開催(オンラインによる教員との意見交換会、感想等事後アンケートの実施)
 - 2) 次年度に向けたコロナ禍での民泊型フィールド実習の課題と対策
 - 3) フィールド実習担当者会議の開催、評価方法の検討と次年度に向けた改訂
 - 4) アカデミックリテラシー(2019年度新設)とフィールド実習との連携
 - 5) ヒューマンヘルスケア(Human Health Care)科目担当者会議の開催、コロナ禍にある地域活動、講演会等への参加の自粛に対する代替案についての検討、オンラインによる成果発表の実施

4.4.1.2 学生委員会

委員長：中田 弘子 教授（学生部長）

委員：紺家教授、垣花教授、市丸准教授、桜井准教授、石川准教授、松本勝准教授、
川村講師、曾山講師

事務局：河端教務学生課長、林専専門員、北村主事

委員長補助：大西助教、桶作助教、野沢助教

活動内容：

I. 学生生活と学修支援の充実について

1. 今年度の活動実績・評価

- 1) 4月の新入生歓迎会、桜ウォーキングの開催では、感染拡大下において学生を支援した。新入生アンケートでは学生間や先輩との交流による友人形成、緊張の緩和等、良い評価が得られた。
- 2) 開学記念日においてオンライン・シンポジウム（開学20周年記念参加予定の保健・医療等施設で活躍中の卒業生5名を招待）を開催した。在学生アンケートの結果、多様な就職の場、職種の選択およびキャリア形成のイメージ化が図られた。
- 3) 学生教員連携による学内スタジオによる初年次学修支援「先輩から学ぼう！授業の受け方」をオンラインで開催した（4月22日）。新入生アンケートの結果、勉強のコツや実習での学習方法の理解の深まり等好評が得られた。
- 4) 学生自治会主催の新入生支援として「オンラインサークル紹介」（5月20日）、大学生活や学習方法等の「オンライン相談・交流会」（6月3日）をサポートした。
- 5) サークル活動の把握（継続14団体，新規2団体，解散2団体）と助成を行った（6月）。諸活動は対面イベントの自粛等により、停止せざるを得ない団体がほとんどであったが、顧問の感染対策の指導の下、感染状況により条件が整った少数団体は活動がみられた。
- 6) 学生自治会による第22回看大祭「Recess 今楽しむことを共に」（10月30日）の対面開催を支援した。学外者の参加は制限されたが、学内は計126名（1年：57名，2年39名，4年16名，教職員14名）が参加し、感染を防ぎながら異学年および教職員との交流の機会が得られ、学生の主体的な課題解決能力の向上に繋がった。
- 7) 教職学協働のピア・サポートとして、前期は学生自治会中心の個別ピア・サポートを試行・評価した。後期は学年暦に沿った1年生の看護学実習前の「2年生と語ろう会（対面）」（10月29日）、2年生が3年前期を迎える前の「3年生との語ろう会（オンライン）」（2月22日）を支援した。参加者アンケートでは次のステップに向けた学修方法等が理解できたことから継続的な開催の要望がみられた。また、3年生の学生セミナーとして、卒業生とのオンライン座談会（3月22日～25日）を開催した
- 8) 諸活動への貢献において高い評価を受けた学生等6名を学長表彰に推薦した。

2. 次年度以降に向けた課題・発展

各学年の看護学実習受け入れ施設の方針と大学の基本方針に沿った感染拡大防止対策とともに学生の諸活動の活性化を図り、学生個々の意欲向上に向けた対面交流の確保が課題である。

II. 学生生活と学習環境の改善について

1. 今年度の活動実績・評価

- 1) 「大学生活に関する学生調査」を継続し、学生生活の実態と学修環境への意見等を把握した(10月～12月)。回答率は1年65.3%, 2年38.5%, 3年5.0%, 4年8.5%であった。日常生活では睡眠不足、スマートフォン使用時間の増加、疲労感等を感じている者が多く、学習環境では冬季の換気による寒冷等の改善等の要望がみられ、改善策について検討した。
- 2) 学生自治会と学長との懇談会を開催し(1月27日)、学生の要望内容を検討の上、COVID19-対策会議等への提起、関連教職員との連携による学習環境の整備を計画した。
- 3) 教育環境の充実のためにWi-Fiの整備を計画した。また、安全なSNS利用に関する注意喚起を周知した。

2. 次年度以降に向けた課題・発展

大学生活に関する学生調査ではGoogleフォームを活用したが、全体の実態等を把握するためには回答率の改善に向けた調査方法の検討が課題の1つである。

III. 学生の感染防止対策等について

1. 今年度の活動実績・評価

- 1) 新年度ガイダンスにおいて「新型コロナウイルス感染症対策ハンドブック」を活用した教育を実施し、新入生への「感染予防行動への意識調査」を4月、7月に実施した。結果、各感染予防行動は有意な改善がみられたが、睡眠不足、バランスのいい食事、気分転換等は有意な低下がみられた。
- 2) 学生委員会を中心とした以下の取り組みの継続等により、学内クラスターを防ぎカリキュラムの進行の妨げを回避した。
 - ・教室等内の空気汚染度(CO2濃度等)の測定と結果の掲示(4～7月)、昼休みの黙食の校内放送(前期)、学内環境の観察と学生指導の継続、長期休暇・イベント前の感染防止に関する注意喚起の周知と協力依頼
 - ・感染状況に応じたロッカールーム等の使用方法の見直しと整備(5月、10月)
 - ・学年担任と教務学生課とが連携した学生の感染状況の把握と個別支援、各啓発ポスターのリニューアル等
 - ・全学年COVID-19クラス委員による感染予防キャンペーンと表彰のサポート

2. 次年度以降に向けた課題・発展・評価

感染拡大防止の継続とともに新しい生活様式による学生の心身の健康課題等の把握との改善策についてさらなる検討が課題である。

4.4.1.2.1 学生相談専門部会

部会長：中田 弘子 教授

部会員：桜井准教授、松田准教授、今方助教、三輪助教、渡辺助教、河端教務学生課長、野川養護教諭

心理カウンセラー：水上臨床心理士

活動内容：

- ・カウンセリング「ほっとルーム」は、2回/月（第2木曜日：13:30～17:30，第4木曜日：14:00～18:30）の定期に開室した。カウンセリングの年間のべ相談件数は47件（1年0件、2年9件、3年13件、4年22件、大学院生1件、教員2件）であり、その内の2件はオンライン面談であった。また、カウンセラーへの保健室担当者および教員の年間コンサルテーションは25件であった。
- ・相談を受けた学生には、本人が情報共有を許可した教職員間（学年担任、学生相談部員、保健室担当者、カウンセラー、進路アドバイザー等）で連携し、継続的にサポートした。必要に応じて保護者との面談を実施した。また、緊急性の高いケースでは、学生の意思を尊重しながら早期に心理カウンセラー・医療機関へ繋いだ。多くのケースは、個々のペースで心身の健康状態を回復させ、通常の大学生活を取り戻すに至った。
- ・学生相談部員による「ほっとルーム便り」を年間4回発行し、カウンセリングの周知、学年暦に応じた心身への健康維持に必要な情報等の発信を行った。
学生のメンタルヘルスの維持向上のためには、今後も学内外の情勢による影響と学生個々の特性を考慮しながら、さらなる支援の充実が望まれる。

4.4.1.2.2 進路支援専門部会

部会長：石川 倫子 准教授

委員：林教授、紺家教授、米田教授、中道准教授、金谷准教授、金子准教授、
松本智講師、大江講師

活動内容：

1. 前年度の実情および課題

新型コロナウイルス感染症拡大により

- 1) 県外就職試験への影響が懸念される。
- 2) 県内外の就職支援イベント参加への自粛が続くと考えられる。
- 3) 臨地での実習が大幅に減り、体験を踏まえての知識理解が少ない。

2. 今年度の目標

- 1) 希望とする就職先の受験・内定ができるよう支援する。
特に県外就職者への受験時期に関する支援を重点的に行う。
- 2) 国家試験で学生の力が最大限発揮できるよう学習支援、学習環境調整を行う。
- 3) 全学年へのキャリア支援を行う。

3. 今年度の活動実績・評価

1) 進路支援：

- ①4年生に対する支援は、9名のアドバイザー教員による担当制で行った。
- ②県外を就職希望する学生には、早い段階から感染対策上、実習と就職試験日との兼ね合いをみて就職先を選択するよう指導した。
- ③県外の就職試験が早まっている傾向があり、3年生後期から進路支援アドバイザーと担任による支援を行った。

2) 国家試験対策：看護師国家試験合格率100%

- ①4年生が主体となって、模擬試験の年間計画立案、実施を行った。感染対策や大雪を想定して冬季の模擬試験の実施方法をオンラインとする検討も行った。
- ②進路アドバイザーが模擬試験結果をもとに個別に支援をした。
- ③強化学習として、成績不良者を対象に、学習方法の支援、必修問題、一般問題、状況設定問題への強化を図った。この強化学習により、4年生全体の学習への取り組みが高まった。
- ④国家試験10日前に、教員が作成した必修問題を用いて試験を実施した。
- ⑤4年生対象に看護師対策2回、保健師対策6回の補習を行った。
- ⑥新型コロナウイルス感染症拡大時期においても4年生が学内に入構し学習できる環境を整備した。学生には感染対策の徹底を図った。

3) 全学年へのキャリア支援

- ①開学記念シンポジウムにて、卒業生の協力を得て全学年に対してキャリア支援を行った。
- ②就職活動や国家試験対策の情報を得るために、3年生を対象に3月に卒業生との座談会を開催した。その動画の視聴を1～2年生に促した。
- ③低学年よりオンラインによる就職説明会への参加を勧奨した。

4. 次年度以降に向けた課題

- 1) 県外就職試験の早まりや感染拡大の影響を踏まえ3年生早期からの就職相談を行う。
- 2) 低学年からのキャリア支援を継続する。
- 3) 国家試験対策の1つである強化学習を希望者も含み行う。

4.4.1.3 研究推進委員会

委員長：垣花 渉 教授

委員：岩佐教授、紺家教授

事務局：平村主任主事

活動内容：

1. 研究推進に係る会の開催

1) ウェルカムセッション

開催日時：令和3年6月24日、8月5日、9月22日、12月2日（すべて12：15～12：55）

形式：Zoomによるオンライン発表

演題および講師：

「認知機能・脳機能・AI」 松田幸久 准教授（人間科学領域）

「研究の倫理を考えることに何の意味があるのか」 高井ゆと里 講師（人間科学領域）

「中世英文学と私—過去・現在・未来」 工藤義信 講師（人間科学領域）

「新たなフィジカルアセスメント「可視化」によるケアイノベーション：エコーを用いた便秘評価とケア」 松本勝 准教授（成人看護学講座）

2) 研究サポート集会

開催日時：令和3年8月6日 14：30～15：10 参加者：43名

形式：Zoomによるオンライン発表

演題および講師：

「科研費申請に関する事務的伝達事項」 平村孝祐 主任主事（事務局総務課）

「科研申請書の要点」 岩佐和夫 教授（研究推進委員）

3) 令和3年度学内研究助成成果報告会

開催日時：令和3年8月6日 13：00～14：30 参加者：39名

形式：事前のポスター閲覧・当日のZoomによるオンライン討論

演題および講師：

「虚血性心疾患の予防を目指す「歩く生活プログラム」の検討」垣花渉 教授（人間科学領域）

「がんサバイバーへの施設外における支援の意義」牧野智恵 教授（成人看護学講座）

「こころ豊かな社会に学ぶ認知症予防対策～タイ北部と日本の農村部との国際比較研究～」

清水暢子 講師（富山県立大学）

「周波数分析による中枢神経系の活動解析法の開発」市丸徹 准教授（健康科学講座）

「患者交流会におけるALS患者・家族のピアサポートの状況」瀬戸清華 助教（基礎看護学講座）

「抗肥満分子を制御する天然物の探索研究」平居貴生 教授（健康科学講座）

4) 石川県立大学との合同研究発表会

開催日時：令和3年8月25日 14：30～17：10 参加者：50名

形式：Zoomによるオンライン発表

演題および講師：

「石川県における畜産型農福連携推進～能登版「地域共生社会」の実現に向けた就労訓練プラットフォーム構想～」清水暢子 講師（富山県立大学）・住本雅洋 准教授（県立大学）

「幼少期に有効なラダー運動プログラムの開発 -今の子どもの調整力・運動有能感を高めるラダー運動の研究」宮口和義 教授（県立大学）

「コロナ禍で定期的な運動を高齢者へ働きかける 実践的アプローチ」垣花渉 教授（看護大学）

「農村地域の生態系保全施設に関する一連の研究」一恩英二 教授（県立大学）

5) 研究受賞講演

開催日時：令和4年2月10日 12：15～12：55

形式：Zoomによるオンライン発表

演題および講師：

「15世紀イギリス教訓文学者ピーター・イドリー写本研究—論文賞受賞までの振り返りと、今後の展望—」工藤義信 講師（人間科学領域）

2. 大学全体の研究業績評価

令和元年度外部資金（科研費）獲得件数（9月現在）は、申請39件のうち基盤研究（B）が0件、研究活動スタート支援1件、基盤研究（C）が9件、挑戦的研究（萌芽）が1件〔辞退〕、若手研究が3件であった。また、令和2年度には、27件の申請があった。

令和2年度外部資金（科研費以外）申請件数（3月現在）は、3件であった。内訳は、外部資金獲得が1件、審査中が2件であった。

また、平成31年度申請時から引き続き、同申請書のブラッシュアップを目的とした、申請書作成支援を行った。令和3年度申請時に利用した者はいなかった。

4.4.1.3.1 学内研究助成専門部会

委員長：今井 秀樹 教授

委員：牧野教授、川島教授

事務局：平村主任主事

活動内容：

本部会は、学内研究助成全般のあり方の検討と実際の学内研究助成に関する申請書類の審査、報告書の評価、予算案の提案を主たる活動とする。

令和3年度は3回の部会を開催した。令和3年5月に令和3年度学内研究助成(研究プロジェクト)の2次募集を行った結果、採択件数は2であった(申請2件)。また、令和3年11月に令和3年度学内研究助成(研究プロジェクト)の3次募集を行った結果、採択件数は5であった(申請5件)。令和4年1月には令和3年度学内研究助成(研究プロジェクト)の1次募集を行った結果、採択件数は2であった(申請3件)。

4.4.1.4 石川看護雑誌編集委員会

委員長：亀田 幸枝 教授

委員：小林教授、塚田教授、今井秀樹教授

委員補助：瀬戸助教、後藤助教

事務局：中村主幹

活動内容：

「石川看護雑誌」第19巻の編集を行った。第19巻には原著論文7編、資料4編の計11編の論文が掲載された。

4.4.1.5 情報システム委員会(含む情報セキュリティ)

委員長：市丸 徹 准教授

委員：紺家教授、松田准教授

事務局：平村主任主事

活動内容：

<今年度の目標・年度計画>

石川県公立大学法人情報セキュリティポリシーの適切な運用を行うとともに、職員を対象とした情報セキュリティ研修や学生を対象とした啓発活動を行う。また、情報資産管理システムによるソフトウェア・ライセンス及び情報機器の適正な管理に努める。

教員対象にWiFiアクセスポイントの使用実感、実態調査を実施し、必要に応じて点検・整備・修繕を実施する。Moodleの運営、管理をサポートする。サンダーボードに代わるメールシステム、LMSの運用について、県立大学、法人と検討する。

<今年度の活動実績・評価>

令和3年4月1日、新任教職員研修内にて情報システムの説明ならびに情報セキュリティ教育を実施した。

市丸委員長は本学LMSであるMoodleの看護大マネージャーとしても管理運営に携わった。ま

た令和3年4月中に複数回、学生および教職員を対象にZoom、Moodleの利用に関する研修会を開催した。

令和3年8月25日、県立大との合同FD研修会がZoomで開催された中で、Moodle利用例を紹介する発表があった。

令和3年10月26日、県立大にて法人、県立大、看護大三者の情報システム担当者会議が開催され、平村主任主事が参加した。メールサーバーの更新、講義のオンデマンド化などに関する情報交換、課題抽出が議論された。

令和3年12月10日、学内の情報システム環境の実態と課題について法人によるヒアリングが実施され、市丸委員長、平村主任主事が対応した。

令和3年12月28日、Moodleの管理運用について、管理者、県立大と看護大のマネージャーの三者でZoom会議を行い、年度切替時の詳細等を確認した。

教育研究棟3階、4階の個人研究室前のWi-Fiアクセスポイントについては教育研究審議会にて増設が決定されたため、実態調査は実施しなかった。令和4年3月に、ガラスホールに1台、センターホールに1台、教育研究棟3～4階に4台の計6ヶ所に増設された。

<次年度以降に向けた課題・発展>

サンダーバードに代わるメールシステム、Moodleに代わるLMSの可能性について、引き続き法人県立大と検討する必要がある。

4.4.1.6 広報委員会

委員長：紺家 千津子 教授

委員：石垣教授（学長）、川島教授（研究科長）、中田教授（学生部長）、
小林教授（附属図書館長）、牧野教授（附属地域ケア総合センター長）、
林教授（附属看護キャリア支援センター長）、平居教授、濱教授、
西田事務局長、上杉アドミッションアドバイザー

委員長補助：今方助教、黒川助教

事務局：宮川専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

- 1) 学部・大学院の入学希望者向けのオープンキャンパスの企画や運営方法の検討
- 2) ナース・カフェ（出張オープンキャンパスin能登）の再開
- 3) SDGsの取り組みを積極的にホームページ上で発信
- 4) 教員の研究と教育活動についての情報発信の充実

<今年度の目標・年度計画>

- 1) オープンキャンパスの企画や運営方法の工夫
- 2) ナース・カフェの開催
- 3) ホームページ上でSDGsの取り組みを積極的に発信
- 4) 教員活動情報ページの充実

<今年度の活動実績・評価>

1. オープンキャンパス

対面とWEBによるハイブリッド開催を検討していたが、新型コロナウイルス感染症予防のためにWEB開催のみとなった。

1) 夏：開催日時 令和3年 7月10日（土）～8月1日（日） 申込件数 263件

前年と比較し52件増の申し込みがあった。「私がIPNUを選んだ理由」「学部生による受験対策」「講義風景」のオンデマンド配信と、Zoom会議システムを利用した個別相談を開催した。この時期に、個別相談を実施したことで県外からの大学院希望者の申し込みもあった。

2) 秋：開催日時 令和3年10月9日（土）～11月20日（土） 申込件数 111件

学校推薦型選抜試験日まで公開期間を延長した。企画は、夏の内容に加えZoom会議システムを利用し、例年通り入試試験委員会の協力を得て入試準備セミナーのライブ配信を開催した。

3) 大学院

これまでオープンキャンパスの場のみで公開していた情報を、特設サイトの設置により常時閲覧可能にした。

2. ナース・カフェの開催

能登地区での対面開催も検討したが、新型コロナウイルス感染症予防のためにWEB開催とした。会期は8月からの2カ月間で、本学ホームページ上で「おかえり能登」のネーミングで、看護師・保健師の魅力や本学に入学した理由などについて卒業生や在学生からのメッセージを動画で配信した。参加者から「看護師の仕事がわかって、なりたと思った」などの感想が寄せられた。

3. キャンパスネット IPNU（大学新聞）

1) 第39巻 2021年 5月号の編集・発行

特集のテーマは『私たちは変化を乗り越え、学び続ける』とし、コロナ禍における学生教育、保健医療職への地域貢献、さらに国際貢献の取り組みを掲載した。そのほかに卒業式、修了式、教員の取り組む研究、附属機関の紹介などの記事を掲載した。

2) 第40巻 2021年11月号の企画立案・編集・発行

SDGsの取り組みを積極的に発信するために、特集のテーマは『本学におけるSDGsの取り組み』とし、学生のゼミやサークルや、看護キャリア支援センター、地域ケア総合センターの取り組みを紹介した。そのほかに新任教員、開学20周年記念シンポジウム、オープンキャンパス、ナース・カフェ、大学祭などについて掲載した。

4. ホームページの修正

「SDGsの取り組み」という特設ページを新たに開設した。さらに、社会人らがいつでもオープンキャンパスで得られる情報をホームページ上で閲覧できるよう修正した。教員活動情報ページの充実を図る一手段として、教員個人を印象良く紹介できるようプロのカメラマンに撮影を依頼した。また、研究活動による教員の受賞報告を積極的に配信し、紹介文より該当者の教員活動情報ページにリンクできるよう改善した。

5. 大学案内（学部・大学院）、広報誌の発行

2022大学案内の企画立案、編集、発行を行った。さらに、本学の強みを高校訪問などで手短かに伝えるための広報誌を刷新した。

6. 大学コンソーシアム石川：情報発信部会

- ・ 広報事業：石川県の大学ガイドブック「イシカレ」等の発行協力
- ・ 出張オープンキャンパス事業の協力
- ・ 学都石川合同進学説明会のオンライン開催支援：本学は7/15(土)に参加

7. 学生広報委員活動のサポート

オープンキャンパスの個別相談と、学生ブログ「IPNU CLUB」の運営の協力を得た。また、本学の全広報媒体の評価と大学グッズについて意見を収集した。さらに学部1年生に本学の全広報媒体の評価についてアンケート調査を実施し、その結果をオープンキャンパスの企画に反映させた。

<次年度以降に向けた課題・発展>

新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら、学部と大学院の入学希望者が望むオープンキャンパスの企画や運営方法を検討する。また、ナース・カフェでは今回のように一方向配信ではなく、参加者と交流できる方法を検討し開催していく。

ホームページでは、教員の特に研究と教育活動についての情報発信を充実させていく。

4.4.1.7 入学試験委員会

委員長：石垣 和子 学長

委員：小林教授（副委員長）、今井美和教授、米田教授、紺家教授、川島教授、林教授、木森准教授、西田事務局長

事務局：河端教務学生課長、砂山専門員、山本アドミッションアドバイザー、上杉アドミッションアドバイザー

活動内容：

1. 令和3年度より学校推薦型入試に活動報告書を導入したため、これに対応した入試実施体制の整備を進めた。
2. 令和7年度から共通テストに導入される「情報」科目の本学での利用に関して検討を開始した。
3. 本年度の本学の学部入試、大学院入試また大学入試共通テストにおいて、入試実施にかかわる重大なトラブルはなかった。
4. アドミッションアドバイザーによる高校訪問に加え、高校での進路ガイダンスや合同進学説明会に入学試験委員会委員を派遣した。
5. 昨年度に引き続き、入試実施においては手指消毒、席の配置など新型コロナ感染症対策を行った。また本学の個別学力試験において新型コロナ感染症が理由で受験できなかったものに対して対応を準備したが、結果として対象者はいなかった。

4.4.1.7.1 入学試験実施専門部会

部会長：非公開

部会員：非公開

活動内容：

1. 看護学部入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務
2. 研究科入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務
3. 大学入学共通テストの会場準備・実施体制およびそれに付随する業務
4. 看護キャリア支援センターが実施する感染管理認定看護師教育課程入学試験の実施支援

4.4.1.7.2 入学試験評価部会

部会長：非公開

部会員：非公開

活動内容：

<前年度までの課題>

大学入試改革、大学入学者選抜要項の見直しに係る予告を受け、本学で決定した学校推薦型選抜試験に導入する「活動内容報告書」の詳細

<今年度の目標・年度計画>

「活動内容報告書」の評価方法や詳細などについて決定する。

<今年度の活動実績・評価>

「活動内容報告書」で評価することを整理し詳細を検討した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

学校推薦型選抜試験の「活動内容報告書」を導入した初年度となる。実施前は、評価者・高校への理解と周知をする。実施後は課題の洗い出しをする。

4.4.1.8 自己点検・評価委員会

委員長：石垣 和子(学長)

委員：今井美和教授(副委員長、学長補佐・FD委員長)、川島教授(研究科長)、小林教授(図書館長)、中田教授(学生部長)、牧野教授(地域ケア総合センター長)、林教授(看護キャリア支援センター長)、濱教授(教員評価部会長)、塚田教授(教務委員長)、今井秀樹教授(学長補佐)、武山特任教授、浅見特任教授(アカデミックアドバイザー)、西田事務局長

委員長補助：千原助教、渡辺助教、河合助教

事務局：平村主任主事

委員会開催頻度：隔月開催 計6回開催

活動内容：

1. 前年度の状況及び今年度への課題

- ①教育の内部質保証の質検証委員会に向けた資料準備及び委員会の開催
- ②質保証委員会後の報告書の作成
- ③教員複数年評価の改善点の検討
- ④職位ごとの教育力、研究力の標準化の検討
- ⑤本学独自のIRの探求と法人と連携したIRの探求

2. 今年度の主目標

- 1) 教育の質を検証できる資料の作成
- 2) 質検証委員会委員の委嘱と会議の開催、報告書の作成
- 3) 第3期中期計画準備に向けた提言の作成
- 4) 複数年評価の試行の続行と見直し、並行した職位ごとの役割の標準化の検討

3. 今年度の活動内容・その評価

1) 教育の質検証に関する活動内容：

- (1) 学生の学年進行に伴う汎用能力（リテラシー・コンピテンシー）の動きを分析し、質検証を行うための資料とした（分析は外部委託）。
- (2) 卒業生・在学生からの教育方法、教育環境、学生支援等に関するアンケート調査（無記名）、卒業生に対する受け入れ病院からの聞き取り調査（ディプロマポリシーとの突き合わせの観点から、外部委託）を分析し、質検証を行うための資料とした（分析は外部委託）。
- (3) 12月14日に質検証委員会（委員数8名）を開催し、本学の教育の在り方を検討した。
- (4) 報告書を作成し、2点の検討ポイントを導出した。
 - ①ディプロマポリシーの5番目、6番目の意味を再考し、表現の適切性を検証し、調査の際にも調査項目に反映させること。
 - ②IPE（他職種連携教育）の推進について検討すること
- (5) 上記の2点を第3期中期計画準備に向けた提言として教育研究審議会に報告した。
- (6) 汎用能力測定調査としてリアセック社のプログ調査を次年度以降も継続することを決定した（有料）。

2) 複数年評価の試行の続行と見直しに関する活動内容

- (1) 複数年評価の趣旨を、「複数年評価の考え方」として文章化して公表した。
- (2) 趣旨に照らして複数年評価の項目を見直し、より簡便に記入できるよう改善した。
- (3) 職位別評価基準について、職位別小グループから聞き取り調査を行い、次年度に申し送った。
- (4) 前年度に単年度評価の中止を決定していたが、看護小講座から単年度評価で行っていた講座トップと講座員との個別面接の復活の声が届き、検討の結果、復活させることとした。

4. 次年度以降に向けた課題

- ①新しい委員間での教育の内部質保証体制の共有（2年サイクルと6年サイクル）
- ②内部質保証のための調査の準備と実施（2年サイクルに必要なデータの検討）
- ③複数年評価における職位別評価基準の検討

④本学独自のIRの探求と法人と連携したIRの探求

4.4.1.8.1 教員評価部会

部会長：濱 耕子 教授

部会員：今井美和教授、金子准教授

委員補助：千原助教、渡辺助教

活動内容：

<前年度までの課題、今年度の目標・年度計画>

教員活動における複数年評価に対して、2020年度からの複数年評価試行後に看護領域における教育（実習業務等）の特性から教育領域の評価を重視して欲しい、評価項目が多く評価が煩雑であるという意見が出ていた。そのため、学長と相談し、年度内での「教員活動における複数年評価報告資料」（以下、「評価票」）の改訂を目指し、12月の全体会議において報告した。

また、「評価票」の最終項目でもある「職位別評価」の内容が単年評価時のものから未検討であったため、中期計画に則り職位別研修会を開催して全学的に意見の集約を行った。

<今年度の活動実績・評価>

1) 「教員活動における複数年評価報告資料」（「評価票」）の改訂

11月末より学長と部会で意見交換しつつ改訂に取り組んだ。部会では大学全体の目的に対する個人の役割遂行把握ならびに顕著な貢献者を表彰するという評価の目的や、大学全体の在り方の見直しと大学の力の向上を期待し評価が定着する意義を確認し、「評価票」の改訂を進めた。

具体的には、全項目を学長・評価者による他者評価（段階評価）としたが、被評価者が評価領域毎（例えば、教育、研究論文・執筆等）に教員活動の具体的事実を記入する欄や自己アピールする欄を設けた。また、12月に自己点検・評価委員会からの助言を得て、共通する評価領域を整理且つ評価項目を精選し、評価し易くした。自己点検・評価委員会後の「評価票」修正案を全体会議において報告した結果、概ね了解を得たが、数名から「評価票」の課題となる意見もあった。

2) 職位別研修会の開催

2月末～3月初旬に職位別研修会にて「職位別評価」の内容に対する意見交換を行った。自己点検・評価委員会で推薦した教員（部会長や自己点検・評価委員含む）を教授グループ、准教授・講師グループ、助教・助手グループ各4名ずつに分け、学長と意見交換した。集約した意見から多くの課題が把握できたため、次年度の部会に引継ぎ、「職位別評価」の内容検討の参考にする。

3) 複数年評価の案内（年度内の活動報告についての整理）について

2月下旬に年報と併せて、複数年評価試行2年目に当たる今年度の教員活動についての整理と講座・領域の判断で指導者（直属上司）との面接の機会を得られるようメール案内をした。

<次年度以降に向けた課題・発展>

・「教員活動における複数年評価報告資料」（「評価票」）への課題については、具体的には休暇取得との関係でペナルティの判断や扱いは慎重にした方がよい、中途入職者の評価の扱いは

どうするのか等の意見があった。これらの意見もふまえて、次年度も改訂の検討の方向性を探る。

・今後とも複数年評価が順調に進むことを目指して、毎年2月上旬（学内年報報告の時期）に、1年間の教員活動の整理ならびに指導者（直属上司）との面接に関してメール案内を継続する。

4.4.1.9 FD委員会

委員長：今井 美和 教授

委員：曾山講師、松本智講師

委員長補助：大西助教、室野助教

事務局：砂山専門員

活動内容：

1. 学生による授業評価

1) 授業評価の実施

昨年度と同様に、Moodle「学習管理システム（Learning Management System; LMS）」にて授業評価を各科目1回実施した。担当教員にその評価結果をフィードバックするとともに、他教員も授業改善に活用できるように全科目の評価結果の学内公開を継続した。

2) 授業評価の分析

遠隔授業が始まった2020年度授業評価結果を、対面授業を行っていた2019年度結果と比較した。2020年度の前期は、学生が発言・質問する機会が減少、学生の学びの姿勢が低下し、授業に満足できない学生がみられたが、後期は大きな違いは認められなかった。次に、対面授業が増えた2021年度授業評価を、2020年度結果と比較した。2021年度の前期の座学では、学生が発言・質問する機会は改善したが、教員の「話すスピード・大きさ」「授業準備」、学生の「内容の理解」「総合的満足」に課題がみられた。後期も教員の「話すスピード・大きさ」、学生の「内容の理解」「学習意欲」「総合的満足」に課題がみられた。実習において、前期・後期とも教員の授業の方法・技術、学生の興味・理解、総合的満足の評価がいずれも高かった。

2. 教員の教育力の改善と向上のためのFD研修

新任職員（教員、事務職員）を対象に、本学の教育、研究、地域貢献等の体制に関する研修会を4月に実施した。

石川県や他県の大学コンソーシアム、他大学等が開催する学生が主体的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」や「遠隔授業」をはじめとする先進的な教育力向上のFD研修への参加を教員に促し、そこで得られた情報を随時メールにて発信し共有した。

大学コンソーシアム石川第3回FD・SD研修会（9月27日 オンライン）にて、塚田久恵教授（地域看護学）による「コロナ禍での看護教育者の活動～石川県立看護大学での取り組み～」の発表が行われた。

石川県立大学との合同FD研修会「Moodleの機能を駆使した授業の実践例 ～ Moodleの機能を使いこなそう～」を8月25日にオンラインにて開催した。

8月の教員全体会議にて、2020年度授業評価結果を2019年度と比較した分析結果、2020年度後期の「低評価のコメント」「自由記載」の分析結果を説明した。

4.4.1.10 ハラスメント委員会

委員長：石垣 和子(学長)

委員：亀田教授(副委員長)、小林教授、岩佐教授、中田教授、市丸准教授、金子准教授、西田事務局長

ハラスメント相談員：岩佐教授、大江講師、田村助教

委員会開催：4回

活動内容：

1. 前年度からの課題

- ①ハラスメント委員会体制の再検討、ハラスメント相談員の活用の方策の検討
- ②ハラスメントのないキャンパスの醸成
- ③ハラスメント事案が生じた場合の適切な対処

2. 今年度の主目標

ハラスメント案件が発生した場合には適切に対処する。
ハラスメントを予防するような職場環境を醸成する。

3. 今年度の活動内容・その評価

- 1) 委員会にて2020年2月に実施したアンケート調査結果に基づくハラスメント相談員の周知度の低さへの対処を検討した。その結果、周知度が低くても存在することに意味があるという結論を得て、現在の体制を変化させないこと、新学期のガイダンスで学生への周知を継続することとなった。
- 2) ハラスメントではないかという訴えが2件あったが、いずれもハラスメントには当たらないという結論を得た。
- 3) ハラスメントの判定について、学外の法律の専門家に相談した例が1件あった。
- 4) パワーハラスメント防止措置が2022年4月から義務化されることを受け、委員会にて資料を共有した。

4. 次年度以降に向けた課題

- ①2022年4月からのパワーハラスメント防止措置の義務化についての学内への周知
- ②ハラスメントのないキャンパスの醸成
- ③ハラスメント事案が生じた場合の適切な対処

4.4.1.11 コンプライアンス委員会

委員長：川島 和代 教授

委員：西田事務局長

事務局：林専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

昨年度、研究倫理・コンプライアンスに関する大きな瑕疵は見当たらなかったが、たゆみな

いコンプライアンス遵守の風土を醸成する。

<今年度の目標・年度計画>

倫理委員会との連携の重要性に鑑み、研究倫理委員会とコンプライアンス委員会共催により研修会を実施し、自己点検能力を強化する。

<今年度の活動実績・評価>

令和3年12月22日（水）2限に、倫理委員会・コンプライアンス委員会合同研修会を実施した。研究倫理研修会、テーマは、「看護研究の倫理的配慮、今後の展望」であった。講師は国立精神・神経医療研究センター トランスレー ショナル・メディカルセンター臨床 研究支援部 倫理相談・教育研修室長 有江文栄先生に依頼した。『人を対象とする生命科学・医学研究に関する倫理指針』を取り上げて組織としての取り組みにも言及いただいたのでコンプライアンス研修にも該当させた。（参加者：教員及び大学院生、職員 計72名）。

また、石川県公立大学法人の『公的研究費の適正使用に関するハンドブック』を配布して、適正な研究費の執行に向けての啓発活動を行った。

平成29年4月よりCITI Japanから事業を継続したAPRIN（Association for the Promotion of Research Integrity:一般財団法人公正研究推進協会）に本学は法人本部を通じて引き続き機関登録しており、新任教員の受講を確認するとともに大学院生に受講を奨励し、さらなる研究倫理の推進を確認した。令和3年度末までには教員の受講率は100%である。引き続き、新任教員や大学院生に十分浸透するよう、次年度以降も新任教員へのオリエンテーションや大学院の授業等で推奨する予定である。

<次年度以降に向けた課題・発展>

次年度も引き続き研修会を開催し、コンプライアンス遵守の風土の醸成に努めるとともに研究費の適正執行の注意喚起を図る。また、e-learning受講から5年以上経ている教員にはAPRIN（Association for the Promotion of Research Integrity:一般財団法人公正研究推進協会）等の再受講を勧奨する。

4.4.1.12 倫理委員会

委員長：川島 和代 教授

委員：垣花教授、岩佐教授、米田教授、木森准教授、高井講師、丸岡特任教授、
西村特任教授、外部委員（7名）

事務局：谷口主任主事

活動内容：

<前年度までの課題>

1. 令和2年度倫理委員会の運営上の課題

- 1) コロナ禍で研究活動の制約を受けやすい年度であり、感染対策を講じながら、かつ倫理的配慮を逸脱しない研究活動が実施できるよう研究倫理審査を実施する。
- 2) 昨年度の課題を踏まえて修正した倫理審査申請書改訂版Ver. 2についてはまだ、試行段階であり、課題を明らかにして本格稼働につなげ、審査の適切性を確保する。

3) 本学の倫理委員会の活動上、策定しなければならない指針等について課題が残っている。

<今年度の目標・年度計画>

1. 倫理審査申請書の改定を検討し、改訂版Ver. 2を提示し本格稼働する。引き続き倫理委員会の課題を低減する審査に移行できるよう検討する。
2. 研究倫理・コンプライアンス研修会を複数回開催し、研究倫理やコンプライアンス遵守の風土を醸成し、かつ倫理審査の適切性を確保できるよう倫理審査申請書の改訂版の周知を図る。

<今年度の活動実績・評価>

1. 委員会開催状況

- 1) 令和3年度は、学長が委嘱した学識経験者、法律の専門家、市民代表等の7名の外部委員の参加を得て、計10回の委員会（うち、研究倫理の審査は8回）を行った。
- 2) 令和3年度においてもコロナ禍における研究遂行が困難なため、全体の申請者数が減少、また、令和2年度に続き倫理委員会はZoom開催を主として行った。
- 3) 倫理審査案件の深読みの担当者を定め、できるだけ各委員にかかる負担を最小とする方法は継続した。
- 4) 倫理審査申請書の改訂版Ver. 2の試行を完了し、具体的な申請書の記載例（留意事項）・学部生向けには依頼文書や承諾書、同意書の雛形を準備して令和4年度から本格稼働する準備を整えた。

2. 倫理審査案件について

- 1) 令和3年度の通常審査申請数は46件、迅速審査申請数は18件で合計64件であった。（参考：令和2年度は合計56件）。審査の結果は、通常審査において承認10件（22%：昨年11%）、条件付き承認31件（67%：昨年81%）、変更の勧告3件（7%：昨年9%）、不承認・非該当は2件であった。
- 2) 条件付承認は修正・提出された申請の再審査で、100%が承認となった。
- 3) 倫理審査で修正提案があった内容には、以下の意見が付された。代表的なものを記載する。
 - ①当該研究が他の研究者・研究プロジェクトにもデータを提供（再利用）するなどの可能性についてもきちんと明記する必要がある。
 - ②オプトアウトが難しい調査には、そのことがわかるように申請書に明記すること。
 - ③オンライン調査などは撤回が難しいため、そのことも含めて説明文書には記載する必要があること、同じくオンライン上からデータを削除する予定も記載したほうが良い。
 - ④負担の大きな質問に該当する場合には、侵襲性がある研究とする（複数件あり）
 - ⑤死にまつわる内容など相手への侵襲性があるインタビューは、時期を考慮して研究スケジュールを立案、依頼する必要がある。
 - ⑥ビデオ撮影する時の他の人が映りこむときの配慮についても明記が必要である。
 - ⑦認知症や障がい者の方々について、研究依頼を実施する時の文言に関しては、人権に配慮して一段と明瞭な文書や口頭説明が必要である。

3. 研修会の開催について

1) 第1回研修会

令和3年5月27日（木）16:20～17:20に倫理委員会研修会「研究倫理研修会」（オンライン）を開催した。主な内容は「オプトアウト」「包括同意」「教育実践を研究にする」「オンライン調査」に関するものを取り上げた。講師は倫理委員会高井ゆと里委員が担当した。参加者は出入りがあったが約40名であった。

2) 第2回研修会

①内容：令和3年12月22日（水）10:40～12:10、研究倫理研修会、テーマは、「看護研究の倫理的配慮、今後の展望」であった。講師は国立精神・神経医療研究センター トランスレーショナル・メディカルセンター臨床研究支援部 倫理相談・教育研修室長 有江文栄先生に依頼した。『人を対象とする生命科学・医学研究に関する倫理指針』を取り上げて組織としての取り組みにも言及いただいたのでコンプライアンス研修にも該当させた。

②参加者：大学院生にも公開して広く学内に周知を図った。参加者総数は72名（内訳教員45名、院生26名、職員1名）であった。参加者は昨年より増加しており、開催テーマ、時期の開催は妥当であったと評価する。

③研修会のアンケート結果：Google Formによるアンケート結果から回答者47名中、講師の講演から新しい知識が得られたと回答した者は、“とても”と回答した者は42名（89.4%）、講師の講演は自分の期待に応えるものであったかは、“非常に”と回答した者は33名（70.2%）、満足度に関する設問には、“満足”と回答した者は37名（78.7%）であった。不満足という回答は見られなかった。

④出席できなかった教員・大学院生への対応：講師の許可を得て録画した研修会動画を1ヶ月間Pドライブに搭載し視聴可能とした。

<次年度以降に向けた課題・発展>

1. 倫理委員自身の守秘義務厳守のために「誓約書」を記載してもらうことについては、次年度に申し送る。
2. 大学のみならず医療機関等における倫理審査も強化されており、「研究倫理審査委員会報告システム」などへの登録を進めるか否かなど検討を継続する。
3. 研究倫理審査を担う委員の構成について、市民代表の増加を図るなど引き続き検討が必要である。

4.4.1.13 衛生委員会

委員長：今井 美和 教授

委員：岩佐教授、松原教授、渡辺助教、瀬戸助教、西田事務局長、平村主任主事、野川囑託、中川産業医

活動内容：

1. 職場巡視

職場巡視前に職員からメールにて情報収集を行ったうえで、3回 [6月、12月、3月] 職場巡視を実施し、学内の施設・設備等の安全衛生管理（新型コロナウイルス感染拡大防止も含む）

が適切か確認した。

2. 定期健康診断

受診状況を調査し、「職員保健だより（春号）」やメールにて職員に受診を勧奨した。

3. ストレスチェック、長時間労働

法人の指示に基づき、職員のストレスチェックを7月19日～8月2日に実施した。

職員（転任、新任を含む）にリーフレット「自分の時間外労働について考えよう 働き過ぎて疲れていませんか？」（衛生委員会作成）を配布した。

4. 防災訓練

防火管理者の主導のもと、職員及び学生の防災訓練を7月13日に実施した。コロナ禍のため新しい生活様式を考慮した訓練とした。地震対応訓練の実施と避難経路や消火栓・消火器、AED、車椅子等の設置場所、消火隊の組織や役割等の説明を行った。

5. 「職員保健だより（春号）（冬号）」の発行

春号では、定期健康診断の受診勧奨、新型コロナワクチンQ&Aについて掲載した。冬号では、インフルエンザウイルスQ&A、ストレスのセルフケアについて掲載した。

4.4.2 特設委員会

4.4.2.1 カリキュラム改革委員会

委員長：濱 耕子 教授（助産カリキュラム検討ワーキング長兼務）

委員：桜井准教授（副委員長）、石川准教授（副委員長）、垣花教授、市丸准教授、中道准教授、金谷准教授（助産カリキュラム検討ワーキング員兼務）、金子准教授（助産カリキュラム検討ワーキング員兼務）、川村講師（8月まで）、松本智講師

事務局：河端教務学生課長、林専門員（助産カリキュラム検討ワーキング所属）、北村主事

開催頻度：学部カリキュラム改革：年5回、大学院助産課程カリキュラム改革：年1回

活動内容：

<前年度までの課題>

- ・学部・助産課程カリキュラム変更申請内書類「変更申請を記載した理由等」（学部は「変更の概要」含む）の作成
- ・学部カリキュラム科目責任者への関連資料「授業科目の概要」「新設・変更シラバス」「読み替えシラバス」作成依頼

<今年度の目標・年度計画>

- ・学部・大学院博士前期課程（助産課程と助産課程以外の必要な内容）について、文部科学省への事前相談とカリキュラム変更申請内容の提出
- ・改正カリキュラム入学生用学生便覧の更新やシラバス内容の確認、必修・選択別科目や年次配当のシミュレーション・作成

<今年度の活動実績・評価>

1. 学部における保健師・看護師統合カリキュラムの改革について

先ず、4月の全体会議で「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」の基準を提示し、本学のカリキュラム改正の趣旨について説明した。そして、前年度に引き続き文部科学省へ提出するカリキュラム改正内容の検討・申請書類の作成を行った。

5～6月に3回の委員会を開催し、本学の学則（教育課程、卒業要件等）や履修規程との整合性を見直しつつ、4～8月に「授業科目の概要」の確認や7～9月初旬にはシラバスの新設や読み替えシラバス等、これに伴う変更の作業依頼を進めた。

9月の教授会、教育研究審議会を経て、同月末に石川県医療対策課を通じて文部科学省へのカリキュラム変更申請に至った（事前相談はしなかった）。

申請後も10～12月に2回の委員会を開催し、学則変更や学修の手引き（先修要件等）の修正作業を行った（合計5回の委員会開催）。

2022年3月初旬に、文部科学省からカリキュラム変更について承認された。

1) 指定規則の一部改正に伴う措置

委員長・副委員長・科目担当の委員で領域の意見を聴取しつつワーキングを2回開催し、自由裁量実習として「成人・老年看護学実習」の新設、「公衆衛生看護学実習」の教育内容の精査、そして第IV段階実習ローテーションの変更について検討した。

その結果、自由裁量実習6単位分のうち、指定規則の基準における臨地実習の〈成人看護学〉〈老年看護学〉（各2単位）に2単位（各実習に1単位ずつ）を追加して「成人・老年看護学実習」（急性期）及び「成人・老年看護学実習」（慢性期）を新設した。急性期実習では入院時から退院後の生活支援、慢性期実習では退院支援や地域移行支援による継続看護の実践力を養う。残る4単位を「公衆衛生看護学実習」に割り振り、「疫学」「保健統計学」「保健医療福祉行政論」担当教員とコラボレーション演習等で教育内容を強化することになった。

2) 社会的背景や看護の対象・場の変化による見直した措置

看護職のリーダーとしてIoT活用等を含む実践力が強化できるよう、看護の発展科目に「EBPの探究」を配置した。「クリティカルケア看護論」は廃止し、当教育内容は成人看護方法論Ⅲで教授する。

3) 看護学領域教員との「カリキュラム改正内容の報告会」開催

7月初旬に、本学の改正カリキュラムの全体像ならびに新設の「成人・老年看護学実習」と第IV段階実習ローテーションについての意見交換の趣旨で第1回報告会を開催した。

本学の改正カリキュラムが「看護基礎教育検討会報告書」（2019年；厚生労働省）の看護師、保健師の「教育内容見直しのポイント」に掲げられた教育内容を満たすことを確認した。

また、卒業要件は現カリキュラムから1単位増の130単位で改正基準の128単位を満たすことを確認した。改正カリキュラムによる年次別授業科目一覧表を作成し、教育分野別の必修や選択科目別単位の確認と履修年次・クォーター別配当のシミュレーションを行った結果、無理のない学年進行となる旨を報告した。

「成人・老年看護学実習」の新設内容は委員会の提案通りに了承された。現カリキュラムより1週早期に開始する第IV段階実習ローテーション案について、今後、申請前までに関連施設へ打診していく方向で了承を得た。実習中のインターバルは、学生の体調を考慮して「成人・老年看護学実習」3週を2クール、他の実習では2週を3クール終了直後の11月半ばに配置する案で了承を得た。

4) 第IV段階実習ローテーション変更に関する各実習施設への打診

主な実習施設の代表教員から実習施設責任者（看護部等）に第IV段階実習ローテーション案を打診した結果、了承を得た〔石川県立中央病院、金沢医療センター、金沢医科大学病院、JCHO金沢病院、石川県済生会金沢病院、石川県立こころの病院（旧：高松病院）〕。

5) 学生便覧の「学修の手引き」（先修要件等）の変更

- ①履修規程との整合性から、「看護の実践」分野でない「基礎看護学実習Ⅱ」と「卒業研究」は先修要件一覧表から外した。
- ②新科目・旧科目の改正カリキュラムのダブル開講は、時間割上支障がないことを確認した。（「臨床薬理学」と「薬理学」、「フィジカルアセスメント」と「フィジカルアセスメントⅡ」）
- ③選択科目の履修制限については科目責任者とも検討し、導入科目の「化学」「物理学」「生物学」は選択し易いように同曜日同時限履修は解除する。現カリキュラムにおいて3年次科目の「生理人類学」「健康環境論」は今年度から開講したばかりであり、今後も継続して同曜日同時限での履修状況を把握する。
- ④カリキュラムマップについては、各科目のディプロマ・ポリシー該当数を絞り、各科目と卒業までに身に付ける力との関連を分かりやすくした。

2. 大学院博士前期課程におけるカリキュラムの改革について

助産カリキュラム検討ワーキング員を川島研究科長、亀田教授、米田教授、金谷准教授、金子准教授、事務局を河端教務学生課長、林専門員とし、前年度に引き続き検討を進めた。

先ず、4月の全体会議でワーキングが順調に進捗している旨を説明した。そして、前年度に引き続き文部科学省へ提出するカリキュラム改正内容の検討・申請書類の作成を行った。

8月初旬に第1回ワーキングを開催し、6月中旬～7月初旬に助産課程教員で小ワーキングのもと変更に伴う措置内容を確定したこと、「授業科目の概要」「新設・変更シラバス」を作成している旨の報告を行った（合計1回のワーキング開催）。

助産課程の内容に成人看護学分野の新設科目3つを追加し、9月の教授会、教育研究審議会を経て、同月末に石川県医療対策課を通じて文部科学省へのカリキュラム変更申請に至った（事前相談はしなかった）。

2022年3月初旬に、文部科学省からカリキュラム変更について承認された。

1) 助産課程指定規則の一部改正に伴う措置

①指定規則の一部改正に伴う変更

今回の「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」の基準では、妊娠経過の診断力や異常を予測する臨床判断力、緊急時の実践力強化のため、教育内容の＜助産・診断技術学＞は8単位から10単位、＜地域母子保健＞は1単位から2単位に上乘せとなった。

そのため、本学でも「助産診断・技術特論演習Ⅰ（概論・妊娠期）」、「助産診断技術・特論演習Ⅳ（ハイリスク）」は各2単位45時間から3単位60時間とした。産後4か月程度までの母子のアセスメント力強化のため、「地域母子保健特論」は講義から講義・演習の形態に、且つ1単位15時間から2単位30時間とした。また、当科目では乳児のフィジカルイグザミネーション、産後4か月頃の褥婦と乳幼児の母子訪問（PBL、ロールプレイ）、育児困難など支援ニーズの高い事例検討会（病院外の多職種連携も含む）への参加等により、学生の主体的行動を伸ばす機会を設けることにした。

本学助産課程における取得すべき総単位数は、現行の29単位から3単位増により、合計32単位となった。

②履修環境の改善のための変更

「助産実践実習Ⅰ（正常・継続）」（1年次通年・2年次前期；8単位）を「助産実践実習Ⅰ-1（正常・継続）」（1年次後期；5単位）と「助産実践実習Ⅰ-2（正常）」（2年次前期；3単位）に分けた。

③臨地実習受け入れ時期の調整に伴う変更

「助産診断・技術特論演習Ⅲ（産褥期・新生児期・乳幼児期）」の開講時期を1年次後期から1年次前期に変更した。「助産実践実習Ⅱ（ハイリスク・継続）」の開講時期を1年次後期・2年次前期から2年次前期に変更した。

2) 助産課程以外の社会的背景や看護の対象・場の変化による見直した措置

近年、療養の場が多様化し、確かな臨床判断力やEBPに基づく実践や看護の質評価が求められている。その一翼を担う教育内容として、成人看護学分野の新設科目「看護イノベーション特論」（1年次前期；2単位）、「ビジュアル看護実践論」（1年次前期；2単位）、「ビジュアル看護社会実装演習」（1年次後期；4単位）を今回の変更申請内容に追加した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

本学学部における基礎分野、専門基礎分野、専門分野の教育内容は、専門基礎分野<人体の構造と機能>と<疾病の成り立ちと回復の促進>が他の分野より単位の比率が少ないという意見がある。今回のカリキュラム改正の完成年度頃に、授業実施状況や授業評価をふまえて、各分野における教育内容の配分、科目間連携、開講時期について検討する。

4.4.2.2 基礎科学教育拡充ワーキング

委員長：市丸 徹 准教授

副委員長：石垣教授（学長）

委員：垣花教授、小林教授、松田准教授、工藤講師、高井講師、今井美和教授、
今井秀樹教授、岩佐教授、平居教授、木森准教授

事務局：なし

活動内容：

<今年度の目標・年度計画>

- ・学部生に対する実証・実測的な方法を用いた基礎科学教育の充実を図ること
- ・人間科学、健康科学教員の研究体制充実を図ること

上記2点のための施設設備、組織体制の検討

<今年度の活動実績・評価>

令和3年は学長指示により活動を休止していた。令和4年に入り、人工気象室改修の財源検討を目的に招集が打診され、1月28日に第1回会議を開催した。人工気象室改修の要否及び、改めて他の利用案も募ることとなった。3月15日に第2回会議を開催し、R4年度に向けての方針を検討した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

1. 基礎科学教育等の充実のため必要な施設整備や備品等を検討
2. 大型機器・設備の導入と維持を支える恒常的な支援体制の提案

4.5 令和3年度 卒業研究論文題目一覧

領域または科目群	氏 名	論 文 題 目
人間科学領域 (15人)	荒木 麻由	北陸3県における新型コロナウイルス感染症への対応と新規感染者数の時系列的関係
	亀田 奈那	LGBTと医療
	代田 理紗	日本の障害者差別
	洲崎 有加	傾斜角度の変化が歩行の左右対称性・定常性に及ぼす影響
	橘 亜衣	石川県立看護大学附属図書館所蔵フローレンス・ナイチンゲール自筆書簡（ウィリアム・ラスボーン宛）の転写・内容解釈・史的意義の考察
	玉舎 瑠衣	石川県立看護大学附属図書館所蔵フローレンス・ナイチンゲール自筆書簡（J・A・ローバック宛）の転写・内容解釈・史的意義の考察
	堂上 愛華	屋外の緩やかな傾斜を歩いた時の動作特性
	永草ひかる	食生活の規則正しさが健康状態に与える影響
	中谷 優希	新型コロナウイルス感染症の新規感染者数とモビリティの関係
	中村 朱里	至適速度での歩行が自律神経活動へ与える影響
	松下 哲子	身体活動を増やすための情報提供アプローチ ー行政職員のスモールチェンジ活動に着目してー
	萬谷 直華	歩行の左右対称性・定常性に疲労が与える影響
	宮野 笑子	歩行時の歩行速度および傾斜角度、歩行時間の変化が身体の衝撃に及ぼす影響
	森山未玖美	ソーシャルジェットラグが生活習慣や主観的健康観へ及ぼす影響 ーA市役所職員へのアンケート調査からー
山本 志穂	歩行速度が歩行対称性・定常性に及ぼす影響	
看護専門領域 健康科学講座 (14人)	浅野 愛韻	食道がん、胃がん、肝及び肝内胆管がんの死亡率に関する疫学的研究 ー都道府県別データを用いてー
	受川 美奈	月経教育に携わる教諭への支援の在り方 ー教育に対する教諭の意識、思春期女性の要望に関する文献検討からー
	大川 未来	新型コロナウイルス禍における労働者のメンタルヘルスに関する研究
	岡澤 留利	高等学校における性教育の指導の方向性 ー高校生の性感染症の知識・意識の状況に関する文献検討からー
	笹山 未奈	新型コロナウイルス禍における看護大学生のメンタルヘルスに関する研究

領域または科目群	氏名	論文題目
看護専門領域 健康科学講座 (14人)	富井 凧月	看護学生における対人ストレスと食欲の増減変化に関する検討
	中西 央絵	認知症とオーラルフレイルに関する研究 －第1レベル 口の健康リテラシーの低下のリスクと認知症－
	西 栞那	妊孕性知識の普及に向けた考察 －若者の妊孕性知識と妊孕性教育に関する文献検討－
	橋本日菜子	ぶどう果皮抽出エキスの生物作用に関する研究
	林 美穂	乳がん、子宮がんおよび卵巣がんの死亡率に影響する生活要因について －都道府県別データを用いた検討－
	東川 桃子	下部消化器系がんの死亡率に関する疫学的研究 －都道府県別データを用いて－
	森山 鈴菜	認知症とオーラルフレイルに関する研究 －第2レベル 口のささいなトラブルと認知症－
	山崎 愛莉	月経随伴症状に対する自己感情の表出と期待される支援について考える
	吉田 友香	理想の体型像に影響する情報媒体の研究
看護専門領域 基礎看護学 (14人)	青木駿之介	ギャッチアップ時間によるポケットサイズ型エコーで測定した下大静脈径への影響
	池田 瑠海	コロナ禍における臨地実習で看護学生が患者とのコミュニケーションで感じた困難－マスク着用とフィジカルディスタンスの影響から－
	今井 咲希	コロナ禍における臨地実習で看護学生がとった患者とのコミュニケーションの工夫－マスク着用とフィジカルディスタンスの影響－
	上田 真央	高齢慢性心不全患者が自己管理をする中で抱く困難感と背景にある価値観
	梅田 捺央	人型対話ロボットを介在したコミュニケーションが脳活動に与える影響 －自由記述の質的分析－
	岸 凜太郎	マスクの着用がコミュニケーションに及ぼす影響に関する文献検討
	小松 璃佳	病棟看護師の手荒れ予防に関する文献検討
	田中 志歩	転倒リスクのある患者の行動と認識に関する文献研究
	寺沢 菜月	入院患者が抱く転倒リスクへの認識と看護師が行う援助に対する思い
	中村 凜奈	とろみ溶性水性食品のおいしさと味覚強度の評価
	橋本 航平	人型対話ロボットを介在したコミュニケーションが脳活動に与える影響 －前頭前野酸化ヘモグロビン濃度と主観的評価の観点から－
	橋本 萌衣	人型対話ロボットを介在したコミュニケーションが脳活動に与える影響 －発話時間・笑い頻度に焦点を当てて－

領域または科目群	氏 名	論 文 題 目
看護専門領域 基礎看護学 (14人)	二宮 梓	とろみ溶性水性食品のとろみの強さと飲み込みやすさの評価
	水落 咲良	SDGs研修会を通して看護学生が得た体験
看護専門領域 母性看護学 (8人)	石出 舞	不育症女性の心理についての文献研究
	尾田 朋香	新人助産師の現職教育に関する文献研究
	寺田 有沙	育児不安に対する退院後の支援の効果と課題に関する文献検討
	虎谷 彩音	風疹に関する知識・意識の実態と介入結果から考える予防的介入の検討
	半田 悠理	妊婦の食生活の実態・認識の現状と効果的な食事指導についての検討
	百成 明音	妊娠前女性に対する健康教育に関する文献検討 ーやせと食事・栄養に着目してー
	宮本 志保	HPVワクチン接種に対する母親の意思決定への影響要因に関する文献検討
	宮谷 愛美	NICUを退院した低出生体重児や障がい児の母親と家族への育児支援に関する文献検討
看護専門領域 小児看護学 (3人)	西谷 音々	管理入院中の多胎妊婦への支援に関する文献検討
	野崎 華加	子ども食堂に関する文献研究
	半井 佑佳	きょうだい支援の実際に関する文献検討
看護専門領域 成人看護学 (10人)	上村 美鈴	初回離床における臨地実習と学内実習のそれぞれの学生の学びについて
	江上 莉紗	集中治療を必要とする患者の家族の思いに関する文献検討
	大倉 陽菜	救急看護領域における新人看護師が困難に対処するための能力に関する文献レビュー
	賀田野正汰	看護学生による超音波画像診断装置を用いたセルフ心機能観察に向けた教育媒体の作成と評価
	小竹 彩華	妊孕性低下が懸念されるAYA世代がん患者の心理とその看護
	篠原 睦希	看護師が褥瘡ケアにおいて希望する相談と教育支援に関する実態調査
	出口 恵梨	看護師を対象としたグリーフワークで語られた体験
	橋本 愛美	老年期にある終末期がん患者が表出するスピリチュアルペインの特徴

領域または科目群	氏名	論文題目
看護専門領域 成人看護学 (10人)	宮 英里奈	看護学生による超音波画像診断装置を用いたセルフ心機能観察に向けた実現性の検討：下大静脈径の計測による信頼性の検証
	吉岡 優華	がんサロンにおけるピアサポーターの困難
看護専門領域 老年看護学 (4人)	津田 愛華	難聴を有する高齢者に対する看護師のアセスメントとケアの実態 －病院に勤務する看護師に焦点を当てて－
	村上 渚	難聴を有する高齢者に対する看護師のアセスメントとケア －訪問看護ステーションの看護師に焦点を当てて－
	山崎 未祥	軽度の認知機能障害を持つ高齢者を看護する看護師の関わりの実態
	吉田 歩未	看取り期を自宅で過ごした高齢者への訪問看護師の支援 －高齢者の意思を尊重した最期の生活に焦点を当てて－
看護専門領域 地域看護学 (6人)	岡本 茉莉	地域で生活する医療的ケア児やその家族に対して保健師に求められる役割と効果的な支援の検討
	川瀬 奈々	乳幼児虐待が疑われる母親に対する保健師による支援についての文献研究
	三賀 亮典	生活習慣や健診結果の改善に成功した例におけるプロセスと要因に関する文献検討
	田幡裕太郎	特定保健指導対象者となった健康保険加入者の行動変容に及ぼす促進要因・抑制要因についての文献研究
	中野 侑花	特定保健指導対象者が継続して目標に向かうための必要な支援についての文献検討
	橋 侑里	統合失調症の疾患を持つ事例と関わる際の行政保健師の困難感についての文献研究
看護専門領域 在宅看護学 (6人)	栗木 利咲	訪問看護師のグリーフケアと死生観・ターミナルケア態度に関する研究
	金子明日香	医療的ケア児の小学校就学に関わる看護職の在り方 －文献検討からの考察－
	真田 麻衣	在宅で看取りを行った家族の後悔に関する文献検討
	辻田 真菜	終末期を在宅で過ごした療養者の配偶者の思いや体験に関する文献検討
	鶴野 李佳	訪問看護師におけるグリーフケアの経験と自己肯定感・達成感の関連
	牧野 七海	看護小規模多機能型居宅介護で働く看護職と介護職の職種間連携についての文献検討
看護専門領域 精神看護学 (3人)	坂本茉莉子	発達障害を持つ方へのプレパレーションに関する文献検討
	松村 玲花	知的障害者の職場定着率を上げるための支援についての文献検討
	横田 実優	特別支援学校における就労支援に関する文献検討

5. 大学院・看護学研究科

5.1 理念・目標

5.1.1 博士前期課程（修士）

5.1.1.1 教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中であって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

5.1.1.2 教育目標

1. 看護教育を支える教育・研究職の育成

本課程では、学部で蓄積された看護学に関する成果を、さらに深化・発展させることによって時代と地域の要請に応えるため、看護学分野における学術上の先端的役割を担うとともに、知識の体系化と看護技術の開発を積極的に推進し、看護学の学問体系の構築に貢献する教育・研究職の人材を育成する。

2. 高度な専門的知識・技術・実践能力を備えた看護職者の育成

実践現場において当面する種々の問題について、体系的、継続的に研究を行い、合理的に問題解決できる人材や、看護職に対する指導・相談、関係する職種間の総合的調整能力、ケアの環境条件を積極的に改革していく役割を担う人材の養成が求められている。そうした要請に応えるため、専門看護師（CNS:Certified Nurse Specialist）の養成を図り、もって地域の看護の発展に一層寄与する高度専門職業人を育成する。

3. 女性の一生を通じた性と生殖に関わる健康を推進できる助産師の育成

時代の流れや社会情勢に高い関心と洞察力を持ち、多様化する女性の生き方や家族のニーズ、専門化・複雑化する助産に対応できる人材や、保健・医療・福祉に携わる多職種と積極的に連携・協働し、継続的に援助を推進できる人材の養成が求められている。そうした要請に応える助産師の養成を図るとともに、助産学の発展に寄与する専門職業人を育成する。

4. 生涯にわたって研鑽できる看護職の知的交流の場づくり

日々進歩・発展する医療技術と看護環境の変化に機敏に対応し、看護の知識と技術の向上を図るため、看護の実践現場と教育・研究の場の交流を活発にし、地域が要望する質の高い看護サービスの提供を図っていく。そのためには、学部の社会人入学に加えて、卒業後の継続教育、社会人の再教育の場を提供する必要がある。本課程は、このような向上心旺盛な学部卒業生や社会人の受け皿としての機能を持ち、看護現場のより一層の質の向上のために寄与することを目指す。

5.1.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

本学の看護学研究科では、入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 幅広い基礎学力を有し、かつ希望する専攻分野の基礎知識を有する人
2. 人間や社会に対して広く興味を持ち、豊かな人間性と高い倫理観を有する人
3. 看護学を通じて地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人
4. 専門看護師コース志望者は、対応する分野の実務経験を有し、専門看護師の資格取得を志す人
5. 助産実践コース志願者は、助産師の免許取得を志す人

5.1.1.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士前期課程では、より卓越した看護実践能力と高い研究能力を有し、看護学の研究や教育、看護実践・管理に携わることのできる研究者・教育者・高度看護実践者を育成する。研究コースに加え、専門看護師コースと助産実践コースを設け、次のような教育課程を編成している。

1. 広い視野で看護を学ぶための学際的な科目から構成されている「共通科目A」、科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を育成するための「共通科目B」、各研究教育分野におけるより深い専門性を学ぶ「看護専門科目」を置いている。
2. 国際的な視野を持ち、より効果的な看護を探究し提供していくために、海外の招聘教員による国際看護を学ぶ科目を置いている。
3. 論文作成にあたっては、研究計画の中間報告や複数教員による、組織的で計画的な研究指導体制をとっている。
4. 専門看護師コースでは、特定分野におけるケアとキュアを融合した看護実践力、保健医療福祉チーム内の調整力などの育成をめざし、看護実践力の高い専門看護師とタイアップして日本看護系大学協議会で認定された専門看護師教育を展開している。
5. 助産実践コースでは、助産師免許取得に必要な科目のみならず、多職種と連携してハイリスクに対応でき、多様な年代の性と生殖に関わる健康課題に応えられる専門的知識・技術や倫理的態度を育成する科目を置いている。

5.1.1.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、次のような研究能力や看護実践能力を有する者に修士（看護学）の学位を授与する。

1. 看護学に寄与する修士論文の作成を通して、学際的で深い科学的知識を基にした体系的な研究方法を修得している。
2. 専門看護師コースでは、1に加えて特定の看護分野における高度な知識と技術を修得している。さらに、総合的な判断力をもって組織的に問題解決をはかる能力を身につけている。
3. 助産実践コースでは、1に加えて専門化・複雑化する助産分野に対応できる助産実践能力と助産管理の基盤となる能力を修得している。さらに、女性のライフサイクル全般の性と生殖に関わる健康課題に応える能力を身につけている。

5.1.2 博士後期課程（博士）

5.1.2.1 教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中であって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

5.1.2.2 教育目標

1. 看護学や看護実践の発展に寄与する教育者・研究者の育成

看護・保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化や地域の要請に対応することができる高度で専門的な知識・技術と、総合的判断力、リーダーシップを備えた看護職を養成する。また、これまで蓄積された経験知や実践知に基づいてより効果的な看護ケアプログラムを開発していくとともに、健康に関する人々の反応や看護援助にまつわる専門的知識を系統的に理解し、諸科学の知見と関わらせながら看護学をさらに体系化し、かつ現代社会の変化や趨勢に照らして看護が果たすべき役割を發展的、科学的、体系的かつ原理的に探求していくことができる教育者・研究者を育成する。

2. 科学的な理解に基づいて看護をデザインできる研究者の育成

地域社会並びにそこで生活するあらゆる健康レベルの人々やその家族に対して総合的なヘルスケアをデザインするために、高度な理論・方法など学際的な知識体系を修得・活用して新しい看護実践方法、環境、用具等の開発を行なう。さらに、それらの実践の場における有用性の検証を図り、実践に活かせるエビデンスを明らかにできる研究者を育成する。

3. 対象の特性を踏まえた看護を実践できる研究者の育成

効果的な看護ケアプログラムの開発、あるいは対象者個々の個別性を踏まえ、その人たちが帰属する地域の文化的特性を踏まえた看護援助の開発、エビデンスに基づいた看護援助法の確立をめざした高度の研究を継続的に推進していくことのできる研究者を育成する。

5.1.2.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 実務経験を有し、看護学への探求心を有する人
2. 看護学研究に対する高い動機と学びに必要な基礎的研究能力を身に付け、自立して学修する姿勢を有する人
3. 看護学や看護実践の発展に寄与する意志を有する人
4. 看護学を通じて地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人

5.1.2.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士後期課程では、看護学や看護実践の発展に寄与する研究者・教育者を育成するために、教育課程においては次のような点を重視している。

1. 広い視野で看護学の学的基盤を見据え、看護実践のもととなる原理を解明する能力や人々の健康ニーズに役立てる能力を身につけるために、研究計画の中間報告や複数教員による組織的、かつ計画的な研究指導体制をとっている。
2. 学位論文の審査にあたっては、他の大学院等の教員を審査委員に加える等、論文の質の向上と客観性の確保に努める。

5.1.2.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、看護学や看護実践の発展に向け、学位論文において新しい知見を産出し、自立した研究活動に必要な能力を有する者に博士（看護学）の学位を授与する。

5.2 大学院生の入学・在学・修了の状況

1. 入学の状況

1) 入学定員・収容定員

課 程	単位 (人)	
	入学定員	収容定員
博士前期課程	15	30
博士後期課程	3	9

2) 試験実施日

	実施日
博士前期課程入学試験 (学内選抜)	令和 3年 7月 3日 (土)
博士前期課程入学試験	令和 3年 9月25日 (土)
博士前期課程入学試験 (第2次募集)	令和 4年 1月29日 (土)
博士後期課程入学試験	令和 3年 9月25日 (土)
博士後期課程入学試験 (第2次募集)	令和 4年 1月29日 (土)

3) 受験状況等

課 程	単位 (人、倍)					
	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率 C/D	入学者数
博士前期課程	10	3	3	3	1.0	3(3)
博士前期課程 (2次)	若干名	1	1	1	1.0	1(1)
博士前期課程助産	5	13	10	5	2.0	5(5)
博士後期課程	3	1	1	1	1.0	1(1)

() の数字は内数であり女性の数を示す
博士前期課程には学内選抜を含む

2. 在学の状況 (令和4年3月1日現在)

課 程	単位 (人)		
	1年次	2年次	計
博士前期課程	10(7)	13(12)	23(19)

課 程	1年次	2年次	3年次	計
	博士後期課程	4(4)	3(2)	10(10)

() の数字は内数であり女性の数を示す

3. 修了の状況

1) 修了者数と修了後の進路状況（令和4年3月31日現在）

単位（人）

課 程	修了者数
博士前期課程第17期生	9(8)
博士後期課程第14期生	1(1)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

2) 修了後の進路状況（令和4年3月31日現在）

(1) 博士前期課程（第17期生）

単位（人）

区 分	県内	県外	合計
	人数	人数	人数
就 職 医 療 機 関	5	2	7(6)
研 究 機 関	0	0	0(0)
教 育 機 関	2	0	2(2)
保 健・福 祉 機 関	0	0	0(0)
合 計	7	2	9(8)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

単位（人）

区 分	県内	県外	合計
	人数	人数	人数
進 学 大学院博士後期課程	0	0	0(0)
そ の 他	0	0	0(0)
合 計	0	0	0(0)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 博士後期課程（第14期生）

単位（人）

区 分	県内	県外	合計
	人数	人数	人数
就 職 医 療 機 関	0	0	0(0)
研 究 機 関	0	0	0(0)
教 育 機 関	1	0	1(1)
保 健・福 祉 機 関	0	0	0(0)
未 定	0	0	0(0)
合 計	1	0	1(1)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

5.3 大学院教務学生委員会

委員長：川島 和代 教授

委員：今井秀樹教授、亀田教授、紺家教授、中道准教授

事務局：河端教務学生課長、林専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

コロナ禍の中で研究遂行や実習等の遂行に困難が生じている院生が出現して、授業の進行や研究データの収集に遅れや課題が生じている。

また、大学院生の定員割れが生じており、大学院進学に向けて広く、PRを図る。さらに、博士後期課程の院生に修了の遅延がみられ、適切な指導が行き届くよう支援を行う。

<今年度の目標・年度計画>

1. 本学の新型コロナウイルス感染対策の方針を見据え、安全・安心な学修環境を確保する。
2. 大学院生との懇談会やアンケートを実施して院生の声を聞き、修学支援ならびに学修環境の改善を図り、所定の年月で大学院を修了できるよう指導を充実させる。
3. 教員の世代交代が始まり、大学院生の確保のために研究コースや助産看護学分野の学内特別選抜等の制度の周知を図り、学部生の大学院進学を複数名確保する。

<今年度の活動実績・評価>

1. 委員会の活動実績について

- 1) 年度初めに新入ならびに在学生へのガイダンスを実施した。新型コロナウイルス感染拡大に伴い大学に来学できない院生には後日、ガイダンス資料を送付、個別支援を実施した。
- 2) 令和3年度も4月に院生のオンライン環境を確認し、遠隔学習システムZoomを活用した授業に切りかえられるよう支援（Moodle研修会）を行った。4月の中間報告会はオンラインで実施した。
- 3) 助産看護学やCNS実習に行く大学院生のために感染対策用の個人防護具を配置できるよう、事前調査を実施し、予算獲得を図った。（大学からの特別予算措置、研究科長預り金活用）
- 4) 助産看護学実習において遠隔指導ができるよう、Wi-Fi環境を確保するため10月～1月の期間、予算措置（研究科長配分の預り金）を図った。
- 5) 在宅で療養しているコロナウイルス感染症患者への相談やホテル療養患者のサポートのために石川県並びに石川県看護協会から支援者の派遣要請があり、院生の派遣を行った。その体験について、研究科長が院生から情報収集を行った。
- 6) 院生との懇談会（今井秀樹教授、中道准教授担当）を7月14日博士後期課程中間報告会後に実施した。その内容について研究科委員会で報告し、後期の授業・研究活動に反映した。
- 7) 2月の修論・博論発表会後にアンケート調査を行い、大学院の満足度、要望等について無記名調査し、研究科委員会で報告を行った。概ね満足しているとの回答であった。
- 8) コロナ禍で大学院の研究計画を変更せざるを得ない院生に対して、倫理審査が早急になされるよう倫理委員会に特別配慮を依頼した。

2. 修士論文・博士論文に関する検討・審議について

1) 中間評価委員、予備審査・本審査委員の案の検討・審議依頼

令和3年度、博士前期課程の15名の院生の修士論文中間評価委員と10名の院生の論文審査委員（案）を研究科委員会に審議依頼し、承認を得た。

博士後期課程の3名の院生の博士論文中間評価委員（案）、1名の院生の予備審査委員（案）、本審査委員（案）を研究科委員会に審議依頼し、承認を得た。

2) 中間報告会（前期・後期）の運営

4月14日に修士論文中間報告会（15名発表、参加者約70名）、7月14日に博士後期課程の中間報告会（3名発表、参加者75名）をいずれもオンラインで実施した。

3) 修士論文・博士論文発表会の運営

2月21日（月）に修士論文発表会（10名発表、参加者100名）をオンラインで実施し、研究科委員会にて合否判定を行った。引き続き、博士後期課程の院生1名が博士論文を発表した（参加者90名）。研究科委員会にて審議の結果、学位授与が承認された。修了までの在籍期間は、前期課程は2～3年、後期課程は5年であった。

3. 大学院生の学修環境の改善について

1) 感染拡大に伴い院生室が密になる可能性があり、教育研究棟にWi-Fi設備が整ったサテライト院生室を確保した。令和3年度も院生の多くが自宅等からオンラインで授業を受け、実際の稼働はほとんど見られなかった。サテライト院生室の確保は継続することとした。

2) 修士論文作成時期（冬季）に院生室が冷えるため、例年通り暖房器具を貸与した。（各院生の持ち込みもあり、また、使用しない期間の保管は4F海側倉庫）

4. 大学院教育懇談会の開催について

大学院の受験生確保および実習場所拡大、修了生の動向把握・支援を目的に実施している「大学院教育懇談会（旧陸3県看護部長懇談会）」の開催は、今年度は7月13日（火）15:00～オンライン（Zoom）で実施した。北陸3県の52施設に開催案内を送付し17施設から参加（富山4施設、石川10施設、福井3施設）が得られた。本学の教職員は23名出席した。大学院進学後の自己の変化について公立能登総合病院主任助産師山本智世氏（女性看護学分野修了生）にゲストスピーカーとしてご発表をいただいた。

5. 学部生の大学院進学に関する支援について

1) 2月に学部生向けの大学院説明会を開催した。助産看護学のみならず、健康科学領域や実践看護学領域の紹介も行った。助産看護学分野の進学相談があった。

2) 大学院の修士論文・博士論文の発表会に学部生の参加も促し、ポスターの掲示・配布を実施したところ、大学院進学を考えている者も含めて10名余の参加を得た。

<次年度以降に向けた課題・発展>

引き続き新型コロナウイルス感染症対策の充実を図り、研究活動遂行上の課題に必要な支援策を講ずる。また、教員の研究について積極的にPRを図るためにホームページや教育懇談会の開催、オープンキャンパスも活用した進学相談会を実施し、院生の定員確保に努める。

5.4 令和3年度 修士論文題目一覧

分野	氏名	修士論文題目	指導教授
看護デザイン	立川 啓太	森林音聴取と森林映像視聴が前頭前野および自律神経活動に与える影響	中田 弘子
看護管理学	燕 真理子	教育担当者がスタッフ看護師を新人看護師教育に巻き込むためにとる行動	丸岡 直子
女性看護学	小村 未来	母子保健推進員が産後早期の母親に子育て支援を行う際の難しさと工夫	濱 耕子
老年看護学	辻 めぐみ	誤嚥性肺炎を経験した在宅高齢者の嚥下の理解と摂食状況	川島 和代
老年看護学	吉崎 彩	老人看護専門看護師が躊躇しつつも非がん疾患高齢者・家族と実践したアドバンス・ケア・プランニングー躊躇しつつもACPが行えた理由からー	川島 和代
老年看護学	小林真依子	代替栄養療法として経鼻経管栄養を実施している高齢者の家族の心理的变化ー経鼻経管栄養導入から現在までと今後の希望ー	川島 和代
助産看護学	林 未紗	乳児をもつ母親の育児に対する自己効力感と関連要因	亀田 幸枝
助産看護学	野川真咲貴	妊娠前女性の出産に対する不安要因の検討ー痛みへの不安と陣痛に対する価値観に着目してー	亀田 幸枝
助産看護学	寺田 真理	勤務助産師の乳房ケアに対する困難さとその対処経験を通して身につけた自分なりの乳房ケア	米田 昌代

5.5 令和3年度 博士論文題目一覧

氏名	博士論文題目	指導教授
蘭 直美	低栄養の課題を抱える在宅要介護高齢者を対象とした多職種による食支援の効果	川島 和代

6. 教員の業績

6.1 書籍

6.1.1 書籍（著書）

浅見洋, 中嶋優太（共編著）： 西田幾多郎未公開ノート研究資料化 報告5 2021, 前田印刷株式会社出版部, 金沢, 2022.3

岩佐和夫（監修）： Year Note 2023. メディックメディア, 東京, 2022.3

岩佐和夫（分担執筆）： 第110回看護師国家試験問題&解説. メディックメディア, 東京, 2021.4

小林宏光（分担執筆）： 宮崎良文、池井晴美 編：木材セラピー. 創元社, 大阪, 2022.3

小林宏光（分担執筆）： 日本生理人類学会編：生理人類士入門. 国際文献印刷, 東京, 2022.3

高井ゆと里（単著）： 極限の思考 ハイデガー：世界内存在を生きる. 講談社, 東京, 2022.2

高井ゆと里（分担執筆）： 項目「吐き気と不安」. レヴィナス協会（編）：レヴィナス読本. 法政大学出版局, 東京, 2022.3

Takai Yutori, Matsui Kenji（分担執筆）： Chapter 7, Pseudo science during the COVID 19 pandemic. Joel Faintuch and Salomao Faintuch (ed.): Integrity of Scientific Research: Fraud, Misconduct and Fake News in the Academic, Medical and Social Environment. Springer, New York City, 2022.3 (unsure)

中道淳子（分担執筆）： 第7章認知症高齢者の看護. 三重野英子, 會田信子, 深堀浩樹（編）：最新 老年看護学 第4版. 日本看護協会出版会, 東京, 2022.1

松本勝（分担執筆）： エコーを用いた便貯留のアセスメント. 一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会編：排泄ケアガイドブック. 照林社, 東京, 2021.12

6.2 学術論文

6.2.1 査読有

浅見洋： 日本における「看護の哲学」の展開と現状 ——看護大学の哲学教員として. 日本哲学史研究, 18, 118-150, 2020.2

石川倫子, 丸岡直子, 林静子： 学生の経験を教材化し省察をうながす能力の育成に焦点化した臨地実習指導者講習会（特定分野）プログラム受講生の達成度. 日本看護学教育学会誌, 31(2), 145-154, 2021.11

日高未希恵, 今井秀樹： 日本の中山間地域で人口減少がゆるやかな地域の社会文化的特徴-宮崎県椎葉村を対象として-, 日本健康学会誌, 87(4), 173-194, 2021.10

島田尚美, 今井秀樹： 日本人学童, 生徒の体格と気候との関連について-都道府県別データを用いた分析-, 石川看護雑誌, 19, 2022.3

注1) 本学の教員の氏名の下にはアンダーライン

注2) 本学の学生・院生（卒業・修了生含む）の氏名の下にはアンダーラインかつ氏名の前にアスタリスク（*）

- Mizuno Y, Konishi S, Imai H., Fujimori E., Kojima N., Kajiwara C., Yoshinaga J.: Telomere length and urinary 8-hydroxy-2'-deoxyguanosine and essential trace element concentrations in female Japanese university students. *Journal of Environmental Science and Health, Part A*, <https://doi.org/10.1080/10934529.2021.1991741>, 2021.10
- 松本智里, 今方裕子: がん患者に対するアピアランスケアの国内研究の実態. *石川看護雑誌*, 19, 2022.3
- Hayashi K, Noguchi-Shinohara M, Sato T, Hosomichi K, Kannon T, Abe C, Domoto C, Yuki-Nozaki S, Mori A, Horimoto M, Yokogawa M, Sakai K, Iwasa K, Komai K, Ishimiya M, Nakamura H, Ishida N, Suga Y, Ishizaki J, Ishigami A, Tajima A, Yamada M.: Effects of functional variants of vitamin C transporter genes on apolipoprotein E E4-associated risk of cognitive decline: The Nakajima study. *PLoS One*, 16(11), e0259663, 2021.11
- Ishida N, Tokumoto Y, Suga Y, Noguchi-Shinohara M, Abe C, Yuki-Nozaki S, Mori A, Horimoto M, Hayashi K, Iwasa K, Yokogawa M, Ishimiya M, Nakamura H, Komai K, Matsushita R, Ishizaki J, Yamada M.: [Factors Associated with Self-reported Medication Adherence in Japanese Community-dwelling Elderly Individuals: The Nakajima Study]. *Yakugaku Zasshi*. 141(5), 751-759, 2021.5
- Kashihara T, Nozaki I, Sakai K, Minamikawa J, Nakamura-Shindo K, Akagi A, Ozaki T, Nakano H, Shimizu A, Komatsu J, Shima K, Ikeda T, Samuraki-Yokohama M, Hamaguchi T, Iwasa K, Tanaka K, Yamada M: Recovery from multidisciplinary therapy-refractory anti-NMDA receptor encephalitis after over three years of mechanical ventilation. *Clin Neurol Neurosurg*, 202, 106477, 2021
- Kumutpongpanich T, Ogasawara M, Ozaki A, Ishiura H, Tsuji S, Minami N, Hayashi S, Noguchi S, Iida A, Nishino I; OPDM_LRP12 Study Group(Iwasa K, and 54 other members): Clinicopathologic Features of Oculopharyngodistal Myopathy With LRP12 CGG Repeat Expansions Compared With Other Oculopharyngodistal Myopathy Subtypes. *JAMA Neurol*, 78, 853-863, 2021
- Oohashi F, Imakata Y, Suzuki Y, Sugama J: Interventions for the management of lower extremity edema in the elderly people: A review. *Lymphoedema Research and Practice*, 9(1), 1-12, 2022.1
- Oohashi F, Ogai K, Takahashi N, Arisandi D, Urai T, Sugama J, Makoto Oe: Increased temperature at the healed area detected by thermography predicts recurrent pressure ulcers. *Wound Repair and Regeneration*, DOI: 10.1111/wrr.12999, 1-8, 2022.2
- 垣花渉: コロナ禍でのコミュニティ形成を通じた高齢者の健康課題の把握. *地域活性学会東日本大震災後10年特別大会発表論文集*, 164-167, 2021.5
- 木森佳子, 山下大揮, 小嶋菊乃, 中嶋知世: 目視困難な末梢静脈可視化のための最適な近赤外光波長と狭帯域光法. *看護理工学会誌*, 8, 2021
- Kudo Y.: Reinstalling clerical authority, juridical and didactic: The unique rearrangements of Book II of Peter Idley's Instructions to his Son in London, British Library, Arundel MS 20. *Studies in Medieval English Language and Literature*, 36, 15-52, 2021.9

- Kudo Y.: Review of Takami Matsuda, Choosaa Kantaberii monogatari: Janru wo meguru bouken [Chaucer's Canterbury Tales: An Adventure across Genres] (Tokyo: Keio University Press, 2019). Studies in Medieval English Language and Literature, 36, 123-127, 2021.9
- 内匠薫, 紺家千津子, 遠藤瑞穂, 松井優子, 平松知子: 療養病床を有する一般病院におけるスキンケアの実態. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 25(1), 37-45(2021.03), 2021.3
- 遠藤瑞穂, 紺家千津子, 内匠薫, 松井優子, 平松知子: 褥瘡、スキンケア、失禁関連皮膚炎の予防と管理において療養病棟の看護師が求める支援. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 25(3), 585-596, 2021.11
- 北村言, 仲上豪二郎, 渡邊千登世, 青木和恵, 稲田浩美, 紺家千津子, 谷口珠実, 吉田美香子, 田中秀子, 真田弘美: 褥瘡を有する在宅療養者に対する皮膚・排泄ケア認定看護師による遠隔支援の効率性の評価. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 25(3), 654-660, 2021.11
- Murata Y., Sakai K., Konya C., Tanaka K.: Verification of the reliability and validity of the Japanese Triage and Acuity Scale for emergency outpatients according to the working style of nurses. Journal of Japanese Society for Emergency Medicine, 24(4), 476-489, 2021.8
- Kinoshita S., Ishikawa R., Seishima M., Konya C., Matsui Y., Okuwa M., Sanada H., Sugama J.: Morphological characteristics of pressure ulcers due to elastic compression stockings and factors associated with their occurrence. Journal of Japanese Society of Wound, Ostomy and Continence Management, 25(3), 611-621, 2021.11
- 河野由美子, 桜井志保美, 山崎智可, 北林正子: A県の訪問看護ステーションに従事する看護職における職務満足度に関連する要因. 日本在宅医療連合学会誌, 3(1), 27-35, 2022.2
- 瀬戸清華, 佐賀香奈美, 中田弘子: 教育施設内における高頻度接触面の汚染度実態と次亜塩素酸水の拭き取りの影響. 石川看護雑誌, 第19巻, 2022.3
- 吉田和枝, 曾山小織, 米田昌代, 長谷川昇, 松野智香子, 那波潤美: 化粧品使用に関する態度と健康増進ライフスタイルとの関連性. 石川看護雑誌, 19, 13-24, 2022.3
- 高井ゆと里, 松井健志: 臨床研究からの妊婦の排除という倫理的問題. 生命倫理, 32, 29-32, 2021.9
- 松井健志, 高井ゆと里, 山本圭一郎, 井上悠輔: ベルモント・レポートを越えて-生殖補助医療/技術に関する臨床研究の倫理的課題-. 生命倫理, 32, 20-28, 2021.9
- 高井ゆと里, 松井健志: プラセボ対照試験は倫理的に許されるか?——「均衡」原則をめぐる論争. 医学哲学・医学倫理, 39, 未定, 2022.3
- 瀧澤理穂, 牧野智恵: 乳がん患者が子どもに病気について伝えることを控える理由に関する文献検討. 石川看護雑誌, 19, 2022.3
- 立川啓太, 千時丸晴香, 田村幸恵, 中田弘子: 森林映像が前頭前野活動に与える影響. 日本補完代替医療学会誌, 18(2)
- 額奈々, 川島和代, 中道淳子: 介護保険施設における新型コロナウイルス感染症流行時の入所者とその家族への対応. 石川看護雑誌, 19, 101-110, 2022.3
- 中田覚子, 濱耕子: 現代の妊娠前半期の妊婦のQuality of Lifeに影響を及ぼす要因-人的支援と不快症状に焦点をあてて-. 日本ヒューマンリレーション研究学会誌, 2, 33-41, 2021.12

- 山崎智可, 笹井佐也香, 藤井悠希, 林一美: 人口減少かつ高齢化が進む能登北部医療圏の診療所看護師の役割についての実態調査. 石川看護雑誌, vol.18, 2022.3
- Kondo H., Kondo M., Hayashi K., Kusafuka S., Hamamura K., Tanaka K., Kodama D., Hirai T., Sato T., Ariji Y., Miyazawa K., Ariji E., Goto S., Togari A.: Orthodontic tooth movement-activated sensory neurons contribute to enhancing osteoclast activity and tooth movement through sympathetic nervous signalling. European Journal of Orthodontics, cjab072 (doi: 10.1093/ejo/cjab072), 2021.11
- Kiyama G., Nakashima K. I., Shimada K., Murono N., Kakahana W., Imai H., Inoue M., Hirai T.: Transmembrane G protein-coupled receptor 5 signaling stimulates fibroblast growth factor 21 expression concomitant with up-regulation of the transcription factor nuclear receptor Nr4a1. Biomedicine & Pharmacotherapy, 142, 112078. doi: 10.1016/j.biopha.2021.112078, 2021.10
- Hallett S.A., Matsushita Y., Ono W., Sakagami N., Mizuhashi K., Tokavanich N., Nagata M., Zhou A., Hirai T., Kronenberg H.M., Ono N.: Chondrocytes in the resting zone of the growth plate are maintained in a Wnt-inhibitory environment. Elife, 10, e64513. doi: 10.7554/eLife.64513, 2021.7
- 簀下佳子, 牧野智恵, 長谷川昇: 排泄環境におけるシクロフォスファミド汚染の実態と有効な対策の提案. 石川県看護雑誌, 19, 25-32, 2022.3
- Shigeki Sato, Azusa Tanimoto, Naohiro Yanagimura, Chiaki Suzuki, Yohei Takumi, Akihiro Nishiyama, Kaname Yamashita, Shinji Takeuchi, Koushiro Ohtsubo, Tomoe Makino, Yoshio Yoshida, Yasuo Hirono, Ryuji Hayashi, Tomonobu Koizumi, Yozo Nakazawa, Ken-Ichi Ito, Yoshiharu Motoo, Hidetaka Uramoto, Mitsutoshi Nakada, Yoshikazu Nishino, Seiji Yano: Multi-institutional survey of cancer disparities in disabled patients in the region of northwestern Japan. International Journal of Clinical Oncology doi: 10.1007/s10147-021-01890-3., 26(6), 1009-1014, 2021.5
- 松本勝, 石橋昂大, 北村言, 玉井奈緒, 三浦由佳, 高橋聡明, 東村志保, 仲上豪二郎, 真田弘美: 訪問看護師が撮影した直腸エコー動画に対するAIによる便貯留評価手法の考案. 看護理工学会誌, 9, 34-46, 2021.12
- Matsumoto M., Misawa N, Tsuda M, Manabe N, Kessoku T, Tamai N, Kawamoto A, Sugama J, Tanaka H, Kato M, Haruma K, Sanada H, Nakajima A.: Expert consensus document: diagnosis for chronic constipation with faecal retention in the rectum using ultrasonography. Diagnostics, 12(2), 300, 2022.1
- Takizawa C, Kitamura A, Nakagami G, Matsumoto M., Hayashi C, Kawasaki A, Sanada H.: The relationship between the temperature distribution detected by thermography and suspected deep tissue injuries. Japan Journal of Pressure Ulcers, 24(1), in press, 2022.3
- Kitamura A, Nakagami G, Matsumoto M., Hayashi C, Kawasaki A, Sanada H.: Effectiveness of a robotic mattress with automatic inner-air cell adjustment and continuous pressure mapping on prevention of pressure ulcer deterioration in a critically ill patient with a pressure ulcer in the sacrum. Journal of Japanese Society Wound, Ostomy, and

Continenence Management, 25(4), 689-696, 2021.12

丸岡直子, 石川倫子, 中嶋知世: 在宅療養移行支援において患者・家族と対話する看護師への看護師長の役割行動-COVID-19感染者減少期にインタビュー調査を実施して-. 石川看護雑誌, 19, 1~12, 2022.3

北川奈美江, 丸岡直子, 石川倫子: 2年目看護師が新人看護師と看護ケアを協働した経験. 看護実践学会誌, 34(1), 14-25, 2022.3

Genki Kiyama, Ken-ichi Nakashima, Kazumasa Shimada, Naoko Muro, Wataru Kakihana, Hideki Imai, Makoto Inoue, Takao Hirai: Transmembrane G protein-coupled receptor 5 signaling stimulates fibroblast growth factor 21 expression concomitant with up-regulation of the transcription factor nuclear receptor Nr4a1. Biomedicine & Pharmacotherapy, 142, 2021

渡辺達也, 石垣和子: 照明の色温度と照度の違いが40歳代の視機能に及ぼす影響~焦点調節応答距離と視認性に焦点をあてて~. 石川看護雑誌, 19, 2022.3

6.2.2 査読無

浅見洋, 中嶋優太: (新資料) 哲学論文集 首巻. 西田哲学会年報, 18, 124-130, 2021.8

紺家千津子: 褥瘡の疫学 実態調査結果をいかに. 臨床栄養, 138(6), 806-811, 2021.5

紺家千津子: DESIGN-R2020 深部損傷褥瘡 (DTI) 疑い. 臨床栄養, 138(6), 856-862, 2021.5

紺家千津子: 在宅患者訪問看護・指導料算定要件の変更 ICTによる在宅患者遠隔支援看護指導の算定拡大に向けて. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 25(3), 523-524, 2021.11

紺家千津子: 知らないで損! ABCD-Stomaケアアプリの活用法「ABCD-Stomaケア」アプリでストーマケアの自己学習. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 25(3), 525-526, 2021.11

紺家千津子: スキンケアとMDRPU. Derma., 316, 7-13, 2021.12

紺家千津子: リハビリテーション現場で知っておきたい高齢者の皮膚トラブル対応の知識「編集企画にあたって」「読んでいただきたい文献紹介」. MB Medical Rehabilitation, 271, 前付1,6, 2022.2

瀧澤理穂: がん患者が子どもに自身のがんを伝えることへの苦悩. 地域ケアリング, 5, 42-43, 2021.5

松田幸久, 菅本宙晃: Big Fiveパーソナリティ特性を測定する通俗的心理テストの作成. 都市経営, 14, 139-147, 2022.3

6.3 その他の原稿

浅見洋, 中嶋優太, 山名田沙智子: 枕辺の草花—西田幾多郎の妻・寿美. 石川県西田幾多郎記念哲学館・2020年後期企画展図録, 1-16, 2020.11

浅見洋: 93. 西田幾多郎ノート類資料の翻刻と研究資料化. 第51回 2020 三菱財団研究・事業報告書, 85, 2021.9

浅見洋: 思索のオアシス「哲学館」のご紹介—ようこそ哲学へ—. ファミリーライフ, 165, 41-48, 2021.9

- 浅見洋, 中嶋優太, 山名田沙智子: 頂点立地自由人—西田幾多郎の青春時代. 石川県西田幾多郎記念哲学館・2021年後期企画展図録, 1-16, 2021. 1
- 浅見洋: 原鉱石から思索を掘り出す 西田幾多郎未公開ノートと向き合っ. 北國文華, 冬(90), 24-39, 2021. 12
- 今方裕子: 2021年度 看護実践セミナー 臨床で行なうリンパ浮腫のケア基礎編を開催して. 2021年度北信がんプロ養成基盤形成プラン事業報告書, 2022. 3
- 今方裕子: 2021年度 看護実践セミナー 臨床で行なうリンパ浮腫のケア応用編を開催して. 2021年度北信がんプロ養成基盤形成プラン事業報告書, 2022. 3
- 吉川弘明, 中村好一, 栗山長門, 村井弘之, 酒井康成, 野村芳子, 松井真, 園生雅弘, 本村政勝, 横田隆徳, 今井富裕, 鈴木重明, 中根俊成, 中村幸志, 鶴沢顕之, 足立由美, 岩佐和夫, 古川裕, 東昭孝: 重症筋無力症 全国疫学調査. 厚生労働省難治性疾患政策研究班(神経免疫班)AMED難治性疾患実用化研究班令和3年合同班会議抄録集
- 吉川弘明, 中村好一, 栗山長門, 村井弘之, 酒井康成, 野村芳子, 足立由美, 岩佐和夫, 古川裕, 東昭孝, 松井真: ランバート・イトン筋無力症候群 —全国疫学調査における2次調査結果の解析—. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業 神経免疫疾患のエビデンスに基づく診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証 令和2年度 総括研究報告書, 2021. 3
- 吉川弘明, 中村好一, 栗山長門, 村井弘之, 酒井康成, 野村芳子, 松井真, 園生雅弘, 本村政勝, 横田隆徳, 今井富裕, 鈴木重明, 中根俊成, 中村幸志, 鶴沢顕之, 足立由美, 岩佐和夫, 古川裕, 東昭孝: 重症筋無力症 全国疫学調査2018の自己抗体別解析. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)神経免疫疾患のエビデンスに基づく診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証研究班 令和2年度 総括・分担研究報告書, 2021. 3
- 垣花渉, 松下哲子, 堂上愛華, 中村朱里, 森山未玖美, 永草ひかる: 市民一人ひとりが自分に合った健康づくりに取り組む—壮年期の人々を運動させる情報提供型アプローチ—. 地域課題ゼミナール支援事業成果報告集, 2022. 2
- 金谷雅代, 武山雅志, 柳井清治, 皆巳幸也, 長野峻介: かほく市立大海小学校での防災学習. 令和3年度石川県立看護大学と石川県立大学との共同研究助成プログラム成果報告書, 2022. 3
- 工藤義信: 学会賞受賞について. 石川県立看護大学広報誌『CAMPUS NET』, 40, 6, 2021. 11
- 紺家千津子: 皮膚・排泄ケア認定看護師の遠隔支援、算定拡大へ 日本創傷・オストミー・失禁管理学会の取り組み. メディカルトリビューン, 2021. 12. 15号, 2021. 12
- 河野由美子, 桜井志保美, 山崎智可, 北林正子, 小泉由美: 介護職の倫理観の確立を目指す. 地域ケアリング, 23(5), 44-47, 2021. 5
- 高井ゆと里: ハイデガーの平安／不安論. 現象学年報, 査読中
- 高井ゆと里: 希少性疾患と医療資源分配の正義. 生命倫理, 査読中
- 高井ゆと里: 臨床研究における「治療との誤解」再考. 医学哲学・医学倫理, 査読中
- 中嶋知世, 紺家千津子, 今井秀樹, 浅谷純菜, 泉陽菜, 岩田一花, 神本彩耶, 稲原寧々, 上森美雨, 柴愛莉, 舛岡怜奈, 大端愛美, 菰池真麻, 高橋愛結, 中島いまり, 松浦吏歩: たかまつまちかど交流館のさらなる活性化, 地域課題研究ゼミナール支援事業成果報告集, 2022. 2
- 瀧澤理穂: CNS関係者による看護事例検討会を開催して. 2021年度 北信がんプロ超少子高齢

- 化地域での先進的がん医療人養成 事業報告書, 2022. 3
- 寺井梨恵子, 松本智里, 三輪早苗, 瀬戸清華: SDGs de 地方創生カードゲーム体験会, 風水害
24開催報告. IPNU地域ケア総合センター事業 SDGs関連ニュースレター, 2, 2022. 2
- 寺井梨恵子: 本学におけるSDGsの取り組み. 石川県立看護大学広報誌『CAMPUS NET』, 40, 4,
2021. 11
- 牧野智恵: 「はじめに」「本科生の育成」. 北信がんプロ「超少子高齢地域での先進的がん医療
人養成」 2021年度事業報告書, 1-6, 2022. 3
- 牧野智恵: 「今年度の本学におけるインテンシブコースの成果」. 北信がんプロ「超少子高齢地
域での先進的がん医療人養成」 2021年度事業報告書, 11-12, 2022. 3
- 牧野智恵: 第27回石川緩和医療研究会を開催して. 北信がんプロ「超少子高齢地域での先進的
がん医療人養成」 2021年度事業報告書, 46-48, 2022. 3
- 牧野智恵: 「がんサロンの活動を知ろう」を開催して. 北信がんプロ「超少子高齢地域での先
進的がん医療人養成」 2021年度事業報告書, 54-57, 2022. 3
- 牧野智恵: 「おわりに」. 北信がんプロ「超少子高齢地域での先進的がん医療人養成」 2021年
度事業報告書, 66, 2022. 3
- 牧野智恵: 地域ケア総合センター「事業報告書(第18巻)」発刊に寄せて. 石川県立看護大学
附属地域ケア総合センター 第18巻 事業報告, 0, 2021. 5
- 牧野智恵: 終末期看護実践の悩みを共に語り心をリフレッシュ. 石川県立看護大学附属地域ケ
ア総合センター 第18巻 事業報告書, 27-28, 2021. 5
- 松本智里: ライフステージ事例検討会の運営に携わって. 北信がんプロ超少子高齢化地域での
先進的がん医療人養成 2021年度事業報告書, 2022. 3
- 室野奈緒子: 私たちの職場. 日本産業衛生学会 北陸甲信越地方会 地方会ニュース, 第10号,
2022. 3
- 米田昌代: ペリネイタル・グリーフケア検討会. 石川県立看護大学附属地域ケア総合センター
事業報告書, 18, 6-7, 2021. 5
- 米田昌代: あかちゃんをお空にみ送られた方の自助グループに対するサポート活動. 石川県立
看護大学附属地域ケア総合センター事業報告書, 18, 20-21, 2021. 5
- 米田昌代: MY RESEARCH あかちゃんを亡くされた方へのグリーフケア(悲嘆へのケア). 石川
県立看護大学 広報誌『CAMPAS NET』, 39, 4, 2021. 5
- 米田昌代: 20周年記念シンポジウム 1年越しの「開学20周年記念シンポジウム」座長を務め
させていただいて. 石川県立看護大学 広報誌『CAMPAS NET』, 40, 8, 2021. 11

6.4 学会発表

- 浅見洋: 看護と哲学—看護診断とは何か(教育講演), 第27回看護診断学会学術大会, オンデ
マンド, 2021. 7, 第27回看護診断学会学術大会HP, 2021
- 浅見洋: 看護師の倫理的意思決定支援—コロナ禍の中で考える—(基調講演), 全国自治体病
院協議会精神科特別部会研修会, 金沢, 2021. 9, 2021
- 浅見洋: エンドオブライフケアの現在とアポリア—場所的論理は新たなケアの視座たり得るか
—(シンポジウム発題), 西田哲学会第19回年次大会, 西田哲学会第19回年次大会, 2021. 7,

西田哲学会HP, 2021

浅見洋： 日本における「看護の哲学」の展開と展望（招待講演），第39回哲学史フォーラム，オンライン，2021.9，京都大学大学院日本哲学史講座HP，2021

浅見洋： 看護と哲学—コロナ禍において考える—（特別講演），第28回石川県看護学会，金沢大学病院，2021.11，第28回石川県看護学会集録，22，2021

Noriko Ishikawa： The role of nurse practitioners in providing assistance to patients and families to transition to home nursing, The 7th Annual Meeting of Japan Society of Nurse Practitioner, Nagasaki (Web), November 2021, Journal of Japan Society of Nurse Practitioner, 5, 111, 2021

中村さくら，石川倫子，瀬戸清華： 在宅復帰する神経難病患者・家族の不安に対する病棟看護師の認識とその支援，第26回日本難病看護学会学術集会，熊本Web開催，2021.7，日本難病看護学会誌，26(1)，76，2021

今井美和，塚田久恵，吉田和枝： 女子高校生を対象とした子宮頸がん予防啓発活動の効果の検討，第40回日本思春期学会総会・学術集会（Web開催），金沢，2021.9，第40回日本思春期学会総会・学術集会抄録集，2021

Yuko Imakata, Jyunko Sugama, Mayumi Okuwa, Makoto Oe, Masato Kayahara, Masayoshi Munemoto, Kiyomi Sakakura, Yumi Yamamori, Kanako Dake, Chikako Edo : Clinical features of lower limb edema in breast cancer patients receiving docetaxel: a retrospective observational study, The 9th Asia Pacific Enterostomal Therapy Nurse Association Conference, Online, 2021.7, The 9th Asia Pacific Enterostomal Therapy Nurse Association Conference Program Book, 213, 2021

今方裕子，須釜淳子，大桑麻由美，萱原正都，宗本将義，坂倉喜代美，山森ゆみ，嶽加奈子，江戸稚香子，大江真琴： ドセタキセルによる下肢浮腫が出現したステージIV乳がん患者の浮腫症状の出現特徴とQOLに関する事例報告，第10回 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会 学術集会，オンライン，2021.9，第10回 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会 学術集会 抄録集，26，2021

牧野智恵，瀧澤理穂，松本智里，今方裕子： がん体験者を支援するピアサポーターが抱く困難とその対処，第36回 日本がん看護学会学術集会，ハイブリッド開催，2022.2，P44-260，2022

石田千穂，駒井清暢，坂井健二，川島篤弘，北島信治，原田ゆかり，岩佐和夫，山田正仁： 多系統萎縮症を合併した遺伝性ATTRアミロイドーシスの1剖検例，第62回日本神経病理学会総会学術研究会，東京，2021.5，Neuropathology, 41.Supplement, P7, 2021

清水愛，赤木明生，岩佐和夫，山田正仁： Sjögren症候群と抗GAD抗体を有し免疫グロブリン療法が著効したopsoclonus-myoelonus-ataxia syndrome (OMAS) の1例，第244回日本内科学会北陸地方会，富山，2021.6，第244回日本内科学会北陸地方会抄録集，22，2021

古川裕，岩佐和夫，篠原もえ子，山田正仁： ムコ多糖症I型一卵性双生児例におけるラロニダーゼ治療後12年間の臨床経過，第62回日本神経学会学術大会，京都，2021.5，第62回日本神経学会学術大会抄録，Pj-12-4，2021

吉川弘明，中村好一，栗山長門，村井弘之，酒井康成，野村芳子，足立由美，岩佐和夫，古川裕，東昭孝，松井真： ランバート・イートン筋無力症候群の全国疫学調査（2018），第62回日本

- 神経学会学術大会，京都，2021.5，第62回日本神経学会学術大会抄録，0-17-1，2021
- 森彩香，篠原もえ子，柚木颯偲，阿部智絵美，堀本真以，岩佐和夫，駒井清暢，山田正仁：社会ネットワークと認知機能との関連：なかじまプロジェクト研究，第40回日本認知症学会学術集会，東京，2021.11，日本認知症学会誌，35(4)，141，2021
- 柚木颯偲，篠原もえ子，阿部智絵美，堀本真以，森彩香，岩佐和夫，駒井清暢，小野賢二郎，山田正仁：地域高齢者における社会的孤立と主観的認知障害との関連：なかじまプロジェクト研究，第40回日本認知症学会学術集会，東京，2021.11，日本認知症学会誌，35(4)，142，2021
- 大橋史弥，須釜淳子：下肢廃用性浮腫を有する高齢者への効果的な管理方法に関する文献検討，第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会・The 9th Asia Pacific Enterostomal Therapy Nurse Association Conference，ウェブ開催，2021.7.3-7.30，日本創傷・オストミー・失禁管理学会集，25(2)，353，2021
- Fumiya Oohashi：Understanding mutual assistance community-dwelling elderly people in Japan，ICN Congress Nursing Around the World，ウェブ開催，2021.11.2-4，ICN Congress Nursing Around the World，2021
- 沖田翔平，大貝和裕，大橋史弥，大桑麻由美，須釜淳子：褥瘡治療部における生理機能と細菌叢の多様性における経時的変化，第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会・The 9th Asia Pacific Enterostomal Therapy Nurse Association Conference，ウェブ開催，2021.7.3-7.30，日本創傷・オストミー・失禁管理学会集，25(2)，289，2021
- Supriadi Syafie Saad，Imran Mili，Sayumi Tsuchiya，Fumiya Oohashi，Oe Makoto，Okuwa Mayumi，Sugama Junko：A method to evaluate the coefficient of friction on prophylactic dressing in laboratory，第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会・The 9th Asia Pacific Enterostomal Therapy Nurse Association Conference，ウェブ開催，2021.7.3-7.31，The 9th Asia Pacific Enterostomal Therapy Nurse Association Conference Program Book，171，2021
- 桶作梢，瀧耕子，米田昌代：がん治療のために妊娠中絶を余儀なくされたAYA世代女性がンサバイバーの次子妊娠への思いと契機，第36回日本助産学会学術集会，オンライン開催，日本助産学会誌，35(3)，410-411，2022
- 垣花渉：コロナ禍でのコミュニティ形成を通じた高齢者の健康課題の把握，地域活性学会東日本大震災後10年特別大会，オンライン，2021.5，地域活性学会東日本大震災後10年特別大会発表論文集，164-167，2021
- 垣花渉，松下哲子，堂上愛華，中村朱里，森山未玖美，永草ひかる：市民一人ひとりが自分に合った健康づくりに取り組む一壮年期の人々を運動させる情報提供型アプローチ，大学コンソーシアム石川 地域課題研究ゼミナール支援事業，金沢，2022.2，地域課題ゼミナール支援事業成果報告集，2022
- 垣花渉：実技科目における遠隔授業の適合および限界，初年次教育学会第14回大会，オンライン，2021.9，初年次教育学会第14回大会発表要旨集，28-31，2021
- 垣花渉：実技科目の魅力再認識-自己を表現・発見すること，2021年度初年次教育実践交流会 in 北陸，金沢，2021.10
- 金谷雅代，武山雅志，曾根志穂：西日本豪雨災害被災者の避難行動と影響を及ぼした要因の検

- 討, 日本災害看護学会第23回年次大会, オンライン, 2021.9, 日本災害看護学会第23回年次大会講演集, 23(1), 140, 2021
- 曾根志穂, 彦聖美, 金谷雅代, 武山雅志: コロナ禍におけるI看護大学災害ボランティアサークルによる被災地支援活動報告, 日本災害看護学会第23回年次大会, オンライン, 2021.9, 日本災害看護学会第23回年次大会講演集, 23(1), 186, 2021
- 河合美佳, 瀧耕子: 尿失禁予防・緩和に関する看護職の認識と妊産褥婦への保健指導の実態, 第62回日本母性衛生学会総会・学術集会, オンライン開催, 2021.10, 母性衛生, 62(3), 323, 2021
- 久保守, 木森佳子: ステレオカメラを用いた腕の血管深度可視化装置の検討, Web, 2021.10/22-11/22, 第9回看護理工学会学術集会抄録集, 2021
- Kudo Y.: A late fifteenth-century Norwich merchant's manuscript: The compilation of the "Fisher Miscellany", 56th International Congress on Medieval Studies, Virtual Conference, 2021.5
- 坂本洋子, 西村真実子, 金谷雅代, 千原裕香, 後藤亜希: 3歳未満児の母親にとっての「通園保育」の良さに関する質的研究, 日本子ども虐待防止学会第27回大会, 神奈川, 2021.12, 2021
- 松本美晴, 橋口暢子, 小林宏光: 末梢静脈穿刺時の静脈拡張を促すための温罨法の加温条件とその効果に関する文献検討, 日本看護研究学会 第26回九州・沖縄地方学術集会, 久留米, 2022.1, 九州・沖縄地方学術集会抄録集, , 25, 2022.1
- 紺家千津子: 実態調査から見る 褥瘡予防と管理の過去と未来 (特別講演), 第18回日本褥瘡学会九州・沖縄地方学術集会, 大分 (WEB開催), 2021.4, 第18回日本褥瘡学会九州・沖縄地方学術集会 抄録集, 22, 2021
- 紺家千津子: 高齢者と医療従事者を守るためのスキン-ケアの予防と管理 (教育セミナー), 日本老年看護学会第26回学術集会, 名古屋 (WEB開催), 2021.6, 日本老年看護学会第26回学術集会 抄録集, 51, 2021
- 紺家千津子: 在宅患者訪問看護・指導料3の算定要件拡大を図る: ICT 利用でストーマ周囲皮膚障害の看護指導 (シンポジウム), 第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 東京 (WEB開催), 2021.7, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 25(2), 261, 2021
- 遠藤瑞穂, 紺家千津子: 特別養護老人ホームにおける皮膚・排泄ケア認定看護師による褥瘡対策への支援, 第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 東京 (WEB開催), 2021.7, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 25(2), 312, 2021
- 宮永葵子, 宮永亨, 紺家千津子: 耳介矯正装具に関する基礎的研究 -ウサギ耳介部の彎曲固定による組織学的変化-, 第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 東京 (WEB開催), 2021.7, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 25(2), 316, 2021
- 内匠薫, 吉本聡美, 紺家千津子: オンラインストーマ外来の試行評価, 第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 東京 (WEB開催), 2021.7, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 25(2), 336, 2021
- 内匠薫, 吉本聡美, 軽海文博, 紺家千津子: 当施設における発生したスキン-ケアの現状分析と課題, 第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 東京 (WEB開催), 2021.7, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 25(2), 344, 2021
- Kimori K., Tatsuta H., Konya C.: Echocardiography of congestive heart failure for the

- early skin care of edema, The 9th Asia Pacific Enterostomal Therapy Nurse Association Conferenc, 東京 (WEB開催), 2021.7, The 9th Asia Pacific Enterostomal Therapy Nurse Association Conferenc Program Book, 167, 2021
- Takumi K., Yoshimoto S., Karumi H., Konya C. : Evaluation of wound, ostomy, and continence nurse' s participation in online wound care rounds, The 9th Asia Pacific Enterostomal Therapy Nurse Association Conferenc, 東京 (WEB開催), 2021.7, The 9th Asia Pacific Enterostomal Therapy Nurse Association Conferenc Program Book, 189, 2021
- 石澤美保子, 佐竹陽子, 西林直子, 紺家千津子 : 「防ぎきれない褥瘡」に関する日本褥瘡学会実態調査への組み入れ (シンポジウム), 第23回日本褥瘡学会学術集会, 北海道 (WEB開催), 2021.9, 日本褥瘡学会誌, 23(3), 221, 2021
- 紺家千津子 : 実態調査から見える褥瘡管理の推移と今後の展望 過去4回の実態調査からみる褥瘡予防と管理の推移 (シンポジウム), 第23回日本褥瘡学会学術集会, 北海道 (WEB開催), 2021.9, 日本褥瘡学会誌, 23(3), 232, 2021
- 紺家千津子, 北村言, 松本勝, 真田弘美, 渡邊千登世 : 皮膚・排泄ケア認定看護師による遠隔看護師支援の潮流 (シンポジウム), 第51回日本創傷治癒学会学術集会, 栃木 (WEB開催), 2021.11, 第51回日本創傷治癒学会学術集会抄録集, 25(2), 47, 2021
- Konya C. : High-Quality Care Challenge in Ostomy Patients during COVID-19 Pandemic (Key-note Speech), International Conference and the 5th National Congress Indonesia Wound Ostomy Continence Nurse Association , Indonesia (WEB開催), 2022.2, 2022
- 桜井志保美, 河野由美子, 土師しのぶ, 枝川奈都美 : 医療的ケア児が2歳未満の時期に訪問看護師が行った遊びの育児支援に関する内容分析, 日本看護科学学会, 名古屋, 2021.12, 第41回日本看護科学学会学術集会 (2021年) 2021
- 高井ゆと里 : ハイデガーの平安／不安論, 日本現象学会, オンライン, 2022.11, なし
- 高井ゆと里 : 希少性疾患と正義論, 日本生命倫理学会, オンライン, 2022.11, なし
- 高井ゆと里 : 生殖と生命倫理 (若手論文奨励賞受賞記念講演), APC Conference, オンライン, 2022.11, なし
- 高井ゆと里 : Towards Trans-Inclusive Bioethics, 国立がん研究センター生命倫理研究会, オンライン, 2022.12, なし
- 高井ゆと里 : SUPPORT試験論争, 国立がん研究センター生命倫理研究会, オンライン, 2022.12, なし
- 高井ゆと里 : 合評会研究会「中真生『生殖する人間の哲学』」, レヴィナス協会, オンライン, 2021.1, なし
- 高井ゆと里 : 合評会研究会「中野裕孝『カントの自己触発論』」, 倫理思想史研究会, オンライン, 2021.3, なし
- 木村日菜乃, 干場美沙輝, 瀧澤理穂, 牧野智恵 : 終末期看護を体験した若手看護師へのグリーフワークの実践報告, 第27回石川緩和医療研究会, Web開催, 第27回石川緩和医療研究会抄録 (Web), 2021
- 千原裕香, 西村真実子 : 乳幼児の親たちのライフストーリーを聴くという体験を取り入れた改良版「親子交流授業プログラム」の評価, 日本子ども虐待防止学会第27回学術集会かながわ大会, 神奈川, 2021.12, 日本子ども虐待防止学会第27回学術集会かながわ大会 抄録集 (ダウ

- ンロード版), 47, 2021
- 中村乃々佳, 帯山杏香, 塚田久恵: 在日中国人留学生の健康意識と行動調査—インフルエンザの予防行動・対処行動に着目しての考察, 第49回北陸公衆衛生学会, 石川 (誌上), 2021. 11, 北陸公衆衛生学会誌第48巻学会特集号, 48, 94-97, 2021
- 帯山杏香, 中村乃々佳, 塚田久恵: 在日中国人留学生の健康意識と保健行動—国民健康保険の加入と医療機関への受診行動を中心とした考察, 第49回北陸公衆衛生学会, 石川 (誌上), 2021. 11, 北陸公衆衛生学会誌第48巻学会特集号, 48, 98-101, 2021
- 洞庭真由, 濱耕子: 女子大学生の月経記録に対する認識と保健行動との関連—月経予測アプリケーションに着目して—, 第62回日本母性衛生学会総会・学術集会, オンライン開催, 2021. 10, 母性衛生, 62(3), 234, 2021
- 山崎智可, 林一美: 能登北部医療圏の診療所看護師の役割についての実態調査, 日本在宅看護学学会, WEB開催, 2021. 11, 第11回日本在宅看護学学会学術集会抄録集
- 北川寿子, 牧野智恵, 松本智里: がん遺伝子パネル検査を受ける患者の意思決定の様相, 第36回 日本がん看護学会学術集会, 横浜, 2021, 第36回 日本がん看護学会学術集会誌, 2022. 2
- 瀧澤理穂, 牧野智恵: 乳がん患者が子どもに病名を伝えることへの看護介入の困難感に関するアンケート調査, 第36回 日本がん看護学会学術集会, 横浜, 2021, 第36回 日本がん看護学会学術集会誌, 2022. 2
- 広瀬雅一, 木平孝高, 松田幸久, 小川圭太, 太田愛子, 山下広之, 猿橋裕子, 高根浩, 長崎信浩, 佐藤英治: 問題基盤型学習の導入による実務実習直前の薬学生における薬学的管理能力の向上への効果, 第54回日本薬剤師会学術大会, 福岡, 2021. 9, 第54回日本薬剤師会学術大会プログラム集, 94, 2021
- 広瀬雅一, 松田幸久, 山中智香, 小川圭太, 藤井早由利, 長崎信浩: 改訂コア・カリキュラムに準拠した実務実習に関する薬局薬剤師の意識調査と実習指導の理解向上を指向したワークショップの効果, 第6回日本薬学教育学会大会, Web, 2021. 8, 第6回日本薬学教育学会大会講演要旨集, 172, 2021
- Matsuda Y, Goromaru T: Associations between human error in perscription inspection, personality traits, and working memory, The 32nd International Congress of Psychology 2020+, Prague, 2021. 7, The 32nd International Congress of Psychology PRAGUE 2020 Scientific program (Web), 2021
- 松本勝, 藤岡正幸, 岡田俊彦, 中悠, 雨宮歩, 松島絵里奈, 玉井奈緒, 三浦由佳, 永田みさ子, 板橋みずほ, 真田弘美: 超音波検査を用いた大腸便貯留のモニタリングによる大腸内視鏡検査前のbowel preparationの評価, 第1回慢性便秘エコー研究会, 東京, 2021. 10. 16, 2021
- 小野寺友幸, 津田桃子, 松本勝, 渡辺亮介, 東野真幸, 久保公利, 加藤元嗣: 腹部超音波による直腸評価の検討, 第1回慢性便秘エコー研究会, 東京, 2021. 10. 16, 2021
- 松本勝: パネルディスカッション: どのようにすればエコーが看護に広がるか. 富士フイルムメディカルWEBセミナー 2022「看護現場にエコーがやってくる! ~関西からの発信~」パネリスト, オンライン, 2022. 1. 30, 2022
- 松本勝: 看護学の研究者としてのリサーチ・マインド. 2-2: 社会を変えるチャレンジに挑むリサーチマインド, 日本看護科学学会 第18回JANSセミナー (WEB) 学術の変革をもたらすリサーチ・マインドを高めよう!, オンライン, 2021. 8. 16-2021. 11. 25, 2021

三浦由佳, 荻部樹彦, 玉井奈緒, 松本勝, 永田みさ子, 真田弘美: 気泡入りの検査食を用いた超音波検査装置による梨状窩の咽頭残留物の視認性の向上, 第9回看護理工学会学術集会, オンライン, 2021. 10. 22-23, 第9回看護理工学会学術集会 プログラム・抄録集, 2021, 34, 2021

玉井奈緒, 松本勝, 三浦由佳, 真田弘美: エコーを用いたフィジカルアセスメントでケアが変わる! 現場が変わる!, 第7回日本NP学会学術集会, オンライン, 2021. 11. 20, 第7回日本NP学会学術集会 プログラム・講演集, 2021, 95, 2021

寺田真理, 米田昌代: 退院後の母乳育児支援の現状と課題についての文献研究-多職種連携に焦点をあてて-, 第62回日本母性衛生学会総会・学術集会, WEB, 2021. 10, 母性衛生, 62(3), 283, 2021

中梶杏美, 米田昌代: 助産師が教育現場で実施している性教育の現状とそれに対する思い, 第36回日本助産学会学術集会, WEB, 2022. 3, 日本助産学会誌, 35(3), 2022

6.5 社会活動・地域貢献

浅見洋: 日本エンドオブライフケア学会理事、社員、市民と専門職が協働するための実践・教育・研究員会委員長、査読委員

浅見洋: 比較思想学会理事、庶務委員、北陸支部会長

浅見洋: 西田哲学会理事

浅見洋: 日本宗教学会理事

浅見洋: 北陸宗教学会理事、監事

浅見洋: 石川県博物館協議会監事

浅見洋: 鈴木大拙-西田幾多郎記念金沢大学国際賞選考員

浅見洋: 公益信託能登町エンデバーファンド21 運営委員長

浅見洋: 北國新聞「新聞を読んでコンクール」審査員

浅見洋: 田辺元記念哲学会・求真会顧問

浅見洋: 2021年度後期金城大学教職課程哲学非常勤講師

浅見洋: かほく市史編纂委員

浅見洋: 講演「西田幾多郎とかほくの女性たち」, 西田幾多郎記念哲学館前期企画展イベント, 西田幾多郎記念哲学館, 2021. 4. 24

浅見洋: 講演「現代日本における終末期ケアと死生観」, 西田幾多郎哲学講座, 西田幾多郎記念哲学館, 2021. 5. 20

浅見洋: 父に語った夢物語—女性哲学者の初穂・高橋ふみ—, かほく市民大学, 七塚生涯学習センター, 2021. 7. 1

浅見洋: 講義「医療倫理・医療安全」, 感染管理認定看護師課程, 石川県立看護大学キャリア支援センター, 2021. 7. 5. 7

浅見洋: 講義「終末期看護」, 人間環境大学, オンライン (Zoom), 2021. 7. 9

浅見洋: 田辺元没後六十周年記念シンポジウム司会, 田辺元記念哲学会, オンライン (Zoom), 2021. 9. 5

浅見洋: 研修「看護管理者者研修会ファーストレベル「生命倫理1・2・3・4」, 富山県看護協会,

富山県看護研修センター, 2021. 9. 10

浅見洋: 講演「新しい人生の旅立ちを考える」, 小松市民大学, 小松大学, 2021. 10. 10

浅見洋: (シンポジウムコメント)「歴史的アプローチからせまる超高齢社会・日本の〈迷惑〉意識, 科研費・基盤A「日本の『古い』をめぐる分野横断的研究」, 岡山大学, オンライン (Zoom), 2021. 3. 13

石川倫子: 日本看護管理学会 評議員

石川倫子: 日本看護管理学会 専任査読委員

石川倫子: 日本看護学教育学会 評議員

石川倫子: 日本看護学教育学会 専任査読者

石川倫子: 日本看護研究学会 評議員

石川倫子: 看護実践学会 専任査読委員

石川倫子: 石川県看護協会認定看護管理者教育課程運営委員(委員長)

石川倫子: 金沢医科大学病院特定行為研修部門運営委員会委員

石川倫子: 北陸大学薬学部「看護学」非常勤講師

石川倫子: 石川県准看護師試験委員

石川倫子: 感染管理認定看護師教育課程「指導」非常勤講師, 石川県立看護大学, 2021. 8

石川倫子: 2021年度石川県看護教員現任研修非常勤講師, 石川県立看護大学Web開催, 2021. 6. 5, 9. 4, 10. 16

石川倫子, 寺井梨恵子, 田村幸恵, 瀬戸清華, 三輪早苗: With コロナ時代に いかにかに学生が自己学習能力を育むか -カリキュラム改正に向けて教育方法を開発する-, web開催, 2021. 6, 9, 10

石川倫子, 瀬戸清華, 出口まり子, 竹田昌代: 在宅療養移行支援を推進するための看護管理の再考, 石川県立看護大学Web開催, 2021. 10. 9, 11. 13

石川倫子: 認定看護管理者教育課程(サードレベル)非常勤講師, 石川県立看護大学, 2021. 10. 21, 11. 8

石川倫子: 認定看護管理者教育課程(セカンドレベル)非常勤講師, 石川県看護協会, 2021. 10. 8, 10. 14

石川倫子: 新人看護職員研修 教育担当者研修講師, 石川県看護協会Web開催, 2021. 10. 25

石川倫子: 金沢医科大学病院特定行為研修非常勤講師, 金沢医科大学病院, 2021. 11. 1

石川倫子, 桜井志保美, 山口恵子, 坂本泰子, 網本絹代, 徳田真由美, 越野まゆみ, 岸恭子, 池田富三香, 瀬戸清華, 牛村春奈: 石川県看護教員現任研修「With コロナ時代にいかにかに学生が自己学習能力をはぐくむか-カリキュラム改正に向けて教育方法を開発する-」, 石川県立看護大学, Zoomオンライン, 2021. 10. 16

市丸徹: 病理学 非常勤講師, 金城大学, 2021. 9 ~ 2022. 2

西本壮吾, 市丸徹: 生理学実習 非常勤講師, 金城大学, 2021. 9 ~ 2022. 2

今井秀樹: 社会医学講義, 長崎大学医学部, 2021. 4 ~ 2022. 3

今井秀樹: 健康セミナー, 珠洲市健康増進センター, 2022. 2. 28

今井秀樹: 学位論文審査委員, 杏林大学大学院, 2022. 1

今井秀樹: 環境省化学物質の内分泌かく乱作用に関連する報告の信頼性評価作業班班員, 環境省, 2021. 4 ~ 2022. 3

今井秀樹：羽咋市国民健康保険運営協議会委員，羽咋市，2021.4～2022.3
今井秀樹：羽咋市情報公開及び個人情報保護審査委員会委員，羽咋市，2021.4～2022.3
今井秀樹：羽咋市広域圏事務組合情報公開及び個人情報保護審査委員会委員，羽咋市広域圏事務組合，2021.4～2022.3
今井美和：日本病理学会 学術評議員
今井美和：石川県 奨学生選考審査会委員
今井美和：大学コンソーシアム石川 教職員研修専門部会員
今井美和：石川県立看護大学 衛生管理者
今井美和，新川晶子，村竜輝，片山雪絵：感染管理認定看護師教育課程「学内演習（微生物検査演習）」，石川県立看護大学，2021.9.28～9.30
今方裕子：第27回 石川緩和医療研究会運営委員
岩佐和夫：金沢医師会卒後研修セミナー，金沢市医師会館，WEB，2021.5.8
岩佐和夫：もの忘れ健診症例検討会講演，金沢市医師会館，WEB，2022.2.18
岩佐和夫：もの忘れ健診精度管理委員会，金沢市医師会館，2022.3.3
岩佐和夫：金沢大学医学類脳神経内科講義，金沢大学医学類，2022.1.7
岩佐和夫：いきいきシニア活動促進事業，かほく市「生涯現役フォーラム」，かほく市役所ホール，2022.1.24
林一美，坂尻顕一，坂本幸恵，神野俊介，桜井志保美，牛村春奈：北國健康生きがい支援事業「コロナに負けない！フレイル予防をしよう～元気に過ごす生活を長く～」，北國新聞20階ホール，2021.9.11
大江真吾：「精神看護学概論」講義，金沢医療技術専門学校，2021.9
大江真吾：あおカフェ，かほく市こども発達相談支援センター，2021.4～2022.3
大江真吾：看護研究指導・講評，金沢医療センター，2021.6.23，6.24，6.25，8.4，10.4，11.8，11.10，11.11
大江真吾：第111回看護師国家試験対策テスト 第3回 作問，2021.4
大江真吾：第112回看護師国家試験対策テスト 第1回 作問，2021.5
大江真吾：精神科病棟で働く新人看護師による事例検討会，石川県立看護大学，2021.7.17，9.11，11.13
桶作梢：小児・AYA世代がん看護SIG学習会，オンライン，2021.11.29
桶作梢：AYA WEEK 2022 イベント presented by 日本がん看護学会 小児・AYA 世代がん看護特別関心活動グループ「妊孕性」のこんなときどうする？ ～いま私たちが考えていること 2022～」講師，オンライン，2022.3.11
垣花渉：初年次教育学会 理事
垣花渉：石川県立羽咋高等学校 学校評議員
垣花渉：日本体力医学会 学会評議員
垣花渉：石川県大学健康教育研究会 委員
垣花渉：かほく市観光物産協会 理事
垣花渉：「初年次教育実践交流会 in 北陸」実行委員長
垣花渉：石川県立羽咋高等学校 「総合的な探究の時間」講師
垣花渉：「初年次教育学会 2021年度教育実践賞」審査副委員長

垣花渉：講義 石川県地域スポーツ指導者養成講習会「中高齢者の体力とスポーツ指導」, いしかわ総合スポーツセンター, 2021. 7

垣花渉：シティーカレッジ授業「石川の市町、かほく市・野々市市」 授業コーディネーター, 石川県政記念しいのき迎賓館, 2021. 7

垣花渉：「医療、健康 食・筋トレ」講師, 金沢市中央公民館彦三館, 2021. 9～2022. 2

垣花渉：「健康カフェ」事業, 津幡町条南コミュニティーセンター, 2021. 4～2022. 3

垣花渉：「総合的な探究の時間」講師「フィールドワークことばはじめ—情報を受け取る時、気をつけたいこと」, 石川県立羽咋高等学校, 2021. 9

垣花渉：令和3年度石川県看護教員現任研修「アクティブラーニング型授業設計と実際」授業コーディネーター, 石川県立看護大学, 2021. 6

金谷雅代：特別支援学校における医療的ケアサポート運営協議会委員

金谷雅代：医療的ケア指導アドバイザー, 石川県立小松瀬領特別支援学校, 2021. 11. 11

金谷雅代：医療的ケア指導アドバイザー, 石川県立ろう学校, 2021. 11. 29

金谷雅代：医療的ケア指導アドバイザー, 石川県立錦城特別支援学校, 2021. 12. 1

金谷雅代：医療的ケア指導アドバイザー, 石川県立明和特別支援学校, 2021. 12. 20

金谷雅代, 西村真実子, 米田昌代, 千原裕香, 後藤亜希：子育てどろっぷ・イン・さろん, かほく市子ども総合センターおひさま, 2021. 8～12

金子紀子：かほく市介護認定審査会委員

金子紀子：かほく市地域包括支援センター運営協議会委員

金子紀子：かほく市地域自立支援協議会委員

金子紀子：宝達志水町健康づくり推進協議会委員

金子紀子：石川県看護協会 推薦委員

金子紀子：看護研究指導・講評, 珠洲市総合病院, 2021. 8. 5, 10. 27, 2022. 2. 26

亀田幸枝：第40回～第42回 金沢がん哲学外来, オンライン開催2021. 6. 27, 2021. 9. 26, 2022. 2. 27

亀田幸枝：一般社団法人日本助産学会 代議員（東海・北陸）

亀田幸枝：第36回日本助産学会学術集会一般演題抄録査読委員, 第36回日本助産学会学術集会

木森佳子：「公立能登総合病院」看護研究指導・講評, オンライン開催, 2021. 6. 14, 2022. 2. 2

木森佳子：看護理工学会査読委員

木森佳子：看護実践学会査読委員

木森佳子：看護実践学会編集委員

木森佳子：地域公開講座「たこ、うおのめ、傷の治し方」講師, かほく市七塚健康福祉センター, 2021. 10. 29

木森佳子：「看護職志望学生のための進路指導者説明会」講師, オンライン開催, 2021. 5. 18

工藤義信：公益財団法人尚志社 北陸地区奨学生選考委員

工藤義信：慶應義塾大学通信教育部科目「中世英文学史」指導員

工藤義信：Annotated Chaucer Bibliography日本国内出版文献解題報告担当

工藤義信：いしかわシティーカレッジ科目「中世イギリス文学の世界—チョーサー『カンタベリー物語』を読む—」講義, 大学コンソーシアム石川, 2021. 4～6

工藤義信：日本中世英語英文学会第37回全国大会 研究発表司会担当, WEB開催, 2021. 12. 5

後藤亜希, 千原裕香: 「友達づくりのソーシャルスキルトレーニングPEERSプログラム学校版」実証事業講師, 金沢市立戸板小学校, 2021.4～

小林宏光: 日本生理人類学会理事

小林宏光: 千葉大学健康環境フィールド科学センター倫理審査委員会外部委員

小林宏光: 人間工学査読 (3)

小林宏光: Reviewer: Journal of Physiologocal Anthropology (3)

小林宏光: Reviewer: International Journal of Environmental Research and Public Health

小林宏光: 「人間工学」講義, 高岡看護専門学校, 2021.5-9

小林宏光: 感染管理教育課程, 石川県立看護大学, 2021.9

紺家千津子: 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 理事長, 評議員, 将来構想検討委員会委員長, 便秘対策アドホック委員会委員

紺家千津子: 日本褥瘡学会 評議員, 実態調査委員会委員, 在宅褥瘡管理者認定委員会委員

紺家千津子: 日本創傷治癒学会 理事, 評議員, 将来構想検討委員会委員長, 規約委員会委員, ガイドライン委員会委員

紺家千津子: 日本看護科学学会 和文誌専任査読委員

紺家千津子: 日本看護技術学会 代議員

紺家千津子: 看護理工学会 評議員, 教育委員会副委員長

紺家千津子: 日本老年医学会 代議員

紺家千津子: 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 評議員, 規約委員

紺家千津子: The 6th Congress of World Union of Wound Healing Societies 2022 Member of the international committee

紺家千津子: 第23回日本褥瘡学会学術集会 組織委員

紺家千津子: 第27回日本老年看護学会学術集会 企画委員

紺家千津子: 第52回 (2021年度) 日本看護学会学術集会抄録選考委員

紺家千津子: かほく市ケーブルテレビ番組審議会委員

紺家千津子: 北越ストーマリハビリテーション講習会 幹事

紺家千津子: 北陸ストーマ研究会 世話人

紺家千津子: 北陸PEG・在宅栄養研究会 世話人

紺家千津子: 日本褥瘡学会中部地方会 世話人

紺家千津子: 公益社団法人 日本オストミー協会石川県支部 顧問

紺家千津子: 「湿潤に対するスキンケア」講師, グループホームみんなの杜 (かほく市, WEB開催), 2021.6.29

紺家千津子: 「スキンケアの予防と管理 -患者とあなたを守るための 医療者必須知識-」講師, 富山県作業療法士会 (WEB開催), 2021.7.18

紺家千津子: 専門的看護実践力研修事業 (分野別実践看護師養成研修「がん看護」)「危機理論」講師, 金沢大学附属病院 (WEB開催), 2021.7.31

紺家千津子, 大橋史弥: 褥瘡管理スキルアップ支援 企画・運営, 石川県立看護大学 (WEB開催), 2021.9.4

紺家千津子: 褥瘡管理スキルアップ支援「DESIGN-R2020になぜ変わり、どう活かすか?」講師, 石川県立看護大学 (WEB開催), 2021.9.4

紺家千津子, 大橋史弥: 専門的看護実践力研修事業 (分野別実践看護師養成研修「皮膚・排泄ケア」) 企画・運営, 石川県立看護大学 (WEB開催), 2021.11 ~ 12

紺家千津子: 専門的看護実践力研修事業 (分野別実践看護師養成研修「皮膚・排泄ケア」)「創傷治癒とDESIGN-R2020」, 「ストーマケアの基礎」, 「スキン-ケア」, 「ICTを活用したストーマケア計画」, 「褥瘡のケア計画1・2」講師, 石川県立看護大学 (WEB開催), 2021.11 ~ 12

紺家千津子: 「看護学: クリティカルケアと周手術期ケア, 創傷とその管理方法, 臓器移植に関する法的整備と倫理的問題」講義 (非常勤講師), 北陸大学 薬学部, 2021.11.12, 19, 26

紺家千津子: 「褥瘡ケア力即向上 DESIGN-R2020を味方に!」CAPE褥瘡対策セミナー 2022 e-learning講師, 株式会社ケーブ (WEB開催), 2022.2.26 ~ 3.9

桜井志保美: 宝達志水町在宅医療・介護連携推進協議会委員

桜井志保美: 宝達志水町認知症初期集中支援評価委員

桜井志保美: かほく市介護保険運営協議会委員

桜井志保美: 河北地区日中友好協会理事

桜井志保美: 令和3年石川県看護教員現任研修講義・講師「時代を見据えた柔軟なカリキュラム開発. 地域・在宅看護論」シンポジウム・座長「地域・在宅看護論・在宅看護論実習に求められる内容と方法」, Web, 2021.10.16

桜井志保美: 地域公開講座「あなたの眠りは大丈夫? ~睡眠の基礎知識~」, 七塚生涯学習センター, 2021.11.26

小林宏光, 桜井志保美, 寺井梨恵子: 看護研究講評, 石川県立中央病院, 2022.3.5

瀬戸清華: 石川県学生献血推進委員会総会 石川県学生献血推進連絡会, Web会議, 2022.3.5

瀬戸清華: 令和3年度小児慢性特定疾病児童等保護者交流会 講師, 石川県南加賀保健福祉センター, 2021.10.14

瀬戸清華: 令和3年度石川県看護教員現任研修 Withコロナ時代にいかに学生が自己学習能力を育むかーカリキュラム改正に向けて教育方法を開発するー 演習補助, Zoom石川県立看護大学, 2021.6.19, 2021.10.16

曾山小織, 桶作梢, 河合美佳, 野沢ゆり乃, 米田昌代: 新人助産師のスキルアップ支援, 石川県立看護大学, 2021.9.11

高井ゆと里: 立教大学 兼任講師

高井ゆと里: 2021年度研究倫理コンサルタント養成パイロット研修会講師

瀧澤理穂: 第27回 石川緩和医療研究会 運営委員

瀧澤理穂, 牧野智恵: ひとりで悩まないで! 子どもをもつ乳がんサバイバー 同士で語り合おう, 石川県立看護大学, 2021.6.26.2021.8.28.2021.11.27

武山雅志: 石川県精神保健福祉協会副会長

武山雅志: 石川県精神保健福祉協会会報委員

武山雅志: 石川県いじめ対応アドバイザー

武山雅志: 石川県社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会委員長

武山雅志: (公) 石川被害者サポートセンター副理事長

武山雅志: 金沢市保健医療審議会委員

武山雅志: 金沢市いじめ防止等対策委員会委員

武山雅志: 七尾市いじめ問題調査委員会委員

武山雅志：学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会委員
武山雅志：かほく市教育相談講師
武山雅志：令和3年度訪問看護基礎研修「コミュニケーションスキル」，オンライン，2021.6.18
武山雅志：お話し相手ボランティア養成講座「様々なコミュニケーションについて」，かほく市七塚生涯学習センター，2021.6.22
武山雅志：学生災害ボランティア講座「被災者とのコミュニケーションについて学ぼう」，石川県地場産業振興センター新館第10研修室，2021.7.18
武山雅志：令和3年度認定看護管理者教育課程セカンドレベル「人材管理Ⅱ」，石川県看護研修センター，2021.9.9
武山雅志：石川県警察学校教養「被害者支援演習」，石川県警察学校，2021.10.13
田村幸恵：看護研究指導・講評，JCHO金沢病院，2021.8.24，11.5
千原裕香：看護研究指導・講評，公立宇出津総合病院，2021.7.6，2022.1.26，3.4
千原裕香，河合美佳：「総合的な探究の時間」学習支援講師，石川県立鹿西高校，2021.6.15，8.3，8.6，8.18，8.24，11.6，2022.2.8，2.16
塚田久恵：日本公衆衛生看護学会査読委員
塚田久恵：北陸公衆衛生学会査読委員
塚田久恵：JANPU高度実践看護師教育課程認定委員会委員
塚田久恵：一般社団法人日本公衆衛生学会代議員
塚田久恵：石川県障害者施策推進協議会委員
塚田久恵：かほく市健康づくり推進協議会委員（会長）
塚田久恵：日本地域看護学会第25回学術集会企画委員
塚田久恵：JICA日系社会研修「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成」講師等，石川県立看護大学（オンライン），2021.9.2～21
塚田久恵：【大学コンソーシアム石川】教職員研修専門部会令和3年度FD・SD研修会（第3回）講師，石川県立看護大学（オンライン），2021.9.27
塚田久恵：石川県立看護大学附属地域ケア総合センター事業「いきいき世代とつくる健康教室」企画・実施，かほく市いきいきステーション等，2021.9～12
寺井梨恵子，木森佳子：いしかわシティカレッジ 令和3年度後期 基礎看護学方法論，大学コンソーシアム石川
寺井梨恵子：「地域と看護」第7回，第8回講義，金城大学看護学部，2022.1.25
寺井梨恵子，松本智里，三輪早苗，瀬戸清華：地域ケア総合センター事業「SDGs de 地方創生カードゲーム」体験会，石川県立看護大学，2021.3.16，4.28，4.29，8.17
寺井梨恵子，松本智里，三輪早苗，瀬戸清華：地域ケア総合センター事業「風水害24」体験会，石川県立看護大学，2021.7.22
寺井梨恵子：風水害24ファシリテーター作戦会議，「風水害24MOVIEを活用した授業」，Zoom，2022.2.17
中田弘子：北陸大学薬学部非常勤講師
中田弘子：公立大学協議会保健医療部会代表
中田弘子：公益社団法人大学コンソーシアム運営委員会委員
中田弘子：公立羽咋病院看護部研修講師

中田弘子：日本公衆衛生学会 査読委員老年看護学会第27回学術集会企画委員
中田弘子：平成3年度公益社団法人大学コンソーシアム運営委員会，WEB開催，2021.5.20
中田弘子，川島和代：地域ケア総合センター事業 いしかわ学習会 ジェネラリストのための事例検討講師，対面およびWEB開催，2021.8.7，11.28
中道淳子：日本認知症予防学会 評議委員
中道淳子：日本認知症予防学会 第10回学術集会 評価委員
中道淳子：石川県介護支援専門員実務研修 企画委員
中道淳子：第27回日本老年看護学会 企画委員
中道淳子：かほく市地域密着型サービス運営協議会 委員長
中道淳子：かほく市地域密着型サービス施設等整備事業者選考委員会 委員
中道淳子：津幡町介護予防メイト養成講座 講師，オンライン，2021.8.10
中道淳子：JICA日系研修（遠隔研修） コーディネーター・講師，オンライン，2021.9.2～9.21
中道淳子：第1回認知症予防専門看護師 教育セミナー 講演，オンライン，2021.6.25
中道淳子：河北中央病院 研究指導・講評，河北中央病院，2021.4.14，2021.10.13，2021.12.16
米田昌代，曾山小織，桶作梢，河合美佳，野沢ゆり乃：ペリネイタル・グリーフケア検討会，オンライン，2021.7.18.2022.2.20
瀧耕子：日本公衆衛生学会認定専門家
瀧耕子：日本家族計画協会認定思春期保健相談士（～2022年1月12日迄）
瀧耕子：日本看護学教育学会 機関誌「日本看護学教育学会誌」専任査読者
瀧耕子：日本助産学会 機関誌「日本助産学会誌」専任査読者
瀧耕子：2021年度厚生労働省委託事業 不妊症・不育症 ピアサポーター等の養成研修 ピアサポーター養成プログラムファシリテーター
瀧耕子：石川県建築審査会委員
瀧耕子：石川県開発審査会委員
瀧耕子：かほく市創生総合戦略推進計画事業に係る外部評価委員会（有識者会議）委員長
東浩司，杉森美月，瀧耕子：石川県 次代を担う大学生向けライフプラン・キャリアデザインセミナー「人生発見伝！今から考えよう、充実した人生・キャリアの形成について～仕事も生活も充実した毎日に向けて～」(出前講座)の開催講師：株式会社ソラーレ 代表 東浩司氏，石川県立看護大学※Web会議システム「Zoom」を使用したオンライン開催，2022.2.2
林一美：日本災害看護学会査読委員
林一美：高松訪問看護ステーション運営委員
林一美：石川県国民県境保険団体連合会介護サービス苦情処理委員会委員
林一美：石川県防災会議震災対策専門委員
林一美：かほく市介護保険運営協議会委員
坂尻頭一，神野俊介，坂本幸恵，林一美：コロナに負けないフレイル予防をしよう-元気に過ごす生活を長く-，北國新聞社ホール，2021.9.11
牧野智恵：「苦しみの中에서도見出せる人生の価値 ～難病を宣告された事例から、人生における3つの価値を考える」，いきいきステーション，2021.12.13
牧野智恵：令和3年度厚生労働省委託事業「人生の最終段階における医療・ケア体制整備事業」におけるファシリテーター，WEB開催，2021.11

牧野智恵：「がん患者の心のケア」講師，金沢大学附属病院，2021.8.8

牧野智恵：メンタルケア・スペシャリスト養成講座「ターミナルケア」講師，石川県文教会館，2021.5.30

牧野智恵，瀧澤理穂，今方裕子：終末期看護実践の悩みを共に語り心も体もリフレッシュ，石川県立看護大学、ハーブの里ミントレイノ，2021.8.7 2021.9.18

牧野智恵，高井ゆと里：看護研究に活かせる現象学を楽しく学ぼう，石川県立看護大学，2021.5～2022.3（6回）

牧野智恵，松本智里，今方裕子，瀧澤理穂，大江真吾：テレビ会議システムを利用した ライフステージ事例検討会，石川県立看護大学，2021.5～2022.3

牧野智恵，今方裕子：臨床で行うリンパ浮腫ケア ～基礎編～，石川県立看護大学，2021.9.23

牧野智恵，今方裕子：第27回石川緩和医療研究会開催，石川県立看護大学，2021.7.17

牧野智恵，松本智里：「がんサロンの活動を知ろう」の開催，石川県立看護大学，2021.11.27

牧野智恵，瀧澤理穂：英国緩和ケアWEB研修，WEB開催(英国-日本中継)，2022.3.10

牧野智恵：「がん看護実践の課題とチャレンジ ～5年間の北信がんプロを振り返って」講演・パネルディスカッション，富山国際会議場，2021.12.5

牧野智恵：2021年度 全国がんプロ教育合同フォーラム 教育研究成果発表（北信代表），WEB開催，2022.1.17

牧野智恵：令和3年度北信がんプロ成果報告会 兼 学長連絡協議会・運営協議会，WEB開催，2022.2.22

牧野智恵：第35回日本がん看護学会学術集会 査読委員

牧野智恵：（一社）日本がん看護学会 代議員

牧野智恵：日本看護科学学会 和文誌専任査読委員

牧野智恵：金沢医科大学 特定認定再生医療等委員会 委員

牧野智恵：北陸大学 「看護学」非常勤講師 3コマ

牧野智恵：金沢大学 専門的看護実践研修 講師 「がん患者のここ論ケア」

牧野智恵：「医学と生物学」雑誌 査読委員

松田幸久：北陸心理学会 査読委員

松田幸久：「心理学の諸領域」編集幹事補佐

松田幸久：「石川看護雑誌」査読委員

松田幸久：卒業研究，福山市立大学都市経営学部（福山市），2021.4～2022.3

松本智里：日本運動器看護学会 査読委員

松本智里：第27回日本老年看護学会学術集会 企画委員

松本智里：第27回石川緩和医療研修会 運営委員

松本智里：公立能登総合病院 研究指導・講評，公立能登総合病院（オンライン），2021.5.21，2022.2.2

松本智里：出張オープンキャンパス講師，石川県立金沢錦丘中学校，2022.2.18

松本勝：看護理工学会 評議員

松本勝：看護理工学会 教育委員会委員

松本勝：日本看護科学学会 看護ケア開発・標準化委員会 委員

松本勝：日本看護科学学会 「看護ケアのための高齢者の便秘時の大腸便貯留アセスメントに関

「する診療ガイドライン」作成メンバー

松本勝：日本看護科学学会 和文誌査読委員

松本勝：日本創傷・オストミー・失禁管理学会 評議員

松本勝：日本創傷・オストミー・失禁管理学会 社会保険委員会委員

松本勝：日本創傷・オストミー・失禁管理学会 便秘対策アドホック委員会委員

松本勝：日本創傷・オストミー・失禁管理学会 便秘対策アドホック委員会ワーキンググループ

松本勝：日本褥瘡学会 評議員

松本勝：日本超音波医学会 第95回日本超音波医学会学術集会 プログラム委員会 救急（POCUS・横断）領域 委員

松本勝：日本超音波医学会 第96回日本超音波医学会学術集会 プログラム委員会 救急（POCUS・横断）領域 委員

丸岡直子：日本老年看護学会 代議員

丸岡直子：日本老年看護学会 査読委員 査読担当

丸岡直子：日本老年看護学会第27回学術集会 企画委員

丸岡直子：日本看護科学学会 社員（代議員）

丸岡直子：日本看護管理学会 評議委員

丸岡直子：看護実践学会 専任査読委員

丸岡直子：かほく市創生総合戦略推進計画策定に係る外部評価委員会 会長

丸岡直子：金沢医科大学大学院看護学研究科 非常勤講師（看護管理特論）

丸岡直子：認定看護管理者教育課程セカンドレベル（質管理Ⅱ）

丸岡直子：日本看護学校協議会共済会 代議員

丸岡直子：金沢医科大学大学院看護学研究科 非常勤講師（看護管理特論），金沢医科大学，2021.8.16, 8.17, 8.31, 9.3

丸岡直子：認定看護管理者教育課程セカンドレベル（質管理Ⅱ），石川県看護研修センター，2021.9.23, 10.7, 10.8, 10.14

丸岡直子：専門的看護実践力研修事業「管理者経営研修」講師（地域包括ケア時代における看護管理とリーダーシップ），石川県立看護大学，2021.11.26, 11.27

丸岡直子：認定看護管理者教育課程サードレベル（看護管理者の育成），石川県立看護大学，2021.12.13

丸岡直子：感染管理認定看護師教育課程 講師（医療安全学：看護管理），石川県立看護大学，2021.7.5, 2021.7.7, 7.8

丸岡直子：福井県立大学看護福祉学部（看護管理学），オンライン授業，2021.4.8, 4.9, 4.12

丸岡直子：福井県立大学看護福祉学研究科（看護管理学），オンライン授業，2021.4.24, 5.15, 5.22, 5.29, 6.19

丸岡直子：福井県立大学看護福祉学研究科（看護マネジメント学特論），オンライン授業，2021.7.22, 7.31, 8.6, 8.7, 8.12

三輪早苗：大規模接種会場 医療業務，石川県産業展示館4号館，2021.6

三輪早苗：保健所派遣，白山市石川中央保健福祉センター，2022.1

室野奈緒子，石垣和子，塚田久恵，金子紀子，黒川恵子：コロナ禍における職場の感染対策と事業継続，Zoom開催，2021.8.21

室野奈緒子： JICA日系研修「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成」遠隔プログラム運営補助, Zoom開催, 2021. 9. 2-21

西村真実子, 米田昌代： かほく市主催 乳児ノーバディズパーフェクト(完璧な親なんていない!)ファシリテーター(週1回 全6回)

米田昌代： 石川県看護協会 助産師職能委員

米田昌代： 第52回(2021年度)日本看護学会学術集会抄録選考委員

米田昌代： 日本看護研究学会 専任査読委員

米田昌代： 日本母性看護学会 評議員

米田昌代： 日本助産学会 代議員

米田昌代： 不妊・不育ピアサポーター等の養成研修 ファシリテーター・記録係

米田昌代： Medi-EYE 映像化プロジェクト 母性看護学事例 監修

米田昌代, 曾山小織, 桶作梢, 河合美佳, 野沢ゆり乃： ペリネイタル・グリーフケア検討会 全2回, 石川県立中央病院, 2021. 7. 18, 2022. 2. 20

米田昌代： あかちゃんをお空へみ送った方の自助グループに対するサポート活動, 石川県立看護大学, 通年

米田昌代： SIDS家族の会 医学アドバイザー

米田昌代： NPO法人ワークライフバランス北陸 副理事長

米田昌代： グリーフケア・カフェ運営, シェアマインド金沢, 2020. 4. 25 6. 21, 8. 29, 10. 24, 12. 19, 2021. 2. 13

米田昌代, 瀬戸清華： 開学記念20周年シンポジウム座長, WEB, 2021. 5. 29

渡辺達也： かほく市介護認定審査会委員

額奈々： かほく市介護認定審査会委員

6.6 その他(受賞等)

浅見洋： 第75回北國文化賞(第341号), 2021. 11

浅見洋： 新聞掲載, 北國文化 道を開く 石川県西田幾多郎記念哲学館 浅見洋氏, 2021. 10

岩佐和夫： ラジオ出演, FMかほく「なるほどインタビュー」, 2021. 11

岩佐和夫： 受賞, 令和3年度 石川県医師会医療功労者表彰, 2021. 7

大橋史弥： 受賞, 第30回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 優秀演題賞「褥瘡治癒部における生理機能と細菌叢の多様性における経時的変化」(分担), 2021. 7

垣花渉： 新聞掲載, 北國新聞朝刊「丘陵地歩いて健康に」, 2021. 6

垣花渉： 新聞掲載, 北國新聞朝刊「日常にちょっとした運動」, 2021. 7

垣花渉： 新聞掲載, 北國新聞朝刊「日常にちょっとした運動」, 2021. 11

工藤義信： 受賞, 日本中世英語英文学会 松浪奨励賞, 2021. 6

工藤義信： 受賞, 西洋中世学会 第2回西洋中世学会賞, 2021. 6

小林宏光： 受賞, 2021 Best reviewer award Journal of Physiological Anthropology, 2022. 3

小林宏光： 受賞, 日本生理人類学会 学会賞, 2022. 3

小林宏光： 受賞, トップ10%査読者賞受賞, 2022. 3

紺家千津子： 受賞, The 6th Congress of World Union of Wound Healing Societies 2022

「Supporting Societies Competition Top 4」(Project Team Leader of The Japanese Society of Pressure Ulcers), 2022.3

高井ゆと里：受賞，日本生命倫理学会 若手論文奨励賞，2021.11

高井ゆと里：雑誌記事，『シモーヌ』Vol.5「時計の針を抜く：トランスジェンダーが閉じ込めた時間」，2021.11

寺井梨恵子：ラジオ出演，FMかほく 電話インタビューコーナー「私と地域の未来を変革するSDGs」，2021.4.19

寺井梨恵子：資格取得，風水害24公認ファシリテーター，2021.4

中田弘子：表彰，石川県知事表彰，2021.6.12

中嶋知世：ラジオ出演，FMかほく「なるほどインタビュー」，2021.8.30

牧野智恵：受賞，第19回SGH看護特別賞，2021.11

松本勝：受賞，日本看護科学学会学術論文賞「Deep learning-based classification of rectal fecal retention and analysis of fecal properties using ultrasound images in older adult patients」，2021.12

室野奈緒子：ラジオ出演，FMかほく「コロナ禍における職場の感染対策」，2022.1.17

米田昌代：公益社団法人日本看護協会NursingNowキャンペーン「元気の歌」ダンス動画 ホームページ掲載，2021.4～6

米田昌代：ラジオ出演，FMかほくなるほどインタビュー「お子さんをお空へみ送られたみなさんに」，2021.5.17

6.7 研究助成金

6.7.1 科学研究費助成事業（日本学術振興会）

6.7.1.1 科学研究費補助金

1. 本学教員が研究代表者のもの

浅見洋，森雅秀，上原麻有子，秋富克哉，美濃部仁：西田幾多郎未公開資料の研究資料化と哲学形成過程の研究，R3-R6，科学研究費補助金基盤研究（B）

浅見洋，森雅秀，上原麻有子，秋富克哉，美濃部仁：西田幾多郎のノート類資料の研究資料化と哲学形成過程の研究，H29-R3（延長），科学研究費補助金基盤研究（B）

松本勝，河本敦夫，小路和幸，玉井奈緒，三浦由佳（他2名）：訪問看護師のための超音波検査技術遠隔学習システムの構築と在宅での実装，R3～R6，科学研究費補助金基盤研究（B）

2. 他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

林静子，任和子，丸岡直子，石川倫子，後藤彰彦，林篤司：VR学習システムを活用した看護技術教育プログラムの開発と評価，R2～R6，科学研究費補助金基盤研究（B）

6.7.1.2 学術研究助成基金助成金

1. 本学教員が研究代表者のもの

- 石川倫子： 診療看護師(NP)による症状マネジメントを強化する在宅療養移行支援システムの開発，H31-R3，学術研究助成基金助成金若手研究
- 今方裕子，須釜淳子： ドセタキセルの投与を受けた乳がん患者の下肢浮腫の臨床的特徴に関する観察研究，2021-2024，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）
- 岩佐和夫，吉川弘明，古川裕： 重症筋無力症の新規病態：免疫チェックポイント分子補体制御因子および治療への発展，R3～R5，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）
- 大江真吾： 精神科訪問看護師が実践する地域で生活するASD者への効果的な看護ケアに関する研究，2020～2021，学術研究助成基金助成金若手研究
- 大西陽子： 浅い鎮静深度で管理中の人工呼吸器装着患者の同意的行為を引き出すアプローチの解明，H30～R3，学術研究助成基金助成金若手研究
- 桶作梢： 治療後に出産するAYA世代がんサバイバーの周産期ケアモデル構築のための研究，H31-H34（R4），学術研究助成基金助成金若手研究
- 垣花渉，澤田忠幸，石川倫子，西村秀雄： 主体的に考える力を養う看護系初年次教育の実践的研究，R1～R4，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）
- 金子紀子，阿川啓子，石垣和子： 妊娠・子育て期に都市部から農村部へ転入した母親の地域のつながりの過程の解明，R1～R4，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）
- 亀田幸枝，瀧耕子，米田昌代，曾山小織，桶作梢，河合美佳： 周産期の助産実践能力形成を促すルーブリックの開発と有用性，H31～R4，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）
- 木森佳子，田中志信，久保守： 最適な近赤外光波長を用いた目視困難末梢静脈可視化システムの開発，R3～R6，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）
- 工藤義信： ピーター・イドリー教訓詩の伝播の実態を探るテキスト批評・人物研究・古写本学的分析，R3～R7，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）
- 小林宏光： 歩行対称性指標の妥当性およびその正常標準値の検討，，科学研究費補助金基盤研究（C）
- 瀬戸清華： ALS患者・家族のピアサポートの様相とピアサポート支援プログラムの試案の作成，R2～R4，学術研究助成基金助成金若手研究
- 曾山小織： 神経管閉鎖不全の発生リスク低減のための葉酸サプリメント摂取に関する女性の認識，R1～R4，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）
- 瀧澤理穂： 乳がん患者が子どもに病名を伝える苦悩の体験，R2～R5，学術研究助成基金助成金若手研究
- 武山雅志，曾根志穂，金谷雅代： 看護学生のコミュニケーション教育に及ぼす体験活動とフォーカシングの有効性の検証，R1～R3，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）
- 田村幸恵，中田弘子，木森佳子，小林宏光： 在宅療養患者への看護師による携帯エコーを使用した心不全評価の臨床的意義，R2～R4，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）
- 千原裕香，西村真実子，金谷雅代： 親になる前から始める子ども虐待の世代間伝達防止支援プログラムの開発，H31～R3，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）

谷本千恵, 塚田久恵, 大江真吾: 患者の自殺を体験した精神科看護師のメンタルヘルスケアプログラムの開発, 令和元年～令和5, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

寺井梨恵子: パフォーマンス評価を用いた看護師の動作観察能力を高める教育プログラムの効果, R1～R3, 学術研究助成基金助成金 研究活動スタート支援

中田弘子, 三輪早苗, 瀬戸清華, 中嶋知世, 小林宏光: 高齢者の人型社会的対話ロボットとのコミュニケーションが脳活動に与える影響, R2～4年度, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

林一美, 牛村春奈: 看護小規模多機能型居宅介護利用者の終末期ケアニーズに対応した支援プログラム開発, R3-5, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

牧野智恵, 松本智里, 瀧澤理穂, 今方裕子: パネル検査を受ける患者の体験, R3～R6, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

丸岡直子, 林一美, 武山雅志, 石川倫子, 田村幸恵, 中嶋知世, 林静子: 当事者視点と当事者との対話を基盤とする在宅療養移行支援システムの構築, 平成30-令和3年度, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

室野奈緒子, 森河裕子, 中田ゆかり, 塚田久恵: メンタル不調者の職場復帰支援における産業看護職の人事労務担当者との連携の影響因子, R3～R5, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

米田昌代: 周産期喪失に対するオンラインサポートグループミーティングシステムの開発と評価, R2～5, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C) (一般)

2. 他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

ラム・ウィンカン (林永強), 浅見洋, 志野好伸: 西田倫理学と古典儒教: 人格実現説の形成と意義の再検討, R1-R3, 科学研究助成基金助成金基盤研究 (C)

澤田忠幸, 垣花渉, 石川倫子: 初年次教育は学生の汎用的技能の育成にいかに関与しうるか? IRの視点からの検証, R2～R5, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

谷本千恵, 塚田久恵, 大江真吾: 患者の自殺を体験した精神科看護師のメンタルヘルスケアプログラムの開発, 2019～2024, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

石田元彦, 大角雅晴, 市丸徹, 清水暢子, 浅野圭吾, 大江真吾: 障害者の粗飼料生産のための機械利用の支援技術開発とヒツジ飼育が障害者に及ぼす影響の解明, 2021, イノベーション創出強化研究推進事業

風間順子, 大山良雄, 大庭志野, 倉林しのぶ, 大橋史弥, 柏瀬淳: 「高齢者サロンを活用した高齢者のレジリエンス向上モデルの構築と有効性の検証」, R1-R4, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

阿川啓子, 金子紀子, 石垣和子: 地域で暮らす子どもの母親支援; 先天性心疾患を持つ子どもへの看護連携の構築, H29～R3, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

長田恭子, 北岡和代, 河村一海, 川村みどり: 地域生活を送る統合失調症をもつ人の自殺念慮の体験とその対処方法に関する研究, H29-R2, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

松井優子, 真田弘美, 須釜淳子, 村山陵子, 紺家千津子: 抗がん剤治療を受ける患者の静脈穿刺困難をなくす-硬結予防アルゴリズムの開発-, R1～R3, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

木下幸子, 須釜淳子, 松井優子, 浅野きみ, 紺家千津子, 北村佳子: チューブやカテーテル類による圧迫創傷予防のためのモデル作成と予防ケアの構築, R2～R4, 学術研究助成基金助成

金基盤研究 (C)

浅野きみ, 紺家千津子, 野口美樹, 道合万里子, 中島由香里: 非造影CT画像における乳癌術後リンパ浮腫の予測ツールの開発, R2~R5, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)

河野由美子, 桜井志保美, 山崎智可, 北林正子: 認知症グループホームの介護職に対する倫理観の確立を目指す研修パッケージの開発, R2~R4, 学術研究助成基金助成金基盤 (C)

牧野真弓, 加藤真由美, 吉江由加里, 松本智里, 正源寺美穂, 泉キヨ子: 認知症患者へ身体拘束を回避した転倒予防ケアを行う看護師チームメンタルモデルの構築, R2-5, 学術研究助成基金助成金基盤 (C)

6.7.2 学内研究助成費

本学専任教員が行う「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を発展させることを目的とする。

今井秀樹: 高齢化が進む地域に居住する住民の健康状態を決定する様々な要因とその複合影響の検討, R3, 学内研究助成

岩佐和夫: 筋細胞内オルガネラにおける免疫制御因子発現調整機構の解明, R3, 学内研究助成

牛村春奈: 在宅Parkinson病療養者の低栄養状態予防に向けた舌・咀嚼機能と接種栄養に関する研究, R3, 学内研究助成

大橋史弥, 紺家千津子: サーモグラフィを用いた褥瘡再発の予想妥当性と累積褥瘡再発率の分析, R3-R4, 石川県立看護大学 学内研究助成

高井ゆと里: 「同意」概念の哲学的基礎付け, R3, 学内研究助成

高井ゆと里: トランスジェンダー対象の医療兼研究に係わる倫理的課題の析出と検討, R3, 学内研究助成

平居貴生: 生物時計システムと骨代謝の昨日連関に関する基盤研究, R3, 学内研究助成

平居貴生: Fibroblast growth factor (FGF21), R3, 学内研究助成

6.7.3 その他助成金等

1. 本学教員が研究代表者のもの

浅見洋: 日本エンドオブライフケア学会 市民委員会セミナー「言葉を知る:アドバンス・ケア・プランニング(人生会議)」, R2-R4, 公益財団法人 在宅医療助成 勇美財団 2020年度(後期)指定公募「市民の集い開催への助成」

石田元彦, 市丸徹, 大江真吾, 他4名: 障害者による粗飼料生産での機械利用とヒツジ生産を支援する技術開発, R3, 農研機構 生物系特定産業技術研究支援センター・イノベーション創出強化研究推進事業

牛村春奈, 林一美: 介護予防・生活支援事業対象者の咀嚼機能と摂取栄養素、栄養状態に関する研究, R3.8~R4.8, 公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 2021年度(前期)指定公募「在宅医療における食支援のための研究」

垣花渉，松下哲子，堂上愛華，中村朱里，森山未玖美，永草ひかる： 市民一人ひとりが自分にあつた健康づくりに取り組む，R3，大学コンソーシアム石川 地域課題研究ゼミナール支援事業
紺家千津子： ストーマップ監修業務，R3，遠隔看護支援協議会 受託事業
武山雅志，川島和代，今井秀樹： すず健やか事業実施効果検証事業，R3，受託研究
中嶋知世，紺家千津子，今井秀樹，他本学学生13名： 地域課題発掘枠No.4 たかまつまちかど交流館のさらなる活性化，R3，公益社団法人大学コンソーシアム石川
2021年度大学コンソーシアム石川地域課題研究ゼミナール支援事業

2. 他の研究機関に本学教員が分担者として参加しているもの

真田弘美，仲上豪二郎，高橋聡明，野口博史，小池武嗣，松本勝（他6名）： 高齢者看護ケア提供のためのAI技術等を活用した動作支援プログラムの開発研究，R3～R5，日本医療研究開発機構（AMED）長寿科学研究開発事業

7. 国際交流

7.1 国際交流委員会

委員長：桜井 志保美 准教授

委員：木森准教授、金谷准教授、松本勝准教授、高井講師、工藤講師、瀧澤助教、室野助教

事務局：宮川専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

前年度は、コロナ禍の影響を受け、海外研修、米国からの教員の招へいが実現できなかった。今年度も同様の影響が予想される。海外渡航、対面での研修の実現が不可能な場合は、学生の異文化理解を深め、学生及び教員の語学力の強化を図るために、遠隔技術を用いたネイティブの教員や学生との交流の機会を確保する。

<今年度の目標・年度計画>

1. 海外渡航が可能となった場合には、希望者を募りアメリカ、タイへの国際看護演習を再開し、学生の異文化理解や海外における保健医療福祉活動の理解を深める。
2. 日本在留の海外留学生等との交流の機会を確保し、学生の異文化理解を深める。
3. 国際コミュニケーション力に着目し、状況に応じて招へいやオンライン等方法を検討しながら、ネイティブの教員を活用し外国語講座を開講する等、国際的に活躍できる人材を育成する。
4. 語学力習得支援の評価方法を検討する。

<今年度の活動実績・評価>

コロナ禍の影響で、海外研修・語学研修・講座・交流会はオンライン開催とした。

1. アメリカ国際看護演習は、オンラインによるアメリカ看護研修に変更し開講した。4名の学生が履修し、単位を修得した。タイ国際看護演習は、現地研修ができず代替えとして、短期間のオンラインによるタイ看護研修（2日間）を企画したが、申込者はいなかった。
2. 学生向け語学講座は、昨年から引き続き業者による英語講座（初級コース2名、中級コース4名）、及びネイティブの講師による韓国語講座（入門コース5名、経験者コース4名）を7月から月2回通年で開講した。語学力習得支援について、文部科学省「読むこと」「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の4項目※、5段階評価を受講前後に実施し、支援効果を評価した。
※文部科学省実施英語力調査の4技能を参考（学長企画・法人本部事業教育特別活性化事業に応募し採択、2022年度応募中）
3. 米国からの教員の招聘は、世界的なコロナ禍のため実現できなかったが、イリノイ大学シカゴ校のA・ドーレンボス教授によるオンライン講義を開講した。
 - 1) 教員・大学院生向け講義「Responding to COVID and the Future of Nursing」を8月18日（水）8:00-9:30に開催した。60名以上が参加し、講義の中でアメリカのコロナ対応の実際が紹介され、今後の看護研究について活発な議論が行われた。
 - 2) 学部科目「国際看護演習I」のアメリカ看護研修の事前準備セッションを8月27日（金）8:00-9:30に、履修者4名が参加、教員4名がサポートを行った。ドーレンボス教授およびイ

リノイ大学大学院生のM・フリトナー氏からイリノイ大学の看護学生の学修の様子が紹介され、意見交換がなされた。(学長企画・法人本部事業教育特別活性化事業に応募し採択、2022年度応募中)

4. International Caféは、石川県タイ友好協会の協力を得て3月に留学生との交流会を企画している。

<次年度以降に向けた課題・発展>

国際コミュニケーション力に着目し、教員招聘やオンライン等の多様な方法を検討しながら、ネイティブの教員を活用し外国語講座を開講する等、学生及び教員の語学力の強化を図る。国際研修及びInternational Caféを継続し、異文化理解を深める。対面形式での開催が難しい場合は、積極的にオンラインを活用し、国際交流する機会を確保する必要がある。

7.2 アメリカ看護研修

初めて、オンライン国際看護研修を開催し、2年生2名、4年生2名の参加があった。最終日には、オンラインでの視察、講義などの学びを学生一人一人が英語で発表し研修を終えた。研修後アンケートでは、研修内容について、「満足した」、「有意義であった」と全員が回答していた。

日 程：8月30日-9月4日（6日間）8:30-11:30（現地時間8月29日-9月3日16:30-19:30）

方 法：オンライン

内 容：

- ・ワシントン大学看護学部シュミレーションセンター研修、看護学部生とのQ&A
- ・ワシントン大学看護学部准教授 上月頼子先生による講義
「アメリカの保健・医療制度や看護教育、ナースプラクティショナーの役割について」
- ・Harbourview Medical Center オンライン研修
- ・チルドレンズホスピタル 日本人ナースによる看護オンラインセミナー
- ・ニッケイマナー オンライン研修 ※ 軽介護施設での高齢者看護ケアについて学ぶ
- ・ワシントン大学の教員によるEnglish Lesson（80分のレッスンを5回）
- ・プレゼンテーション(学びの発表)と修了証の授与

8. 地域創生

8.1 地域創生委員会（能登キャンパス構想班・COC+・グローバル人材育成班）

委員長：川島 和代 教授

委員：西田事務局長、垣花教授、平居教授、金子准教授、松本勝准教授、田村講師、
藤田特任教授

事務局：宮川専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

令和元年度から、グローバル人材育成、能登キャンパス構想推進協議会（主に能登祭りの環実行委員会）、COC+に関する事業等の活動を「地域創生委員会」に集約し、活動の効率化・スリム化を図った。令和2年度終了時点では、委員会運営の年度半ばではあったが、委員会メンバー構成が変更となり委員会の運営が円滑となるよう実施する。また、本委員会が臨時委員会であり、今後の方向性について検討していく必要が課題であった。

<今年度の目標・年度計画>

令和3年度、本学では新型コロナウイルス感染症のため学生や教職員の地域活動の範囲をCOVID-19対策会議の方針を参考にしながら少しずつ拡充を図っていく予定であった。活動の一つである能登キャンパス構想推進協議会の事業の一つである『能登祭りの環』は、まつりの開催の動向を見ながら参加を検討する。感染状況の推移を見守りながら、大学コンソーシアム石川の産学官連携人材育成専門部会や能登キャンパス構想推進協議会等から事業等の情報収集を行い、教育研究審議会報告しながら、大学の運営方針に反映していただくこととした。

<今年度の活動実績・評価>

1) 委員会の開催

地域創生委員会は、4回（6月15日、8月4日、10月7日、3月4日）開催した。本委員会の今後の方向性として地域活動の支援や単位化をめざしてグローバル人材育成につなげることを主目的としているため、次年度からは地域ケア総合センター事業に吸収していくこととなった。

2) 能登キャンパス構想班（川島、平居、松本勝、田村、藤田）

協議会（年2回）と幹事会（年4回）、実行委員会（年4回）へ出席した。今年度7月には「祭り支援プロジェクト（能登祭りの環インターンシップ事業）」で本学が担当している能登町の矢波諏訪祭りは開催の中止が決まったため活動は休止した。その中で能登地区の病院紹介ブースや奥能登のさまざまなイベント紹介コーナーの更新を図った。

3) COCプラス・グローバル人材育成班（川島、垣花、金子）

大学コンソーシアム石川産学官連携人材育成専門部会（年4回）において委員長川島が副部長、審査委員を継続することとなった。今年度から「学都いしかわグローバルチャレンジプログラム」に本学のプログラムが承認されており、8月に学生への周知を図った。しかしながら、コロナ禍のため本学のグローバル・ヤングリーダー等、グローバル人材の育成には令和3年度も至らなかった。過去、本学においてグローバル・ヤングリーダー等の称号を獲得した卒業生

その後の活動を明かにし、本事業の効果を検証するためアンケートを実施した。称号獲得者の12名のうち4名からしか回答が得られなかったが、概ね前向きな回答であった。継続的な動向調査の方法を検討していく必要がある。

<次年度以降に向けた課題・発展>

本委員会は臨時委員会であったが、今期で本委員会の活動は終了し地域ケア総合センターの地域貢献部会に引き継ぐこととなった。

9. 附属図書館

9.1 図書館運営委員会

委員長：小林 宏光 教授（附属図書館長）

委員：米田教授、平居教授、今井美和教授

委員長補助：三輪助教

事務局：中村主幹、藤田専門員

図書館運営委員会は、書籍の購入、データベース等の契約、利用促進のための方策の検討など、本学附属図書館の運営に関する方針の検討を行っている。

令和2年度当初からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、附属図書館の開館時間の見直し、同時入館者数の制限、館内レイアウトの変更などを行い、感染予防と利用者の利便性をできる限り両立させるべく、感染状況に合わせた対応を行った。

この感染対策や通常の図書館運営に加え、図書館運営委員会としての主な活動として、

- ・2階閲覧スペースの改装
- ・医学中央雑誌の学外からのアクセスのための契約変更
- ・学生、教職員向けのデータベース利用研究会の開催

等を行った。

9.2 今年度の主な活動概況

9.2.1 図書館事業の実施

1. 文献検索データベース講習会の実施

- ・11月4日（木） 3年生対象 文献検索学習会

2. 企画・展示の実施

- ・1年生フィールドワーク 「命に関する絵本」展示

9.3 資料整備状況

資料整備状況（令和4年3月31日現在）（ ）内令和3年度受入れ数

コレクション別		総 数	内 訳	合 計
図 書	和書	54,741冊（406冊）	購入：653冊 寄贈：624冊 除籍：871冊	合計60,852冊 （441冊）
	洋書	6,111冊（35冊）	購入：8冊 寄贈：47冊 除籍：20冊	
雑 誌	和雑誌	503誌	継続購入99誌	合計 668誌
	洋雑誌	165誌	継続購入30誌	
新 聞	日本紙	6紙	—	7紙
	英字紙	1紙	—	
視聴覚資料	CD-ROM	163点（0点）	購入：0点	合計 2,426点 （25点）
	ビデオ	1,376点（0点）	購入：0点	
	DVD	770点（22点）	購入：22点	
	eBOOK	117点（3点）	購入：3点	

9.3.1 分野別蔵書構成（令和4年3月31日現在）

○総冊数：60,832冊

分類	0	1	2	3	4-480	49	N	5	6	7	8	9
標目	総記	哲学宗教	歴史	社会科学	自然科学	医学	看護学	技術・工学	産業	芸術	言語	文学
冊数	4,383	3,133	739	8,884	1,703	20,674	14,217	1,224	262	1,702	1,390	2,521

9.3.2 医学分類蔵書構成（令和4年3月31日現在）

○医学書（看護学を除く）の総冊数：20,674冊

分類	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499
標目	医学総記	基礎医学	臨床医学	内科学	外科学	周産期医学	耳鼻咽喉科	歯学	公衆衛生学	薬学
冊数	1,631	3,134	1,499	6,760	2,097	979	125	122	4,100	227

9.3.3 看護系資料分類別構成（令和4年3月31日現在）

○看護学関係図書の総冊数：14,217冊

分類	N0	N1	N2	N3	N4	N5	N6	N7	N8	N9
標目	看護総記	看護理論	看護実践	母性看護	小児看護	成人看護	老年看護	精神看護	地域家庭看護	状態別看護
冊数	2,430	992	3,764	702	468	1,844	587	366	1,960	1,104

9.4 利用統計

9.4.1 開館日数・入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	24	18	26	25	23	23	26	24	23	19	20	20	271
入館者数	1,621	1,050	2,626	2,231	1,803	1,568	2,534	2,518	2,413	1,951	1,192	464	21,971
1日平均	68	58	101	89	78	68	97	105	105	103	60	23	81

9.4.2 館外利用者数及び冊数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
学生	人数	146	56	119	115	94	202	308	236	165	199	48	23	1,711
	冊数	290	118	209	218	198	516	850	555	432	562	91	55	4,094
院生	人数	33	27	27	20	29	15	16	20	24	38	33	14	296
	冊数	91	80	76	58	76	37	46	37	85	76	73	41	776
教職員	人数	33	19	25	23	24	28	26	25	13	14	10	16	256
	冊数	90	48	73	61	86	73	98	82	49	27	23	47	757
一般	人数	0	0	0	0	1	2	0	0	2	14	16	8	43
	冊数	0	0	0	0	1	3	0	0	6	44	32	20	106
計	人数	212	102	171	158	148	247	350	281	204	265	107	61	2,306
	冊数	471	246	358	337	361	629	994	674	572	709	219	163	5,733

9.4.3 他大学・国立国会図書館・公共図書館への文献複写依頼件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	6	3	1	4	18	8	1	10	3	1	13	5	73
学生	20	51	29	19	27	35	12	22	3	7	18	6	249
一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	26	54	30	23	45	43	13	32	6	8	31	11	322

9.4.4 他大学・公共図書館・個人からの文献複写受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	6	7	24	6	18	22	0	6	6	9	21	5	130
学生	34	51	36	38	64	50	25	29	27	20	29	20	423
一般	8	4	4	0	10	2	5	0	2	1	0	4	40
計	48	62	64	44	92	74	30	35	35	30	50	29	593

9.4.5 館内設置コピー機による複写件数・枚数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	34	26	14	19	39	27	42	25	11	7	7	4	255
枚数	596	382	295	246	986	450	437	314	114	40	39	38	3,937

9.4.6 相互貸借貸出冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
公共	20	10	23	9	12	11	8	3	5	4	10	5	120
大学	0	3	1	3	1	0	7	7	1	2	2	4	31
合計	20	13	24	12	13	11	15	10	6	6	12	9	151

9.4.7 相互貸借借受冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
公共	164	121	125	156	152	103	147	113	14	11	5	8	1,119
大学	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
合計	164	123	126	156	152	103	147	113	14	11	5	8	1,122

9.4.8 データベース利用状況

○洋雑誌：Nursing & Allied Health Premium (ProQuest社) (検索件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	30	30	53	63	24	12	11	12	18	29	85	35	402

○和雑誌：メディカルオンライン (メテオ社) (ダウンロード件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	1,128	1,115	653	745	784	488	660	1,019	899	556	405	614	9,066

9.5 利用者サービス

9.5.1 学内向図書館サービス

新入生、新任教職員等を対象に、図書館の利用方法等について説明した。

実施時期	対象者・内容	参加人数	内 容
4月 6日 (火)	院生説明会	約30名	新システムの概要説明
4月 7日 (水)	新入生ガイダンス	約90名	図書館の使い方 新システムの概要説明
7月14日 (水)	感染管理認定看護師 図書館ガイダンス	約40名	図書館の使い方
10月20日 (水)	認定看護管理者 図書館ガイダンス	約30名	図書館の使い方
2月 8日 (火)	卒業研究ガイダンス (3年生)	約80名	館内文献複写依頼方法 他大学への文献複写依頼方法

9.5.2 学外向図書館サービス

日 時	名 称	対 象	内 容
7月10日 (土)	オープンキャンパス	高校生、父兄	Webによる図書館紹介
9月11日 (土)	オープンキャンパス	高校生、父兄	Webによる図書館紹介

9.5.3 学内で利用できるデータベース

	内 容	同時 使用
最新看護索引web	看護分野に限定した雑誌文献情報データベース。「日本看護学会論文集」平成23年度(第42回)より、電子版を掲載。全10領域の「論文集(電子版)」を閲覧・ダウンロードできる。収録件数、約20万件、収録誌数812誌。更新頻度月1回。	3
PubMed	医学分野の代表的文献情報データベース。米国NLM作成。医学・歯学・生命科学関係の4,800誌以上の雑誌から収録。収録データ数約1,600万件。	フリー アクセス
メディカルオンライン	医学文献の検索をはじめ、医薬品・医療機器・医療関連サービスの情報を幅広く提供。	フリー アクセス
Nursing & Allied Health Premium	看護・保健・医療分野の文献情報データベース。550誌以上の専門誌が対象。データ数1万件以上。(ProQuest社)	フリー アクセス
医学中央雑誌	日本国内の医学・歯学・薬学及び関連分野の文献を網羅した文献情報データベース。収録誌数約5,000誌。収録件数約630万件。	フリー アクセス
JDreamIII	日本国内の科学関連分野の文献を網羅した総合抄録誌のインターネット版。医学・薬学領域予稿集全文DB。収録約5,200万件。	2
Nii、CiNii (国立情報学研究所)	国立情報学研究所主宰の資料検索、学術雑誌文献検索、研究成果論文検索等を収録した総合検索システム。 (主宰：国立情報学研究所)	フリー アクセス
ELSEVIER Science Direct	購読タイトル(9誌)の2007年以降に出版された論文全て。購読誌「Applied Nursing Research」他9誌 サブジェクト・コレクションの論文すべて 対象サブジェクト：Nursing and Health Professions	フリー アクセス

9.6 職員研修

9.6.1 附属図書館職員の研修

日 時	場 所	名 称	内 容	参加者名
6月28日(月)	Zoom	公立大学図書館協議会総会	業務報告・決算報告 予算承認等	藤田 一彦
7月16日(金)	Zoom	図書館実務講習会	図書館に関する著作 権法の改正について	明翫 賢悟 浅井千鶴代
10月12日(火)	Zoom	公立大学協会図書館協議会 東海・北陸地区会議	事業進捗報告 ローテーション確認 活動予定と現状	藤田 一彦

10. 附属地域ケア総合センター

10.1 地域ケア総合センター運営委員会

委員長：牧野 智恵 教授（附属地域ケア総合センター長）

委員：塚田教授、平居教授、中道准教授、寺井講師、竹田特任講師

事務局：河端教務学生課長、宮川専門員

開催頻度：年6回開催

活動内容：

運営委員会は隔月第3木曜日に開催し、人材育成、地域活動、国際貢献の3部会の審議事項・報告、大学コンソーシアム石川の地域連携専門部会の議案の検討、かほく市と石川県立看護大学の包括的連携に関する議案を元に検討した。また、中期計画における年度計画に基づき、専門部会長間で、令和4年度事業について検討し、令和4年度センター事業の採択基準、評価内容を再検討し、5年以上の継続事業については、外部との共同実施を進め、新しい事業の応募を優先した。

1. 今年度のセンター事業は、COVID-19（新型コロナウイルス）による感染拡大予防を徹底し、実施会場の広さ、参加者数の制限、リモートと参加者をあわせたハイブリット形式での実施等を検討した。その結果、人材育成事業として予定していた8事業すべて、地域連携・貢献事業として12事業のうち10事業、国際貢献事業としては1事業実施した。

2. 国際貢献事業として、「JICA日系研修」「JICA草の根技術協力」が予定されていたが、そのうち「JICA日系研修」のみの実施となった。世界的にCOVID-19（新型コロナウイルス）による感染が蔓延している状況であり、昨年同様、パラグアイから研修員を本学に招くことはできず、12時間時差のあるパラグアイ（アマンバイ、ピラホ、アスシオン）と、Zoomテレビ会議システムを用いて開催した。その結果、研修参加者は5名であったが、これまでに研修に参加した経験のある日系ブラジルの人がサポートとして参加してくださり、報告会では、活発な意見交換が行われた。

「草の根技術協力事業」については、コロナ禍の状況の中で、実現できる方法についてJICAとコンサルテーションを受けつつ検討した。2022年度秋からスタートできるチーム編成を行い、計画書を修正した。

3. 大学コンソーシアム石川の地域連携専門部会では、今年度から新たに「石川未来プロジェクト」が始まり、県内の様々な大学の学生が、「2050年における石川県の、人口100万人」を未来テーマとし、17名3グループによる提言とディスカッションが行われた。2022年1月には報告会が行われ、本学からも2名の学生が参加した。

また、地域共創支援枠へは、垣花教授のゼミによる「市民一人ひとりが自分にあった健康づくりに取り組む」、地域課題発掘枠へは、中島助教のゼミによる「たかまつまちかど交流館のさらなる活性化」が採択され、2022年2月26日に学生による発表が行われた。今年度は優秀賞の受賞はかなわなかった。

4. 令和3年度は、かほく市が事務局を勤め、かほく市との包括的連携協定締結に係わる協議会を2回開催した。今年度は新型コロナウイルスによる感染拡大予防の観点から中止とせざるを得ない事業が目立った。しかし、感染予防対策を講じ、参加者を制限するなどの工夫によって、

予定の9割の事業を実施することができた。

10.1.1 人材育成部会

部会長：寺井 梨恵子 講師

委員：金子准教授、千原助教、竹田特任講師

事務局：宮川専門員

開催頻度：随時

活動内容：

人材育成事業として8事業を実施した。相談サービス事業としては病院、行政、職能団体、福祉・高齢者関係の任意団体より研修会講師や看護研究指導の依頼があった。いずれの事業もCOVID-19新型コロナウイルスによる感染拡大の影響を受けたが、時期の変更やオンライン開催やハイブリット開催等の工夫によって、予定事業全ての実施が実現した。

平成30年度から応募のある能登北部地区の医療・介護職、行政職を対象に専門職研修が実施された。「在宅療養移行支援を推進するための看護管理の再考」のテーマで、能登北部地区の病院や本学をZoomでつないだ。第1回は「最期まで能登のこの街で生きたい」と題して講演会が、第2回は「つながる・ささえる・つくりだす在宅療養移行支援システム」と題してシンポジウムが開催された。

令和4年度も引き続き、能登北部地区を対象とした事業への支援、テーマの拡充、専門職を対象とした本学教員主催の研究会・事例検討会等への事業支援を行う。

10.1.2 地域活動部会

部会長：塚田 久恵 教授

部会員：今井秀樹教授、垣花教授、木森准教授、竹田特任講師

開催頻度：随時

活動内容：

本年度は、いずれの事業も新型コロナウイルス感染症による感染拡大の影響を受けたが、時期の変更や開催方法等の工夫によって実施することができた。

地域連携・貢献事業の地域連携事業は、12事業を計画していたが、2事業を中止、10事業を実施した。ワンストップサービス事業については依頼がなく、実施していない。

かほく市いきいきステーションの協力を得て実施している地域活動部会員等による地域公開講座「いきいき世代とつくる健康教室」は、9月から4回実施した。1回あたり9～17名の参加があり、かほく市民に健康に関する本学教員の知見を還元した。次年度の企画についても、地域住民のニーズを参考にし、企画をしていきたい。

10.1.3 国際貢献部会

部会長：中道 淳子 准教授

部会員：牧野教授、塚田教授、平居教授、曾山講師、竹田特任講師、室野助教、額助教、
中嶋助教

事務局：宮川専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

- ・日系研修においては、新型コロナウイルスの影響で研修員が来日できる体制が整えられない。
- ・パラグアイ・ピラポ日本人会をパートナーとしたJICA草の根技術協力事業「日系社会における高齢者の介護予防活動を支援するプロジェクト事業」が令和元年度に採択されたが、実施の目途が立っていない。
- ・JICA青年研修（アフリカ）の新規応募の検討。

<今年度の目標・年度計画>

- ・JICA日系研修の実施可能性について引き続き羽咋市社会福祉協議会と検討する。
- ・研修員を受け入れる通常の形では実施できないため、日系研修は、遠隔研修を継続する。一方、青年研修では、今までアフリカから研修員を受け入れた経験がなく、今年度は応募しない。
- ・JICA草の根技術協力事業の計画についてコンサルテーションを受ける。

<今年度の活動実績・評価>

JICA日系研修は、昨年に引き続き遠隔研修を実施した。研修生5名は、アスンシオンから1名、アマンバイから2名、ピラポから2名が参加した。以前に研修に参加した研修生にも声をかけて移住地ごとのアクションプラン作成を行った。昨年度の研修から半年しか経っていなかったこともあり、コロナ禍での工夫点等についてもお互いに報告しながら、高齢者福祉活動の実施方法を模索することができた。

また、日系研修中に、ピラポ日本人会の幹部の方々と草の根支援事業を実施していくことの合意を改めて得た。

JICA草の根技術協力事業の計画についてコンサルテーションを受け、事業実施スケジュールを現状に即した内容に変更した。その後、JICA北陸の担当者との会議を経て、更なるスケジュール変更が必要であること、渡航回数を1回から2回に増やすこと、草の根支援事業の実質的なメンバーを決めること等の課題が明らかとなり、1つずつクリアできるように部会員で検討を重ねているところである。

<次年度に向けた課題・発展>

JICA日系研修に関しては、来年度も遠隔研修を引き続き実施することとなった。

JICA草の根技術協力事業「日系社会における高齢者の介護予防活動を支援するプロジェクト事業」の内容を現状に即した形に修正し、2022年9月の開始を目標に再度申請を行っていく。

11. 附属看護キャリア支援センター

11.1 看護キャリア支援センター運営委員会

委員長：林 一美 教授（附属看護キャリア支援センター長）

委員：石垣学長、西田事務局長

活動内容：

<今年度の目標・年度計画>

新型コロナウイルス感染症拡大にともなう教育課程の運営について、大学のコロナ対策措置に沿いながら、適切な教育課程の運営をおこなう。

<今年度の活動実績・評価>

教育課程の運営の判断・決定にあたり、3回の運営会議を開催した。主な内容は以下であった。

第1回会議：令和4年度「感染管理認定看護師教育課程」募集要項、入学試験体制について
令和3年度「看護管理者教育課程(サードレベル)」の開講について

第2回会議：令和4年度感染管理認定看護師教育課程」入学試験について
令和4年度教育課程開講について

第3回会議：令和4年度予算について

<次年度以降に向けた課題・発展>

新型コロナウイルス感染症拡大状況にともない、随時委員会開催をおこない迅速に課題に対応できた。感染症拡大は予断を許さない状況にあるため、今年度と同様に即時性のある委員会対応をしてゆきたい。

11.2 感染管理認定看護師教育課程

主任教員：池田富三香特任准教授

専任教員：江波特任講師、北川特任講師

<今年度の活動実績>

1. 令和3年度教育課程の実施

- 1) 開講期間：令和3年7月1日（木）～ 令和4年2月4日（金）授業時間：630時間
- 2) 履修生人数:44名（男性15名、女性29名）/出身：石川県内施設19名、石川県外25名

2. 令和4年度入試説明会

1) 令和4年度 入学試験実施

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の感染者数や重症者数の動向を鑑み、募集人員増員とした。一般35名に加え、さらに石川県からの要請を受け「石川県枠」10名を設けた。「石川県枠」は、石川県内の医療・介護施設等に勤務する出願要件とした。

入試説明会開催日：第1回 令和3年10月17日・第2回 令和3年11月13日

説明会方法：Web会議システム

<次年度以降に向けた課題・発展>

新型コロナウイルス感染症拡大状況下に応じた、対面・Webなどの教育方法の工夫しながら運営が行えた。履修生数増員に伴う教育環境についても大学内施設を活用しながら行えた。履修生増員に伴い、県下の実習施設数を5施設増加した。次年度も45名定員のため、今年度の経験を進展させて取り組む。

11.2.1 感染管理認定看護師教育課程入試委員会

委員長：林 一美 教授（附属看護キャリア支援センター長）

委員：石川准教授、池田特任准教授、江波特任講師、北川特任講師、
野田洋子（金沢医科大学病院）、青木雅子（富山大学附属病院）、
真鍋照美（福井赤十字病院）、鍛冶佳美（地域医療機能推進機構金沢病院）

活動実績：入試にともない2回の開催を行った。

11.2.2 感染管理認定看護師教育課程教員会

委員長：林 一美 教授（附属看護キャリア支援センター長）

委員：川島教授（学長補佐）、池田特任准教授、江波特任講師、北川特任講師、
飯沼由嗣（金沢医科大学病院）、小藤幹恵（石川県看護協会）、
中瀬美恵子（浅野川総合病院）、嶋田由美子（公立つるぎ病院）

活動実績：教育課程の開始・修了(判定)にともない2回の開催を行った。

11.3 認定看護管理者教育課程サードレベル

池田富三香 特任准教授、出口まり子 特任講師

<今年度の活動実績>

1. 令和3年度教育課程の実施

- 1) 開講期間：Ⅰ期：令和3年10月20日（水）～11月12日（金）/Ⅱ期：令和3年11月22日（月）～12月2日（木）/Ⅲ期：令和3年12月13日（月）～12月22日（水） 授業時間：180時間
- 2) 履修生人数：28名

<次年度以降に向けた課題・発展>

新型コロナウイルス感染症拡大状況下に応じた、対面・Webなどの教育方法の工夫しながら運営が行えた。感染管理認定看護師教育課程と同時開講は、教育時期が一部重なるため、講義室を大学と調整しながら行えた。次年度も、今年度の経験を進展させて取り組む。

11.4 認定看護師教育課程フォローアップ研修

<今年度の活動実績>

「withコロナ時代、期待される認定看護師の役割 ～次世代に繋ぐ人材育成アプローチ～」のテーマで2つの教育課程修了生に向けたフォローアップ研修を行った。

1. 令和3年度の実施

開催日時：令和3年10月23日（土） 14：00～17：00

参加人数：145名（認知症看護認定看護師87名、感染管理認定看護師58名）

<次年度以降に向けた課題・発展>

認定看護師としての共通テーマでの講演会の後、「感染管理認定看護師教育課程」と「認知症認定看護師教育課程」の分科会を開催した。今後もこのように2つの課程が合同で行えるように、センターは後方支援を行う。

11.5 石川県委託事業の開催

11.5.1 石川県看護教員現任研修事業

<今年度の目標・年度計画>

「With コロナ時代にいかに学生が自己学習能力を育むか」をテーマに、カリキュラム改正に向けて教育方法を開発することを焦点に企画・実施した。

<今年度の活動実績>

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催方法
6/5 (土)	10:00～ 12:00	アクティブラーニング型 授業設計と実践	石川県立大学 教授 小椋 賢治	Zoom
	13:00～ 15:00	ハイブリッド型授業の分類と特徴 オンライン授業の実際 ジクソ法ポスターツアーなど	司会： 石川県立看護大学 准教授 石川 倫子	
6/19 (土)	10:00～ 12:00	看護学生の汎用性能力を いかに育成するか	石川県立大学 教授 澤田 忠幸	Zoom
	13:00～ 15:00	多職連携教育の実際 －看護専門学校と薬学部－	大阪南医療センター 附属大阪南看護学校 藤尾 康子 司会： 金沢医療センター附属金 沢看護学校 副学校長 西村 民子	
9/4 (土)	10:00～ 12:00	看護師に求められる 臨床推論とその教育方法 －JNP（診療看護師）の教育に 関わった立場から－	大分県立看護科学大学 教授 藤内 美保 司会： 石川県立看護大学 准教授 石川 倫子	Zoom

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催方法
10/16 (土)	10:00 ~ 12:00	時代を見据えた 柔軟なカリキュラムの開発 —第5次指定規則改正内容と その意図—	石川県立看護大学 准教授 石川 倫子 桜井 志保美 司会： 浅ノ川学園 金沢看護専 門学校 山口 恵子	Zoom
	13:00 ~ 15:00	【シンポジウム】 地域・在宅看護論・在宅看護論実習 に求められる内容と方法	<シンポジスト> 金沢医療センター附属 金沢看護学校 教員 坂本 泰子 石川県立総合看護専門学 校 教員 網本 絹代 公立小松大学 教授 徳田 真由美 <座長> 石川県立総合看護専門学 校 副学校長 越野 まゆみ 石川県立看護大学 准教授 桜井 志保美	Zoom

11.5.2 専門的看護実践力研修「看護管理者経営研修」

<今年度の目標・年度計画>

地域包括ケア時代における看護管理者の役割を果たすうえでの知識を修得し、自らの行動を明確にする。

<今年度の活動実績>

日時	研修内容	講師
令和3年11月19日(金)		
10:00 ~	オリエンテーション 開講式	石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター 特任准教授 池田 富三香 石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター センター長 林 一美
11:00 ~ 11:40	石川県の看護の状況	石川県健康福祉部医療対策課 室屋 みゆき

日 時	研修内容	講 師
13:00～15:30	地域包括ケア時代における看護管理 とリーダーシップ①	石川県立看護大学 特任教授 丸岡 直子
11月20日(土)		
9:00～12:00	地域包括ケア時代における看護管理 とリーダーシップ②	石川県立看護大学 特任教授 丸岡 直子
13:00～16:00	組織における倫理的課題	常磐大学 特任教授 吉田 千文
12月4日(土)		
9:00～15:30	データを活用した看護管理 ー自部署の看護をデータでみる、 看護の質を保証するー 組織の課題達成に向けて ー組織分析の意義と手法ー	滋賀県看護協会 西村 路子
12月11日(土)		
9:30～12:00	看護管理上の課題達成にむけた戦略 ー交渉術ー	金沢医科大学病院 キャリア支援センター課長 高見 知世子
13:30～15:30	【公開講座】シンポジウム With コロナをたくましく生きる 創造的看護管理	司会 中西 容子(金沢市立病院 看護部長) 池田 富三香 金沢医科大学病院 副院長・看護部長 中村 真寿美 石川県立中央病院 看護部長 江藤 真由美 JCHO 山手メディカルセンター 看護部長 野村 仁美

11.5.3 専門的看護実践力研修「分野別実践看護師養成研修:皮膚・排泄ケア研修」

<今年度の目標・年度計画>

皮膚・排泄ケア看護に関する専門的知識、技術を身に付け、看護実践力の向上を図る。

<今年度の活動実績>

日 時	分 野	科目・講師
令和3年11月6日(土)		
9:25～9:55	-	看護の動向について
		石川県健康福祉部 医療対策課 管理・看護グループ主任技師 室屋 みゆき

日 時	分 野	科目・講師
10:00 ~ 10:55	Ostomy	泌尿器ストーマと失禁の管理
		金沢医科大学 氷見市民病院 泌尿器科 教授 森山 学
11:00 ~ 11:55	Wound	褥瘡のリスクアセスメント
		福井医療大学 保健医療学部 看護学科 教授 北川 敦子
13:00 ~ 13:55	Wound	創傷治癒と DESIGN-R2020
		石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
14:00 ~ 14:55	Wound	褥瘡の外科的・物理的療法
		金沢医科大学 名誉教授 南ヶ丘病院 院長 川上 重彦
15:00 ~ 15:55	Ostomy	ストーマケアの基礎
		石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
11月21日(日)		
9:00 ~ 9:55	Ostomy	消化器ストーマと術後管理
		金沢医科大学 一般・消化器外科学 准教授 藤田 秀人
10:00 ~ 10:55	Ostomy	ストーマ周囲皮膚障害のスキンケア
		金沢赤十字病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 小西 千枝
11:00 ~ 11:55	Ostomy	瘻孔管理
		小川医院 院長 小川 滋彦
13:00 ~ 13:55	Wound/ Ostomy	がん薬物療法時のスキンケア
		公立小松大学 保健医療学部 看護学科 教授 松井 優子
14:00 ~ 14:55	Wound	スキン-ケア
		石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
15:00 ~ 15:55	Wound	糖尿病のフットケア
		金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 大江 真琴
11月23日(火・祝)		
9:00 ~ 9:55	Wound	栄養管理とアセスメント
		芳珠記念病院 栄養管理室 管理栄養士 坂下 理香
10:00 ~ 10:55	Wound	体圧管理
		久藤総合病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山田 ゆかり
11:00 ~ 11:55	Wound	褥瘡のリハビリテーション
		あっとほーむな訪問看護ステーションやまと 理学療法士 神野 俊介

日 時	分 野	科目・講師
13:00 ~ 13:55	Wound	下肢の潰瘍のアセスメントとケア
		石川県済生会金沢病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 細田 夕子
14:00 ~ 14:55	Wound	スキンケアとドレッシング材の選択
		JCHO 金沢病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山下 美樹
15:00 ~ 15:55	Continenence	IAD（失禁関連皮膚炎）とスキンケア
		金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 大桑 麻由美
12月5日（日）		
9:00 ~ 9:55	Continenence	失禁対策
		公立松任石川中央病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 遠藤 瑞穂
10:00 ~ 10:55	Wound	MDRPU（医療関連機器圧迫創傷）
		金沢赤十字病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 小西 千枝
11:00 ~ 11:55 13:00 ~ 13:55	Wound	褥瘡のケア計画
		皮膚・排泄ケア認定看護師 山田 ゆかり、小西 千枝、遠藤 瑞穂、細田 夕子、 紺家 千津子
14:00 ~ 14:45	Wound/ Ostomy/ Continenence	ICT を活用した創傷ケアの潮流
		石川県立看護大学 教授 紺家 千津子

<次年度以降に向けた課題・発展>

石川県委託事業については、今後も石川県と連携を図りながら、看護キャリアの支援に貢献する。

11.5.4 看護実践力向上研修「感染管理看護実践力向上研修」

<今年度の目標・年度計画>

感染管理について専門的看護実践能力を身につけ、感染防止対策の中心的な役割を担うことができる看護師を育成する。

<今年度の活動実績>

令和3年度 感染管理看護実践力向上研修				
開催日	時間	テーマ	内容	担当
第1日 6月3日(木) 「Zoom」による オンライン 研修	9:00 ～ 9:50	オリエンテーション	受講方法 オリエンテーション Zoomの活用方法	看護キャリア支援センター 教員 池田 富三香
	9:50 ～ 10:00	開講式	開講式のあいさつ	看護キャリア支援センター センター長 林 一美
	10:00 ～ 10:50	看護の動向と看護政策	看護の動向と我が国の 看護政策について	石川県健康福祉部 医療対策課 室屋 みゆき
	11:00 ～ 11:50	感染管理における施設 の役割	我が国における感染管理 病院感染管理組織とシ ステム 感染管理推進のための 方策	看護キャリア支援セン ター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 江波 麻貴
	13:00 ～ 15:40	病院感染管理におけ る ICT の役割と機能	① ICD の立場から ② 薬剤師の立場から ③ 細菌検査技師の立場 から ④ 感染管理認定看護師 及びリンクナースの立 場から	金沢医科大学病院 感染対策チーム 医師 飯沼 由嗣 薬剤師 多賀 允俊 細菌検査師 河村 佳江 感染管理認定看護師 野田 洋子
	15:50 ～ 16:30	自施設の感染管理組 織とシステム (グループワーク)	① 自施設の感染管理組 織とシステムを把握 し、他施設の状況も知 る ② 自施設の問題点を抽 出できる	演習支援メンバー： ○ 江波 麻貴、北川 洋子、 池田 富三香、野田 洋子

開催日	時間	テーマ	内 容	担 当
第2日 6月4日(金) 「Zoom」による オンライン 研修	9:00 ～ 9:45	感染防止技術の基本	標準予防策と経路別予防策	看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 江波 麻貴
	9:55 ～ 10:55	感染管理に活かす微生物学の知識	微生物の基礎的知識 感染管理上重要な病原微生物の種類と特徴 微生物検査	石川県立高松病院 ICMT 新川 晶子
	11:05 ～ 12:05	職業感染防止対策	針刺し、切創、血流体液曝露対策 流行性感染症対策	看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 北川 洋子
	13:00 ～ 14:30	感染防止対策の実際	看護ケアにおける感染防止 洗浄消毒滅菌と環境管理	看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 江波 麻貴
	14:40 ～ 16:10	感染管理に活かす感染症学の知識	感染症のメカニズム 市中感染と医療関連感染 感染症診断の基本的プロセス・抗菌薬の使用と選択基準	金沢医科大学病院 ICD 飯沼 由嗣
第3日 6月11日(金) 「Zoom」による オンライン 研修	9:00 ～ 10:00	医療器具・処置関連感染防止対策①	尿路感染防止対策 血流感染防止対策	看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 北川 洋子
	10:00 ～ 10:30	医療器具・処置関連感染防止対策②	医療関連肺炎防止対策	石川県立中央病院 感染管理認定看護師 松澤 麻里
	10:40 ～ 11:30	医療器具・処置関連感染防止対策③	手術部位感染防止対策	金沢医科大学病院 感染管理認定看護師 日向 千恵子
	12:30 ～ 13:50	病院感染防止対策	アウトブレイク対策について	石川県立中央病院 感染管理認定看護師 松澤 麻里
	14:00 ～ 16:30	病院感染防止対策演習	病院感染事例の対策について 演習問題をグループワーク	演習支援メンバー： ○北川 洋子 江波 麻貴 松澤 麻里 日向 千恵子

開催日	時間	テーマ	内容	担当
第4日 6月12日(土) 「Zoom」による オンライン 研修	9:00 ～ 10:00	医療関連感染サーベイランス概論	サーベイランスとは サーベイランス種類と 方法 感染率・使用比の算出 とベンチマーク サーベイランスデータ 活用	看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師教育 課程 専任教員 江波 麻貴
	10:00 ～ 12:00 GW	自施設の感染管理 改善計画作成①	自施設の感染管理上の 問題点を明確化し 改善計画を立案する	演習支援メンバー： ○江波 麻貴 北川 洋子 池田 富三香 松澤 麻里 日向 千恵子 池田 恵子 嶋田 由美子 鍛冶 佳美
	13:00 ～ 16:00 GW	自施設の感染管理 改善計画作成②	グループで一つの改善 課題を選定し計画を立 案する	
	16:00 ～ 16:20	閉講式	閉講のあいさつ 修了証書授与	看護キャリア支援センター センター長 林 一美

11.6 地域貢献

<今年度の目標・年度計画>

地域の機関からの依頼による地域貢献の役割を果たす。

<今年度の活動実績>

氏名	テーマ	主催者名	場所・機関	年月日
北川 洋子	講義：在宅看護で求められる 新型コロナウイルスの感染 対策	石川県医療在宅 ケア事業団	石川県立看護大学 (オンライン)	2021. 5. 19
北川 洋子	講義：高齢者施設・在宅での 感染防止対策	富山県院内感染 対策協議会	富山県医師会館	2021. 11. 20
北川 洋子	講義：在宅における感染対策	富山県立看護大学 在宅看護学講座	富山県立大学外山 キャンパス	2021. 12. 22
北川 洋子	講義：地域連携で取り組む 感染予防対策	射水市民病院	石川県立看護大学 (オンライン)	2022. 1. 28
池田 富三香	講義：認定看護管理者教育 課程 ファーストレベル 人材育成の 基礎知識	石川県看護協会	石川県看護協会	2022. 11. 16

12. 大学として取り組んでいる連携事業

12.1 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

実施団体名

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

：金沢大学、金沢医科大学、福井大学、富山大学、信州大学、石川県立看護大学

概要

北信がんプロの実施内容として2017年より開始された事業である。

- 1) 6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース。
- 2) テレビ会議システムを発展させた、北信オンコロジーセミナー、事例検討会。
- 3) スタッフ研修として海外FD研修の実施。
- 4) 他のがんプロ拠点や、人材育成プログラムとも積極的に連携し、国際シンポジウム、合同シンポジウムの実施。
- 5) 市民啓発、がん教育活動の一環として患者会との連携や、北信4県の自治体、医師会、がん拠点病院と連携し、市民公開講座やシンポジウムの開催などである。本学は主に、大学院教育における、がん看護専門看護師の育成（本科生）と、インテンシブコースでの地域の医療従事者へのがんに関する知識・技術の普及である。特徴として、北陸、信州地域のがん関連病院をつないだテレビ会議システムを用いた事例検討会を実施し、がんに関心のある看護師の育成に努めることである。2022年度でこのプログラムは一旦休止となる。

12.1.1 がんプロ企画委員会

委員長：牧野 智恵 教授（附属地域ケア総合センター長兼）

委員：石垣教授（学長）、松本智講師、大江講師、今方助教、桶作助教、瀧澤助教

事務局：西田事務局長、森主幹、林専門員、岡山事務員

活動内容：

1. がん看護専門看護師（本科生）の育成

がんライフステージコース（履修期間2年）に2名の申し込みがあった。修了者は1名であった。

2. インテンシブコースによるがん看護の知識の普及実施・評価

以下の4つのコースへの募集および成績判定を行った。

①がんライフケアコース

看護師、薬剤師、医師、理学・作業療法士、ソーシャルワーカーを対象としたコースで、今年度は、受け入れ目標5名に対して、6名が申請した。

コース名	職種	受入目標人数						受入実績					
		H29	H30	R01	R02	R03	計	H29	H30	R01	R02	R03	計
がんライフステージ	看護師	0	2	2	2	2	8	0	1	3	2	1	7
がんライフケア	他職種	2	5	5	5	5	22	3	10	9	6	6	34

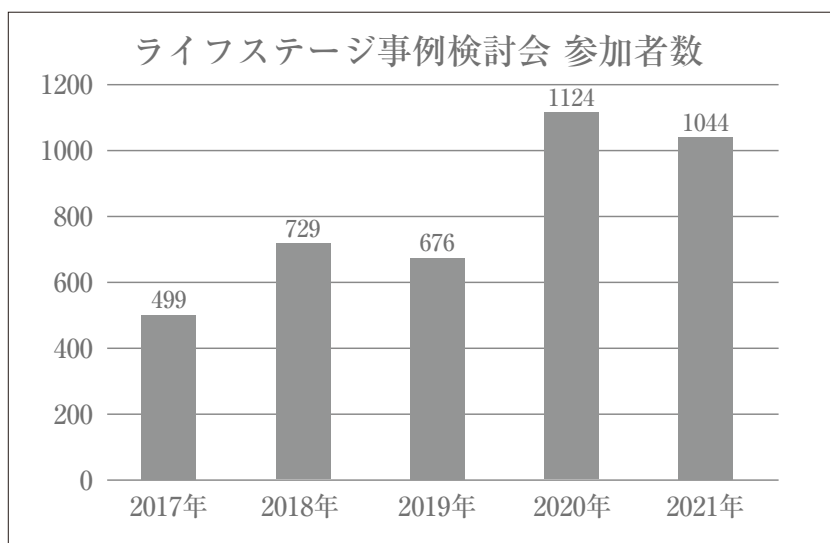
3. がんプロ企画の実施と評価

今年度は、2種類の事例検討会と、2つの公開講座を実施した。

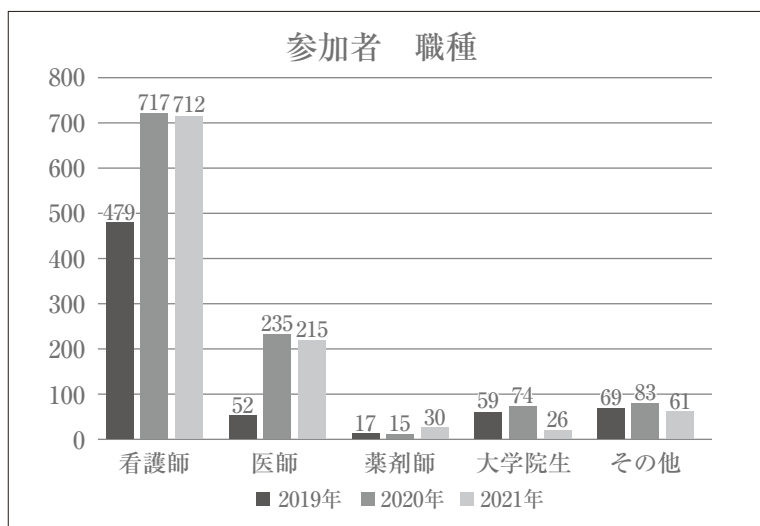
1) ライフステージ事例検討会およびCNS関係者によるがん看護事例検討会企画・評価

① ライフステージ事例検討会の実施

昨年度から、各病院が新年度から新型コロナウイルス感染拡大を予防する観点から、多数が集まる会議等中止し、個人のパソコンからも参加できるようにした。その結果、今年度の参加者は、計1044名（昨年度1124名）の参加者数となった。また、医師の参加者数は 215名（昨年度235名）で、医師からの質問も多く、効果的な事例検討会が開催できた。開催方法の変更が参加者数増加に大きく貢献できた。



事例検討会の参加者数の5年間の比較



事例検討会への職種別参加者数の過去3年間の比較

② がん看護専門看護師関係者による事例検討会

7月17日（土）および9月7日（火）にCNS関係者による看護事例検討会を開催した。

1回目は、新型コロナウイルスの感染拡大予防のため三密を回避した会場とオンラインでのハイブリット開催形式を採用した。2回目は平日夕方の開催であったため、

利便性を踏まえて完全オンライン開催とした。1回目の参加者は、計22名であった。がん看護CNSから事例提供があり、治療方針や今度の生き方に関する患者、家族、医療者の意見の相違に対して真剣に話し合われた。CNSが実践した方略について意見交換がなされ、多くの学びがあった。

2回目は今年度CNSを受験予定のCNS候補生から、事例提供があった。参加者は計18名であった。患者に寄り添った実践的な取り組みについて立場を超えて活発なディスカッションが行われた。CNSの専門性や経験に基づいた的確な助言もあり、有意義な会となった。

2) 「臨床で行なうリンパ浮腫のケア」〈基礎編〉および〈アドバンス編〉の企画・評価

本年度は、新型コロナウイルスによる感染拡大予防の観点から、基礎編は学内での対面参加者を制限し、ハイブリット型での開催とした。

①基礎編は9月23日(木)に、石川県済生会金沢病院の高地弥里さん(がん看護専門看護師)を講師として招き、本学にて実施した。当日は、65名の参加があった。

②応用編は、10月9日(土)に、高地弥里さんと、ナースソフィア(株) 訪問看護ナースソフィアにいかわの時山麻子さん(がん看護専門看護師)を招き、これまでの基礎編に参加した人の中から4名が参加した。この時期は、コロナの第5波の影響で参加者が少なかったが、セミナーの理解度・満足度は高く、「実践編ということで、自分がやってみないと分からない部分を知ることが出来て大変良かった」「実際に自身の患者さんとの関わり方、注意点などを再確認できるきっかけになった」などの意見をいただいた。今後も臨床でより役立つ研修となるよう、講師の方々とともに研修を実施していきたい。

3) 北信がんプロ合同市民公開講演会の実施評価：

11月22日(月)、北信がんプロの市民公開講座として、「がんサロンの活動を知ろう～コロナ禍でのがん患者支援の現状と課題～」を開催した。

第1部では福井県済生会病院メディカルカフェの車屋知美様(臨床心理士)、富山県がん総合相談支援センターの尾川洋子様(総括相談員)、がんとむきあう会・元ちゃんハウスの西村詠子様(理事長)、石川県がん安心生活サポートハウス・つどい場はなうめの木村美代様(看護師)、マギーズ東京の秋山正子様(共同代表理事)から、それぞれの活動とコロナ禍での活動の工夫についてお話しいただいた。

今回は、石川県立看護大学を本部とし、完全リモートで開催した。全国のがん体験者や医療従事者の約167名が参加し、がんサロンへの関心の深さが伺えた。

それぞれのサロンが、リモートをいち早く取り入れ、また、これまでになかった電話による相談を充実させていた。また、予約によって対面での相談を実施しているところもあった。

4) FD・SD市民公開講座の実施・評価

①7月17日(土)、石川緩和医療研究会との共催にて、「第27回石川緩和医療研究会」を完全リモートで開催し、石川県立看護大学の牧野智恵が当番世話人を務めた。71名の参加申し込みがあり、テーマへの関心の深さが伺えた。

第1部では緩和医療に携わっている医師や看護師からの研究報告、第2部では神戸大学医学部附属病院緩和と支持治療科の木澤義之特命教授による、「コロナ禍の状況における緩和ケア実践の現状とその対策」の講演をいただいた。

②3月10日(木) 英国のドロシーハウス・ホスピスとZoomによるオンラインシステムを

駆使し、「英国緩和ケアWEB研修」を開催した。当日は、第1部は、ドロシーハウスの紹介、スピリチュアルケアについて、第2部では、「コロナ禍における専門的緩和ケアの提供について、悲嘆と死別について講演とディスカッションを行った。17時～19時50分頃までであったが、108名の看護師、医師などからの申し込みがあり、有意義な意見交換が行われた。アンケートでは、「とてもよかった、よかった」が90%を占めていた。

外部報告

令和3年度事業報告書

外部資金

研究拠点形成費等補助金（がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン）

令和3年度北信がんプロ予算総額58,698千円（うち令和3年度 本学配分額）4,000千円

13. 大学施設の開放

実施年月日	内 容	参加 人数(人)
	新型コロナウイルスの影響により 施設開放を停止しているため、該当なし	

編集後記

令和3年度の石川県立看護大学年報が発刊の運びとなりました。平成12年（2000年）の開学年度からの発刊を積み重ね、今回は第22巻となります。本学教職員が日々取り組んだ教育、研究、地域貢献、学内運営の実績が記されています。

令和3年度も新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じながらの一年でした。当たり前となった対面とオンラインを併用しながらの講義、演習でありつつも、看護学実習では受け入れ施設の御理解と御協力のもと臨地での実習が叶うことも多くなり、受け入れ施設のご尽力に改めて感謝の念を抱きます。

春、大学では大きな変化がありました。令和3年度末をもって石垣和子学長が退任されました。11年の長きにわたるご功績はここでは言い尽くせませんが、石垣学長が創設された附属看護キャリアセンターの諸活動等がこの年報から多々お分かりいただけることと思います。そして、令和4年度からは真田弘美第4代学長が就任されました。真田学長率いる新生チームIPNUは、新たなステージに向かって日々邁進しております。今後の年報での報告をご期待ください。

本誌の編集にあたり、各委員会、附属施設の皆様から多大なるご協力をいただきましたことにお礼を申し上げます。また実質的な作業を担った外主事および前任の平村主任主事、中嶋委員、額委員の労を労いたいと思います。皆様のご協力に感謝申し上げます。

自己点検評価委員会 年報編集部会長 金子紀子

令和3年度 石川県立看護大学年報 第22巻
令和4年12月 発行

編集：石川県立看護大学 自己点検・評価委員会
年報編集部会

発行：石川県公立大学法人 石川県立看護大学
〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地
tel.076-281-8300 (代) fax.076-281-8319

「著作権は石川県公立大学法人に帰属する。」

(この冊子は、印刷用の紙へリサイクルできます。)